はじめに－調査の概要と調査方法について

1　調査の目的と概要

本調査は 2006 年 10 月に生活クラブ生協北海道の組合員に対して行われた。生活クラブ生協を対象とした調査研究は、1980 年代半ばから東京の生活クラブ生協を対象としたものが行われてきているが、地方都市における生活クラブ生協を対象とした調査や、班員だけではなく戸配組合員も含めた組合員調査はほとんどない。いわば「転換期」を迎えている生活クラブ生協の現在の姿と今後のあり方を考えるために企図されたものである。具体的には、組合員の生活クラブ生協に対する意識やかかわりについて、またさまざまな意識や行動についての実態を把握することを試みた。

2　調査方法

本調査の実施主体は、西城戸誠（法政大学）と角一典（北海道教育大学）であるが、調査票の作成（調査内容、調査項目の設定）にあたっては、専務理事である池内氏の他、「生活クラブ調査プロジェクト」として、現在の理事、理事経験者、職員の方との共同で行った。

調査票の配布については、組合員の個人情報の問題をクリアーするために、基本的に生活クラブ生協北海道の職員の方にお願いをした。調査当時（2006 年 10 月）段階では組合員の人数が 12291 名であり、支部別に 10%のランダムサンプリングを実施して、調査対象者を確定した（1230 名）。回収できたサンプル数は 683 であり、回収率は 55.5%であった。

在籍者データ・ランダム抽出データ・回収データについて、世代と組合員歴、班員・戸配組合員の別の違いを整理すると以下のようになる。表 1 は世代別のデータであるが、回答者の年代が 50 代と 60 代でやや高いことが分かる。表 2 は、組合員の組合員歴であるが、10 年以上の組合員歴を持つ組合員の回答に本データの偏りがあることが見いだせる。表 3 からは、本調査データが、戸配組合員が多いことが見いだせる。これらの点は本調査のバイアスであり、以下の分析の解釈にも一定の配慮が必要である。

表１　世代別の違い（在籍者データ・ランダム抽出データ・回収データ）

	在籍者データ	ランダム抽出データ	回収データ
10 代	0.1%	0.1%	0.0%
20 代	0.8%	0.8%	0.6%
30 代	12.6%	13.9%	13.1%
40 代	36.6%	33.7%	31.2%
50 代	37.0%	38.4%	41.7%
60 代	9.6%	9.8%	11.0%
70 代	3.3%	3.3%	2.4%
N	12291	1230	679

表２　組合員歴（回収データは延べ年数を利用）

	在籍者データ	ランダム抽出データ	回収データ
３年未満	20.0%	21.4%	14.8%
3-10 年未満	43.0%	41.5%	28.4%
10 年以上	37.0%	37.1%	56.8%
N	12376	1241	641

表３　班／戸配の区別

	在籍者データ	ランダム抽出データ	回収データ
班（大型班も含む）	57.5%	57.6%	45.0%（班 41.9%／大型班 2.3%／どちらか 0.7%）
戸配	42.5%	42.4%	55.0%
N	12377	1241	682

３　本報告書の構成

本報告書は、以下の通りである。

第１章では、本調査の回答者のプロフィールとして、回答者の基本的な属性を概観する。第２章では、生活クラブ生協への加入形態と加入動機を中心に分析をする。第３章では、生活クラブ生協北海道の班員と、戸別配送組合員（以下、戸配組合員）それぞれ別個に尋ねた調査項目について整理し、班員、戸別組合員の動向について分析をする。第４章では、組合員の購入行動と購入態度の特徴について、世代別、班員・戸配組合員別といった観点から分析を行う。第５章では、さまざまな生活クラブ生協の活動に対する参加度・評価を中心に、世代別、班員・戸配組合員別、組合員歴別、役職経験の有無といった観点から分析を行う。第６章では、組合員のさまざまな意識に関して、主に世代別の動向を概観する。

なお、調査実施から報告書の作成までに相当の時間がかかり、調査のご協力していただいた組合員の方、生活クラブ生協北海道の専務理事、職員、調査プロジェクトメンバーの方々には大変ご迷惑をおかけしたことを、お詫び致します。本報告書の内容は、調査内容の概要的なものが多く、生活クラブ生協北海道の現状や今後のあり方を考える基礎的な分析にすぎないかもしれませんが、お役に立てれば幸いです。今後も本調査のデータを分析しながら、生活クラブ生協に資する調査研究を行っていきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

2007 年 12 月

西城戸誠（法政大学人間環境学部）
角一典（北海道教育大学）

＊本研究は、2004～5 年度旭硝子財団における研究助成（代表者：西城戸誠）、2005～7 年度科学研究費補助金（代表者：西城戸誠）、2006 年度北海道教育大学学長裁量経費（代表者：角一典）、2007 年度科学研究費補助金（代表者：角一典）の成果の一部である。

第１章　組合員のプロフィール

本章では回答者のプロフィールを概略する。「はじめに」で述べたように、本データのサンプル数は683 であるが、それぞれの質問項目の中に欠損値（回答がないもの）が含まれているため、以下のすべての章の分析において、必ずしも回答数が 683 ではないことには留意されたい。

1.1　性別と世代

性別（問１）について回答があった者は全体で 681 名である。そのうち女性の組合員が 679 名（99.7 名）、男性の組合員が 2 名（0.3%）であった。なお、2 名の男性は戸配組合員である。回答者の年齢（問 2）の平均は、50.25 歳である。世代別に見ると、50 代が最も多く 41.7%であり、続いて 40 代が 31.2%、30 代が 13.1%、60 代が 11.0%、70 代が 2.4%、20 代が 0.6%である（図 1-1）。『2006 年度全国生協組合員意識調査報告書』（以下、日生協調査）の結果と比較すると平均年齢は 51.4 歳と変わりがないが、70 歳以上が 10.1%ある一方で、30 代以下が 20.7%、40 代が 22.7%、50 代が 27.1%であり、生活クラブ生協北海道が 40-50 代の層が相対的に多いことが見いだせる。また、70 代以上の高齢の組合員だけでなく、30 代以下の組合員も、生活クラブ生協北海道は少ないことが伺える。

図1-1　回答者の年齢（N=681）

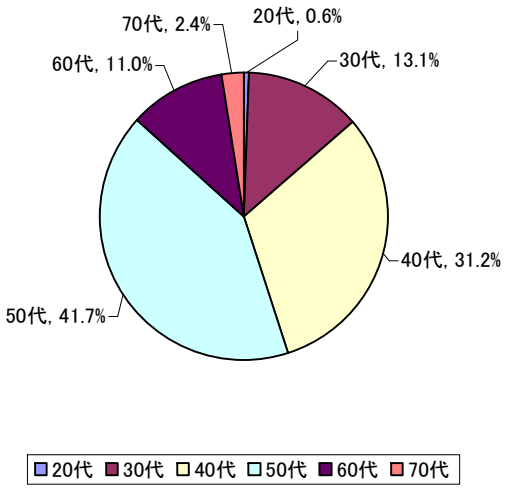
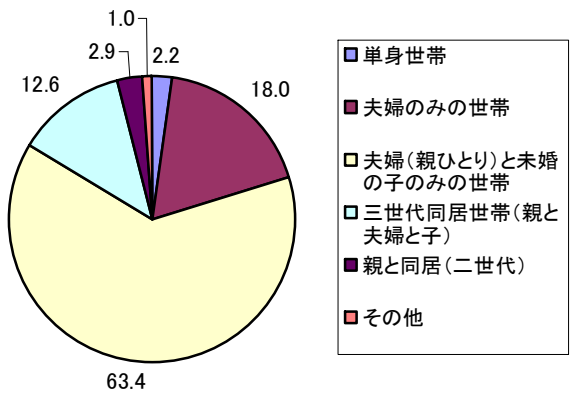


図1-2　世帯構成（N=628）



1.2　組合員の世帯構成

組合員の世帯構成（問 31）については、夫婦と未婚の子のみの世帯が 63.4%と圧倒的に多いことが分かる（図 1-2)。また世帯人数（問 30）の平均は、3.52 である。日生協調査でも 51%が夫婦と子どもからなる家族であり、平均家族人数は 3.32 となっている。生活クラブ生協北海道でも、子育て層を中心とした構成となっていることが分かる。なお、世代別に見ると（表 1-1)、夫婦と未婚の子のみの世帯は 30 代以下の組合員が 79.8%、40 代が 77.6%と 8 割近いが、50 代以上は 57.6%、60 代以上は 30.5%と下がる傾向にある。逆に夫婦のみの世帯は、30 代以下が 6.0%、40 代が 7.7%、50 代が 18.7%、60 代以上が 53.7%と世代を経るにつれて増加している。

表 1-1　世代別の世帯構成

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
単身世帯	1.2	2.0	2.7	2.4	2.2
夫婦のみの世帯	6.0	7.7	18.7	53.7	18.1
夫婦と未婚の子のみの世帯	79.8	77.6	57.6	30.5	63.3
三世代同居世帯（親と夫婦と子）	13.1	11.7	13.7	9.8	12.5
親と同居（二世代）	0.0	0.5	5.7	2.4	2.9
その他	0.0	0.5	1.5	1.2	1.0
合計	100.0(84)	100.0(196)	100.0(262)	100.0(82)	100.0(624)

値は%

1.3　組合員の学歴、職業形態・職種

組合員の学歴（問 32）については、世代が若いほど、高学歴化の傾向が見いだせる（表 1-2)。この点は日本全体の傾向と同様である。「日生協調査」では、中学・高校卒業までが 51%、短大・高等専門学校までが 31%、4 年生大学・大学院以上が 15%となっているが、生活クラブ生協北海道では短大・高等専門学校卒の回答者が相対的に多く、大学・大学院卒もやや多いという結果になっている。

表 1-2　世代別にみた回答者の学歴

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
中学	0.0	0.0	1.5	8.0	1.7
高校	18.9	19.3	33.8	51.7	29.5
専門学校	22.2	16.4	17.3	11.5	16.9
短大・高専	34.4	42.0	31.2	24.1	34.2
大学	24.4	20.8	15.0	4.6	16.8
大学院	0.0	1.4	1.1	0.0	0.9
合計	100.0(90)	100.0(207)	100.0(266)	100.0(87)	100.0(650)

セル内の値は%　$\chi 2=78.495$ d.f.=15 $p<.001$

次に、表 1-3 の職業形態（問 33）と世代との関係については、「仕事に就いていない」という割合が全体では 47.3%であり、これは「日生協調査」の結果（46%）と変わらない。世代別に見ると、生活クラブ生協北海道の回答者で「仕事に就いていない」という割合が、60 代以上と 30 代で顕著であるが、30 代については日生協調査では 46%であることを考えると、特に多いことが見いだせる。また、40 代、50 代についても日生協調査では、「仕事に就いていない」割合がそれぞれ 27%、35%であることを考えると、生活クラブ生協北海道の組合員は相対的に専業主婦の組合員が多いことも予想される。

一方、「パートタイマー・臨時雇用者」の割合は40代、50代が高い。これは日生協調査でも同様の傾向である。これらのことから、生活クラブ生協北海道の組合員も、30代が育児のために仕事に就かず、40代～50代はパートタイマーとして働き、60代以上は無職という、ライフコースに規定された職業形態になっていることが分かる。なお、ワーカーズ・コレクティブについては、40代～60代以上の回答者の中に少数であるが、関与しているという結果となった。

表1-3　世代別にみた回答者の職業形態

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
自営業主・自由業者・家族従業員	7.7	11.5	10.3	11.5	10.5
会社経営者・会社役員	0.0	1.4	3.3	1.1	2.0
常勤の雇用者	4.4	10.1	6.6	1.1	6.7
公務員	6.6	2.9	2.6	0.0	2.9
団体職員	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3
パートタイマー・臨時雇用者	16.5	40.9	26.5	9.2	27.4
ワーカーズ・コレクティブ	0.0	2.9	3.3	3.4	2.7
学生	1.1	0.0	0.0	1.1	0.3
仕事はしていない	63.7	30.3	46.7	72.4	47.3
合計	100.0(91)	100.0(208)	100.0(272)	100.0(87)	100.0(658)

セル内の値は%

最後に、回答者の中で有職者の職種については表1-4のような結果となった。世代による差が見られたのは、専門的職業　（保母、小学校・中学校・高校教員、看護士、栄養士など）であり、30,40代が比較的高く、50代以上とやや異なった傾向が見られる。その他、一部を除き、世代ごとにそれほどの職種の差は見られない。

表1-4　世代別にみた回答者（有職者）の職種

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
農林漁業従事者	3.1	0.7	0.0	0.0	0.6
事務的職業	18.8	21.0	24.6	4.5	21.2
販売的職業	12.5	11.9	16.9	13.6	14.2
サービス的職業	25.0	23.8	22.5	40.9	24.5
保安的職業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生産工程従業者	0.0	4.9	5.6	18.2	5.6
専門的職業Ⅰ	6.3	2.1	6.3	0.0	4.1
専門的職業Ⅱ	25.0	29.4	12.0	9.1	20.4
専門的職業Ⅲ	9.4	2.1	5.6	0.0	4.1
管理的職業	0.0	0.7	1.4	0.0	0.9
NPO・NGOのスタッフ	0.0	2.1	3.5	9.1	2.9
その他	0.0	1.4	1.4	4.5	1.0
合計	100.0(32)	100.0(143)	100.0(142)	100.0(22)	100.0(339)

セル内の値は%

ところで、職業形態については、「自営業主・自由業者・家族従業員」を＜自営業＞、「会社経営者・会社役員」「常勤の雇用者」「公務員」「団体職員」を＜フルタイム労働者＞、「パートタイマー・臨時雇用者（派遣・契約社員を含む）」「ワーカーズ・コレクティブ」を＜パートタイム等労働者＞、「学生」「仕事はしていない（専業主婦・退職者など）」を＜仕事をしていない方＞とカテゴリー化して以下では分析を行う。なお、調査票では回答者の配偶者の職業形態、職種も尋ねているが、調査票の設計ミスにより、正確な情報を把握することができなかった。

1.4　個人年収・世帯年収

組合員の個人年収（問 38）については、全体の 6 割が年収 100 万円未満となっている（表 1-5）。この点から専業主婦もしくはパートタイムの職につき、基本的には配偶者の収入によって生活をしていることが伺える。世代別に見ると、30 代以下は仕事をしていない組合員が多く、個人年収はなしが半数を超えている。40-50 代はパートタイマー・臨時雇用者としての収入があること、60 代以上は年金受給者であることなどから、個人年収ゼロの割合は少ない。

表 1-5　回答者の個人年収

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
なし	50.6	25.9	36.5	25.0	33.6
100万円未満	20.2	32.8	29.2	32.1	29.5
100万円～250万円未満	5.6	21.9	18.8	27.4	19.1
250万円～500万円未満	14.6	9.5	5.9	10.7	8.8
500万円～750万円未満	5.6	5.5	5.2	3.6	5.1
750万円～1000万円未満	2.2	3.5	3.3	0.0	2.8
1000万円以上	1.1	1.0	1.1	1.2	1.1
合計	100.0(89)	100.0(201)	100.0(271)	100.0(84)	100.0(645)

値は%

一方、世帯年収（問 39）について（表 1-6）見ると、世代が高いほど世帯年収が高い傾向にあるが、世帯年収のばらつきも目立つ。世帯年収が 1000 万円を超えている回答者が 2 割いる一方で、500 万円以下の世帯も 2 割に当たる。「日生協調査」の結果では、世帯年収が 1000 万円以上である世帯は全体では 11%、北海道・東北の生協に限ると 5%程度である。また、世帯年収が 200 万円未満である世帯が全体では 7%、北海道・東北では 10%、世帯年収 200-400 万円の世帯は全体では 24%、北海道・東北では 31%である。調査データのカテゴリーに差があるため、厳密な比較はできないが、今回の調査における生活クラブ生協北海道の組合員の回答者は、北海道の中では相対的に収入が高い層であることが示唆される。

表 1-6　回答者の世帯年収

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
なし	0.0	1.5	0.7	2.4	1.1
100万円未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
100万円～250万円未満	7.0	2.0	3.3	9.6	4.2
250万円～500万円未満	19.8	10.7	12.5	45.8	17.2
500万円～750万円未満	38.4	28.4	27.2	20.5	28.2
750万円～1000万円未満	24.4	36.5	28.3	8.4	27.7
1000万円～1250万円未満	5.8	11.7	13.2	3.6	10.5
1250万円～1500万円未満	2.3	3.6	4.8	3.6	3.9
1500万円以上	2.3	5.6	10.0	6.0	7.2
合計	100.0(86)	100.0(197)	100.0(272)	100.0(83)	100.0(638)

値は%

第２章　生活クラブ生協への加入形態と加入動機

本章では、生活クラブ生協への加入形態と加入動機を中心に分析を行う。

2.1　生活クラブ生協への加入形態ー班か戸配かー

生活クラブ生協への加入形態として、班か戸配かを尋ねたところ（問 6)、図 2-1 のようになった。「はじめに」でも述べたが、2006 年 10 月現在の戸配組合員は 42.5%であるが、本データでは 55.0%と全体の半数を超えていることには留意する必要がある。なお、大型班の回答者、班か大型班の回答者も、班組合員としてカウントして分析を行う。

一方、戸配組合員に対して、どのような経緯で戸配組合員になったのかという点を尋ねた（問 8)ところ、図 2-2 のような結果となった。最初から戸配の組合員である回答者は全体の 3 割である。その他は班員であった者が戸配に移動するパターンであるが、バリエーションが見られる。「以前は班に所属していたが脱退し、新たに戸配の組合員になった」（20.36%）、「班は存続していたが、戸配の組合員になった」（13.6%）と積極的に戸配組合員に移動した者がいる一方で、「班が事情によりなくなり、戸配の組合員になった」（35.3%）と戸配組合員に消極的な回答者もいる。一概に戸配組合員が増加しているわけではないことには留意する必要があるだろう。

なお、戸配組合員については、最初から戸配組合員以外のカテゴリーはまとめて、「元班員の戸配組合員」とし、回答者全体の分析に際して、「班員」／「元班員の戸配組合員」／「最初から戸配の組合員」という 3 つの類型を用いて分析を行う。

図2-1　班員の加入形態（N=682）

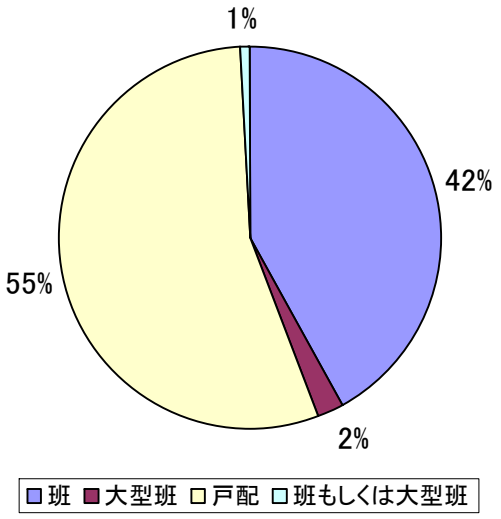
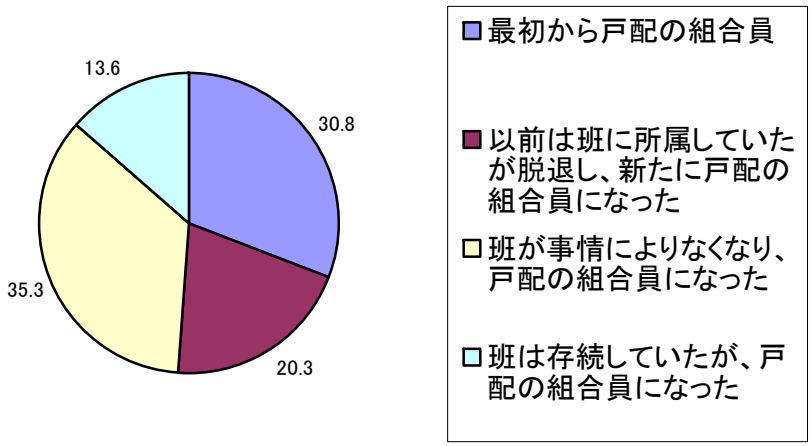


図2-2　戸配組合員の経緯（N=360）



2.2　班員／元班員の戸配組合員／最初から戸配組合員のプロフィール

1 章で生活クラブ生協の組合員の属性について概観してきたが、班員、元班員の戸配組合員、最初から戸配組合員の違いについて見ていこう。

（1）年齢・世代

表 2-1 は、世代別に見た班員、元班員の戸配組合員、最初から戸配組合員の割合を示したものである。「はじめに」でも述べたが、調査時における在籍者データから考えると、本調査の回答者は 50 代および戸配組合員が多いことが示唆されたが、表 2-1 の結果から、50 代の元班員の戸配組合員からの回答が多いことが分かる。

全体的な傾向を見ると、30 代以下では、最初から戸配組合員であるという回答が 4 割を超えている。確かに 60 代以上も相対的に最初から戸配組合員の割合が高いが、元班員も含めて、生活クラブ生協の班別共同購入の経験がある層が中心的な世代は 40 代以上であり、班と戸配という加入形態の世代間の差を見いだすことができるだろう。

表 2-1　世代別の生活クラブ生協北海道の加入形態

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
班員	39.1	51.3	41.9	35.6	43.5
元班員の戸配	19.6	34.2	48.0	41.1	39.4
最初から戸配	41.3	13.1	10.1	23.0	17.1
合計	100.0(92)	100.0(199)	100.0(277)	100.0(87)	100.0(655)

値は％　χ 2=62.853 d.f.=6 p<.001

なお、平均年齢については、班員が 49.71 歳、元班員の戸配組合員が 52.28、最初から戸配組合員が 47.05 歳となっている（一元配置の分散分析の結果、元班員の戸配組合員の平均年齢が他よりも高いことが統計的に有意になっている。F 値=14.008 d.f.=2 p<.0001）。

（2）世帯構成

表 2-2 は、3 つの加入形態別の世帯構成についてみたものである（表 2-2）。基本的に大きな差は見られないが、班員、元班員の戸配組合員、最初から戸配組合員の間で差が見られる点は、戸配組合員（元班員の戸配、最初から戸配）は、班員に比べて夫婦のみの世帯の割合が高いこと、最初から戸配組合員では、夫婦と夫婦の子のみの世帯の割合が低く、他の加入形態と比べて多様な世帯構成の組合員が見られることが分かる。

表 2-2　加入形態別の世帯構成

	班員	元班員の戸配	最初から戸配	全体
単身世帯	1.5	2.5	4.0	2.3
夫婦のみの世帯	14.9	21.0	19.8	18.1
夫婦と未婚の子のみの世帯	65.7	62.2	56.4	62.8
三世代同居世帯（親と夫婦と子）	16.4	9.7	11.9	13.0
親と同居（二世代）	1.5	3.8	5.0	3.0
その他	0.0	0.8	3.0	0.8
合計	100.0(268)	100.0(238)	100.0(101)	100.0(607)

値は％　χ 2=22.029 d.f.=10 p<.05

なお、世帯人数の平均は、班員が 3.74、元班員の戸配組合員が 3.39、最初から戸配組合員が 3.27 であり（一元配置の分散分析の結果、班員が他よりも世帯人数の平均が多いことが統計的に有意になっている。F 値＝8.550 d.f.= 2 p<.001）

（3）学歴・職業形態・職種

表 2-3 は、加入形態別に回答者の学歴を示したものであるが、最初から戸配組合員は上述したように 30 代以下の若い世代が多いため、高学歴の割合が高いことがわかる。

表 2-3　加入形態別の組合員の学歴

	班員	元班員の戸配	最初から戸配	全体
中学	1.1	2.4	0.9	1.6
高校	32.8	28.7	22.6	29.5
専門学校	17.5	13.5	21.7	16.6
短大・高専	31.0	39.8	30.2	24.4
大学	16.4	14.7	23.6	17.0
大学院	1.1	0.8	0.9	1.0
合計	100.0(274)	100.0(251)	100.0(106)	100.0(631)

値は%

表 2-4 は職業形態を示したものである。最初から戸配組合員については、仕事をしていない割合が高い。その一方で元班員の戸配組合員同様にフルタイムの仕事（会社経営者・会社役員、常勤の雇用者、公務員、団体職員）に就く人が班員よりも相対的に高い傾向にある。

表 2-4　加入形態別の組合員の職業形態

	班員	元班員の戸配	最初から戸配	全体
自営業主・自由業者・家族従業員	10.8	10.8	9.3	10.5
会社経営者・会社役員	0.4	3.2	2.8	1.9
常勤の雇用者	5.8	7.2	6.5	6.4
公務員	1.4	3.6	5.6	3.0
団体職員	0.0	0.8	0.0	0.3
パートタイマー・臨時雇用者	32.9	27.1	15.7	27.7
ワーカーズ・コレクティブ	4.0	2.0	1.9	2.8
学生	0.0	0.4	0.9	0.3
仕事はしていない	44.8	45.0	57.4	47.0
合計	100.0(277)	100.0(251)	100.0(108)	100.0(636)

セル内の値は%

表 2-5 は、職種を加入形態別にみたものであるが、班員と元班員の戸配組合員ではさほど変化がない。専門的職業Ⅱ（保母、小学校・中学校・高校教員、看護士、栄養士など）が、戸配組合員（特に最初から戸配組合員）の方が相対的に高いことが見いだせる。最初から戸配組合員はやや専門的な職種についている可能性があるが、サンプル数が少ないため断定はできない。

表 2-5　加入形態別の組合員の職種

	班員	元班員の戸配	最初から戸配	全体
農林漁業従事者	1.3	0.0	0.0	0.6
事務的職業	15.8	26.1	26.7	21.5
販売的職業	15.1	12.7	15.6	14.2
サービス的職業	30.9	19.4	15.6	24.2
保安的職業	0.0	0.0	0.0	0.0
生産工程従業者	6.6	6.0	0.0	5.4
専門的職業Ⅰ	3.3	5.2	4.4	4.2
専門的職業Ⅱ	18.4	21.6	24.4	20.5
専門的職業Ⅲ	3.9	4.5	2.2	3.9
管理的職業	0.7	0.7	2.2	0.9
NPO・NGOのスタッフ	2.6	3.0	4.4	3.0
その他	1.3	0.7	4.4	1.5
合計	100.0(152)	100.0(134)	100.0(45)	100.0(331)

セル内の値は%

（4）組合員の年収・世帯年収

表 2-6 は加入形態別の組合員の年収を示したものであるが、班員よりも戸配組合員の方が組合員個人の年収が高い人の割合がやや高い。最初から戸配の組合員は、年収が高い人の割合も多いが、年収がなしという人（専業主婦）という人の割合も高くなっており、最初からの戸配組合員がさまざまなライフスタイルを持つ人の集まりであることが示唆される。一方、表 2-7 は加入形態別の組合員の世帯年収を表したものであるが、戸配組合員の世帯年収が高い（1000 万円以上の割合の高さ）傾向も見られるが、全体的にはそれほど差がないといえるだろう。

表 2-6　加入形態別の組合員の年収

	班員	元班員の戸配	最初から戸配	全体
なし	35.9	26.4	43.5	33.4
100万円未満	35.9	31.2	12.0	29.9
100万円～250万円未満	17.4	23.2	14.8	19.3
250万円～500万円未満	6.7	8.0	15.7	8.8
500万円～750万円未満	2.6	5.6	8.3	4.8
750万円～1000万円未満	0.7	4.0	4.6	2.7
1000万円以上	0.8	1.6	0.9	1.1
合計	100.0(270)	100.0(250)	100.0(108)	100.0(628)

値は%

表 2-7　加入形態別の組合員の世帯年収

	班員	元班員の戸配	最初から戸配	全体
なし	0.0	0.8	3.8	1.0
100万円未満	0.0	0.0	0.0	0.0
100万円～250万円未満	2.6	6.1	3.8	4.2
250万円～500万円未満	21.2	12.7	18.3	17.4
500万円～750万円未満	30.8	24.6	26.9	27.7
750万円～1000万円未満	27.1	29.9	25.0	27.9
1000万円～1250万円未満	8.8	11.5	14.4	10.8
1250万円～1500万円未満	3.7	4.5	4.8	4.2
1500万円以上	5.8	9.9	3.0	6.8
合計	100.0(273)	100.0(244)	100.0(104)	100.0(621)

値は%

2.3　生活クラブ生協への加入歴（組合員歴）

生活クラブ生協への加入歴については、入退会を考慮し延べ年数でみると、最長で 32 年という組合員（最短は 1 年未満の組合員）がいたが、平均では 11.19 年である。10 年以上の加入歴を持つ組合員が 56.8%おり、これは日生協の調査の全国の組合員歴とほぼ同様である（60%）。また、同調査による北海道・東北地方の生協組合員で加入歴が 10 年以上の人は全体の 66%である。

表 2-8　世代別に見た組合員歴の違い

	30代以下	40代	50代	60代以上	合計
3年未満	45.5	10.3	9.2	10.7	14.8
3-10年	46.6	37.9	13.7	32.1	28.4
10年以上	8.0	51.7	77.1	57.1	56.8
全体	100.0(88)	100.0(203)	100.0(262)	100.0(84)	100.0(637)

値は%　$\chi 2$=159.198 d.f.=6 p<.001

表 2-9 は、班員・元班員の戸配組合員・最初から戸配組合員の加入形態別に組合員歴をみたものである。生活クラブ生協北海道は戸配を導入したのが 1997 年度からであり、現在のような戸配システムが確立したのは 2003 年からであるため、最初から戸配組合員の方は加入歴が浅い。なお、平均組合員歴（延べ年数）は、班員が 12.95 年、元班員で戸配組合員が 13.20 年、最初から戸配組合員が 2.21 年である（一元配置の分散分析の結果、最初から戸配組合員の平均組合員歴が他よりも低いことが統計的に有意になっている。F 値=149.458 d.f.=2 p<.0001）

表 2-9　加入形態別の組合員歴

	班員	元班員の戸配	最初から戸配	合計
3年未満	5.4	4.9	58.8	15.0
3-10年	28.6	24.9	35.6	28.6
10年以上	65.9	70.2	7.6	56.4
全体	100.0(276)	100.0(225)	100.0(118)	100.0(619)

値は%　$\chi 2$=234.181 d.f.=4 p<.001

2.4　生活クラブ生協への加入動機

生活クラブ生協への加入動機（問 4）について、強い動機を順に 3 つ回答していただいた（表 2-10）。一番目の理由については、生活クラブ生協の消費材の安全性や品質の良さを理由に挙げる人が最も多く、子どもの健康のために安全な食品が手に入るという理由が続く。二番目以降の理由としても、消費材の安全性・品質の良さと子どものための安全な食品を手に入れたいという理由が多いが、「生活クラブ生協の食材がおいしいから」という理由も多くなっている。なお、この理由は三番目の理由の中で顕著に指摘されている。

以上のように、生活クラブ生協への加入動機については、生活クラブ生協の消費材に関連する理由が中心であることが分かる。その一方で、二番目の理由や三番目の理由の中に、石けんや反・脱原発などの生活クラブ生協が行っている市民運動への興味や、生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）への賛同、生活クラブ生協の存在の社会的意義を理由に挙げる人が少数ではあるが存在している。なお、「品物を配達してもらえるから」という理由も三番目の理由としているが、これは戸配組合員や比較的高齢の組合員の影響であると考えられる。

表 2-10　生活クラブ生協への加入動機

	一番目の理由	二番目の理由	三番目の理由
品物を配達してもらえるから	4.0	5.9	16.4
安全で品質の良い品物が手にはいる	53.4	32.8	8.1
子どもの健康のために安全な食品を手に入れたいから	27.6	30.8	9.7
生活クラブの食材がおいしいから	7.4	19.3	33.0
主婦の社会参加の場所として魅力があったから	0.0	0.6	1.8
石けんや反・脱原発などの生活クラブ生協が行っている市民運動に興味があったから	0.6	2.1	5.5
友達や話し相手がもっと欲しかったか	0.4	1.2	1.9
熱心に誘われたから	5.6	2.7	6.2
生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）に賛同する	0.3	2.3	8.3
生活クラブ生協の存在に社会的意義を感じるから	0.3	2.3	8.6
その他	0.6	0.0	0.5
合計	100.0(680)	100.0(662)	100.0(616)

値は％

表 2-11 から表 2-13 は、生活クラブ生協への加入動機を世代別にみたものである。30 代や 40 代は「子どもの健康のために安全な食品が手に入る」という理由が相対的に高い一方で、50 代以上は「安全で品質の良い品物が手に入る」という理由が高い。また、30 代と 40 代は、生活クラブ生協の消費材のおいしさを第一の理由にしている割合が高いことも特徴的である。ともあれ、生活クラブ生協の消費材の良さに対する動機付けは、どの世代にも共通していることが伺えるだろう。

また、生活クラブ生協の考え方への賛同や、生活クラブ生協の存在の社会的意義については、数は少数であるが世代が上になるほど、共感する組合員が多いことが分かる。生活クラブ生協の理念の共有は若い世代には進んでいなく、これから生活クラブ生協の考え方や意義を深めていくことが求められるといえるだろう。また、石けんや反・脱原発運動といった市民運動への興味についても、50 代以上の世代に高い動機付けが見られるが、その一方で、第二番目の動機付けを見ると（表 2-12）、30 代以下でも関心が高い人がいることが伺える。

60 代以上に顕著な傾向は「品物を配達してくれるから」という理由づけである。第一の理由をみると（表 2-11）10%の人が回答している。特に新規で戸配組合員になる 60 代以上の組合員にとっては、買い物をせず消費材を自宅にまで運んでくれる点は、非常に魅力的であるのだろう。なお、表は省略するが、班員／元班員の戸配組合員／最初から戸配組合員別に生活クラブ生協への加入動機を見ると、3 つの加入形態ごとに明確な差が見られた点は、「品物を配達してもらえるから」という理由であり、この理由を加入動機とした人は、最初から戸配組合員である人が多く、元班員の戸配組合員がそれに続いている。

最後になるが、「熱心に誘われたから」という理由を挙げている人は、班員が多く、生活クラブ生協の「拡大」が一定の効果を示していることが伺える。

表 2-11　世代別の加入動機（第一番目の理由）

	30代以下	40代	50代	60代以上
品物を配達してもらえるから	2.2	4.2	2.1	11.1
安全で品質の良い品物が手にはいるから	40.9	45.8	58.7	70.0
子どもの健康のために安全な食品を手に入れたいから	33.3	33.0	26.7	10.0
生活クラブの食材がおいしいから	14.0	10.4	4.3	2.2
主婦の社会参加の場所として魅力があったから	0.0	0.0	0.0	0.0
石けんや反・脱原発などの生活クラブ生協が行っている市民運動に興味があったから	0.0	0.5	0.7	1.1
友達や話し相手がもっと欲しかったから	2.2	0.0	0.0	0.0
熱心に誘われたから	6.5	4.7	6.4	4.4
生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）に賛同するから	0.0	0.5	0.4	0.0
生活クラブ生協の存在に社会的意義を感じるから	0.0	0.0	0.4	1.1
その他	1.1	0.9	0.4	0.0
合計	100.0(93)	100.0(212)	100.0(281)	100.0(90)

値は%

表 2-12　世代別の加入動機（第二番目の理由）

	30代以下	40代	50代	60代以上
品物を配達してもらえるから	3.3	3.8	6.6	12.0
安全で品質の良い品物が手にはいるから	39.1	36.8	29.6	22.9
子どもの健康のために安全な食品を手に入れたいから	33.7	31.1	32.8	21.7
生活クラブの食材がおいしいから	16.3	17.7	19.7	26.5
主婦の社会参加の場所として魅力があったから	0.0	0.5	0.7	1.2
石けんや反・脱原発などの生活クラブ生協が行っている市民運動に興味があったから	4.3	1.4	1.5	3.6
友達や話し相手がもっと欲しかったから	2.2	2.4	0.4	0.0
熱心に誘われたから	1.1	4.3	2.2	2.4
生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）に賛同するから	0.0	1.0	2.9	6.0
生活クラブ生協の存在に社会的意義を感じるから	0.0	1.0	3.6	3.6
その他	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.0(92)	100.0(209)	100.0(274)	100.0(83)

値は%

表 2-13　世代別の加入動機（第三番目の理由）

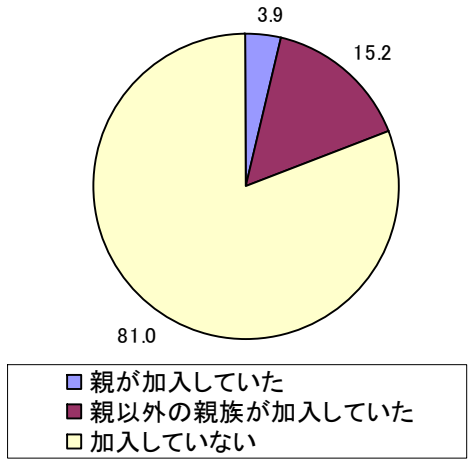
	30代以下	40代	50代	60代以上
品物を配達してもらえるから	14.1	16.7	15.2	20.3
安全で品質の良い品物が手にはいるから	10.6	13.5	5.1	2.5
子どもの健康のために安全な食品を手に入れたいから	14.1	12.0	7.0	8.9
生活クラブの食材がおいしいから	41.2	34.4	31.3	27.8
主婦の社会参加の場所として魅力があったから	1.2	2.1	1.2	3.8
石けんや反・脱原発などの生活クラブ生協が行っている市民運動に興味があったから	4.7	3.1	7.0	7.6
友達や話し相手がもっと欲しかったから	0.0	1.0	3.1	2.5
熱心に誘われたから	4.7	5.7	7.4	3.8
生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）に賛同するから	5.9	6.3	11.3	6.3
生活クラブ生協の存在に社会的意義を感じるから	2.4	4.7	10.9	16.5
その他	1.2	0.5	0.4	0.0
合計	100.0(85)	100.0(192)	100.0(256)	100.0(79)

値は%

2.5　親の加入経験

家族や親族の中に生活クラブ生協への加入経験の有無を聞いた（問 5）ところ、図 2-3 のようになった。親が加入していた組合員は 3.9%、親以外の親族を含めても全体の 2 割弱の組合員のみが近親者に組合員経験が存在していた。

図2-3　家族の加入歴の有無



30 代以下の組合員の中には、親が加入していたのが 14.3%、親以外の親族が加入していた組合員は 6.6%になっている。生活クラブ生協北海道は 1982 年からスタートしており 2007 年で 25 年目である。生活クラブ生協の組合員の子ども世代が生活クラブ生協の組合員になるという組合員の再生産を確認するためには、もう少し後で調査する必要があるかもしれない。

なお、40 代以上については親以外の親族に加入経験がある人が、40 代が 10.8%、50 代が 17.0%、60 代以上が 29.5%と、近親者に生活クラブ生協の組合員がいることで、そこから加入者が生まれる可能性を示唆しているといえるだろう。

さらに、班員・元班員の戸配組合員・最初から戸配組合員の加入形態別に、親の加入経験を見ると、統計的有意はないものの、やや最初から戸配組合員の回答者の方が、親や親族が加入している割合が高い傾向が見られた。以上のように、親や親族の加入経験が次の世代に影響を及ぼす可能性はあるといえるかもしれない。

第３章　班員組合員・戸別配送組合員の動向

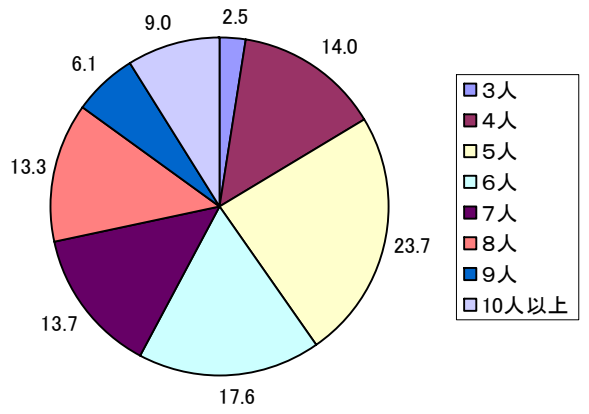
第２章において、組合員の生活クラブ生協への加入動機、加入形態について見てきたが、ここでは生活クラブ生協北海道の班員と、戸別配送組合員それぞれ別個に尋ねた調査項目について整理し、班員の動向（3-1～3-4）および戸別配送組合員の動向（3-5～3-6）について見ていく。

3.1　班の人数

班の人数（問 7）については、図 3-1 の通りである。最小値は 3 名で最大値は 29 名。平均値は 6.547 人となっている。また、班員の年齢構成（N=301）は、同世代中心：47.6%、世代に幅がある：46.2%、わからない：6.6%となっている。

世代と班の年齢構成の関係を見ると、40 代が同世代中心の割合が比較的高く（54.0%）、60 代以上が世代に幅がある割合が高い（63.6%）。

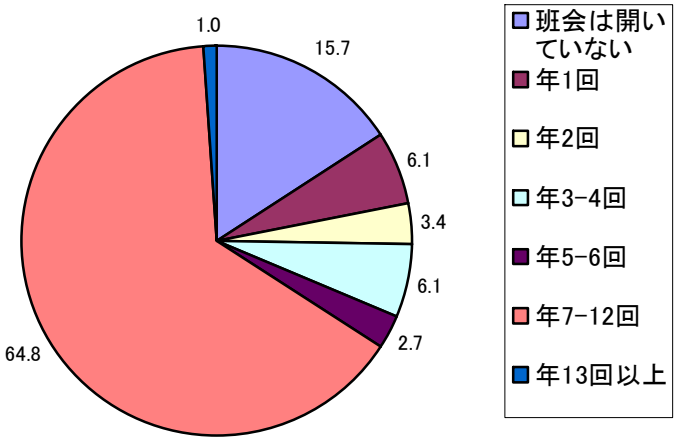
図3-1　班の人数（N=278）



3.2　班会の開催頻度、出席、開催場所

班会の開催程度（問 7）については、図 3-2 の通りである。ほぼ月に 1 回開催されていると考えられる「年 7-12 回実施」が全体の 65%を占めている。その一方で、班会を開いていないという回答が、15.7%存在する。なお、世代別の差は見られない。

図3-2　班会の開催頻度（N=293）



また、班会への出席状況（問 7）については、表 3-1 のような結果となった。組合員全体としては、「いつも出席している」組合員が 27.7%、「だいたい出席している」組合員が 45.6%と、7 割以上の班員が班会に出席している一方、「班会は開いていない」組合員が 13.2%おり、あまり出席していない、全く出席していない組合員を合わせると、3 割弱の班組合員が班会へ出席していないことが伺える。

世代別に見ると、各セルのサンプル数の問題があり、一概に統計的に有意であるとは断定できない

が、40 代の班組合員の班会の出席（班会を開いていないことも含む）が、他の世代に比べて相対的に思わしくないことが伺える。

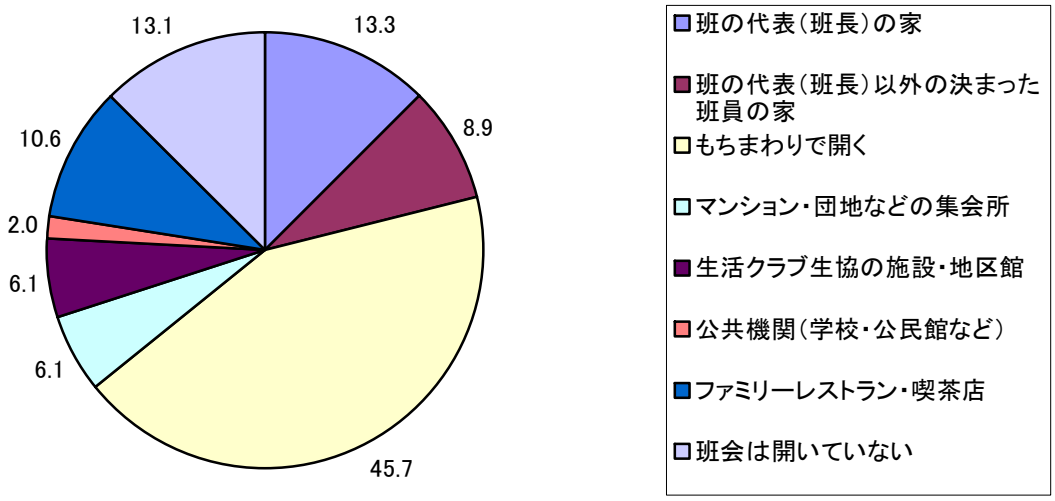
表 3-1　世代別にみた班会への出席頻度

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
いつも出席している	17.6	19.6	39.3	24.2	27.7
だいたい出席する	61.8	44.6	42.7	42.4	45.6
あまり出席しない	8.8	14.3	3.4	12.1	9.1
まったく出席しない	2.9	5.4	2.6	9.1	4.4
班会は開いていない	8.8	16.1	12.0	12.1	13.2
合計	100.0(34)	100.0(112)	100.0(117)	100.0(33)	100.0(296)

値は%　$\chi 2=24.044$ d.f.=12 $p<.05$

最後に班会の開催場所（問 7）については、図 3-3 のようになった。最も多いのは「もちまわりで開く」という回答であり、約半数を占める。班の代表や班の代表以外の班員の家も含めて、班組合員の自宅で開催する組合員が 7 割弱である一方で、組合員の自宅以外で班会を開催している組合員も 25%ほど存在している。

図3-3　班会の開催場所（N=293）



3.3　班のイメージ

班員による班のイメージはどのようなものであるだろうか。表 3-2 は、班員全体の班のイメージを項目ごとに整理したものである。「消費材の分配」というイメージが非常に高いことが分かる。また、「商品や料理などの口コミの場」「共通の話題（育児、教育、介護など）を話す場所」というイメージが高いことも分かる。

班のイメージ世代別に違いが見られた点は、班に「困った時には助け合える雰囲気がある」「社会の

課題や問題を学習する場所」「ずっと続けていきたいしくみ」というイメージを持つかどうかという点である（表 3-3～3-5）。表 3-3 および 3-4 の結果は、10%有意ではあるが、世代があがるにつれて肯定的な意見が増えている。つまり、班に助け合いを求める機能を求めたり、班においてさまざまな学習を行ったりするという班の教育機能を求めているのは、50 代以上の組合員であることが伺える。そして、表 3-5 が示しているように、班（班別予約共同購入）という仕組み自体に対しても、若い世代はその継続に対して懐疑的であることが分かる。

表 3-2　班のイメージに対する評価

	共通の話題	口コミの場	助け合いの場	消費材の分配	生活クラブの情報収集	学習の場	集団行動のルール	ずっと続けたい
思う	53.3	57.3	38.6	67.7	31.5	14.1	8.7	29.5
どちらかといえば思う	34.0	34.1	41.4	21.8	46.9	42.8	25.0	53.8
どちらかといえば思わない	7.2	5.1	16.2	7.1	17.5	30.7	36.1	13.0
思わない	5.5	3.4	3.8	3.4	4.1	12.4	30.2	3.8
合計	100.0(291)	100.0(293)	100.0(290)	100.0(294)	100.0(292)	100.0(290)	100.0(288)	100.0(292)

表 3-3　世代別にみた班のイメージ「困った時には助け合える雰囲気がある」

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
思う	25.7	36.7	44.8	34.5	38.4
どちらかといえば思う	42.9	41.3	37.9	55.2	41.5
どちらかといえば思わない	31.4	15.6	14.7	6.9	16.3
思わない	0.0	6.4	2.6	3.4	3.8
合計	100.0(35)	100.0(109)	100.0(116)	100.0(29)	100.0(289)

値は%　$\chi 2=15.074$ d.f.=9 $p<.1$

表 3-4　世代別にみた班のイメージ「社会の課題や問題を学習する場所」

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
思う	14.3	9.9	17.2	18.5	14.2
どちらかといえば思う	28.6	37.8	51.7	40.7	42.6
どちらかといえば思わない	45.7	36.0	21.6	29.6	30.8
思わない	11.4	16.2	9.5	11.1	12.5
合計	100.0(35)	100.0(111)	100.0(116)	100.0(27)	100.0(289)

値は%　$\chi 2=15.954$ d.f.=9 $p<.1$

表 3-5　世代別にみた班のイメージ「ずっと続けていきたいしくみ」

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
思う	11.8	19.8	38.5	48.3	29.2
どちらかといえば思う	52.9	61.3	49.6	44.8	54.0
どちらかといえば思わない	35.3	13.5	9.4	0.0	13.1
思わない	0.0	5.4	2.6	6.9	3.8
合計	100.0(34)	100.0(111)	100.0(117)	100.0(29)	100.0(291)

値は%　$\chi 2=37.039$ d.f.=9 $p<.001$

3.4　班員の継続意志とその理由

班別予約共同購入を続ける意志については、8 割近い班員が「今後も今後も班で継続的に利用したい」と回答しているが、14.1%が戸配組合員への移動を、6.9%が脱退するか迷っているという回答であった。では、それぞれの理由を見ていこう。

表 3-6 は今後も継続する理由（複数回答）を整理したものである。「安全で品質の良い品物が手に入

る」という理由が圧倒的に多く、これは生活クラブ生協の加入動機と同様であろう。「計画的な購入ができる」「適正な価格の品物が手に入る」「品物を配達してもらえる」という消費材に関する理由も挙げられている。また、「班の方が 4%の値引きがある」という回答も多い。率は低いが「牛乳の配達の頻度が、戸配よりも多い」という回答もあるなど、戸配と比較した際の班のメリットが、班員としての継続的な参加に繋がっていることが予想される。

さらに「仲の良い友人がいる」という回答も相対的に多く、班における組合員同士のコミュニケーションが重視されていることも伺える。その一方で、「主婦としての社会参加」「生活クラブ生協が行う市民運動」という点については、班の継続理由としてはごく少数であることも分かる。

表 3-6　班の継続理由（複数回答：N=240）

品物を配達してもらえる	36.3
安全で品質の良い品物が手にはいる	87.1
適正な価格の品物が手にはいる	33.8
計画的な購入ができる	39.6
班の方が4%の値引きがある:	53.8
牛乳の配達の頻度が、戸配よりも多い	12.5
主婦の社会参加の場所として魅力がある	8.8
生活クラブ生協が行う市民運動に関心がある	5.0
仲の良い友人がいる	33.8
生活クラブ生協の考え方に賛同する	24.2
人間関係を構築＊	4.6

値は%　＊は「その他」からカテゴリーを作成

次に戸配組合員への移動を検討している理由について見てみよう（表 3-7）。一番の理由は戸配のメリットである、自宅に直接配達してもらえるという点である。次に「ロットを考慮せずに注文ができる」「消費材を取りに行くのが大変」「当番、委員の選出の困難さ」「集計作業やロットの調整の困難さ」など、班別予約共同購入の「大変さ」を戸配への移動理由に挙げていることが分かる。また、「配達時間に拘束されないので、自分の生活スタイルに合っている」という回答も多いように、班別予約共同購入システムが専業主婦を前提として作られてきた背景があるため、ライフスタイルと班別予約共同購入システムがマッチングしていない（しなくなった）組合員が戸配への移動を考えている可能性がある。さらに、「家庭内の消費材の消費量が減ったから」という理由が多いが、これは世代が経つにつれて家族構成が変化し、従来のような家庭での消費ができなくなったという点が関連しているといえるだろう。

表 3-7　戸配移動検討理由（複数回答：N=43）

ロットを考慮せずに、消費材の注文ができるから	58.1
集計作業やロットの調整が大変だから	25.6
配達時間に拘束されないので、自分の生活スタイルに合っているから	30.2
消費材を分けたり、取りに行ったりすることが大変だから	48.8
自宅に直接配達してくれるから	65.1
当番や班長や委員を選出することが大変だから	34.9
班内での連絡が多いのがわずらわしいから	2.3
班内のさまざまなつきあいが面倒だから	9.3
自分が班の役割分担（ロットや班の当番など）を担えないことが心苦しいから	4.9
家庭内の消費材の消費量が減ったから	44.2

値は%

表 3-8　脱退検討理由（複数回答：N=21）

生活クラブ生協の消費材に魅力を感じない／感じなくなったから	9.5
生活クラブ生協の組織運営（組合員主権の考え方など）に不満があるから	9.5
生活クラブ生協内の人間関係に疲弊してしまったから	0.0
他の業者の方がよいと思ったから	4.8
複数の生協などに加入して、生活クラブ生協での購入が負担に感じられるようになった	23.8
消費材の価格が高く感じられるから	47.6
生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）についていけないと思ったから	19.0
家庭内の消費材の消費量が減ったから	42.9

（%）

最後に脱退理由（表 3-8）であるが、「生活クラブ生協の消費材が高い」という理由が最も多い。この点は「複数の生協に加入して、生活クラブ生協の購入が負担になった」という回答と関連している。また、戸配への移動理由でも顕著であった「家庭内の消費材の消費量が減った」という点も指摘されている。生活クラブ生協のシステムが、組合員が専業主婦であり、消費材をある一定程度消費する家族がいることを前提として作られていたわけであり、生活クラブ生協としては、組合員の高齢化に対して今後、対策を考えていく必要があるといえる。

3.5　戸配組合員の経緯とその理由

戸配組合員の経緯は、「最初から戸配の組合員」と回答した組合員は 30.8%、「以前は班に所属していたが脱退し、新たに戸配の組合員になった」回答者が 20.3%、「班は存続していたが、戸配の組合員になった」回答者が 13.6%、「班が事情によりなくなり、戸配の組合員になった」回答者が 35.3%存在した（第 2 章 2.2 を参照）。では、それぞれの理由について概観していこう。

表 3-9 は最初から戸配組合員であった理由（複数回答）である。「自宅に直接配達してくれる」という戸配配送のメリットを挙げる点が一番多いことが分かる。また「自分の生活スタイルに合っているから」といった理由も多い。さらに、班別予約共同購入の大変さ、面倒さを指摘する組合員もある中で、班別予約購入を希望していても、近くに班がないために戸配組合員になった消極的な戸配組合員の存在もあることも確認できる。

表 3-9　最初から戸配組合員である理由（N=112）

自宅に直接配達してくれるから	76.8
自分の生活スタイルに合っているから	46.4
戸配が、班別共同購入よりも便利だと思ったから	33.9
班別共同購入のしくみが面倒だから	33.9
班別共同購入のしくみがよくわからなかったから	8.0
近くに班がなかったから	20.4
人づきあいが苦手だから	7.1
人づきあいが面倒だから	13.4
戸配は組合員活動をしなくてもよいと思っていたから	8.9

値は%

表 3-10 はもともとは班員であった組合員が戸配に移動した理由（複数回答）である。自宅への直接配達という戸配のメリットの他に、「消費材を分けたり、取りに行ったりするのが大変だから」「ロットを考慮せずに、消費材の注文ができるから」「当番などの役割を引き受けることが大変」「当番や委員を選出するのが大変」といった、班別予約共同購入の困難さを理由に挙げていることが分かる。その一方で、「班でも良かったけれども、班がなくなってしまったから」と回答する組合員がいるように、必ずしも班別予約共同購入の困難さによって戸配に移動するのではなく、やむなく戸配に移動した組合員も存在している。

表 3-10　班から戸配に移動した理由（N=250）

ロットを考慮せずに、消費材の注文ができるから	40.8
集計作業やロットの調整が大変だから	24.0
配達時間に拘束されないので、自分の生活スタイルに合っているから	37.3
消費材を分けたり、取りに行ったりすることが大変だから	47.0
自宅に直接配達してくれるから	61.0
当番などの役割を引き受けることが大変だから	31.3
当番や班長や委員を選出することが大変だから	33.3
班内での連絡が多いのがわずらわしいから	7.2
班内のさまざまなつきあいが面倒だから	9.2
班でも良かったのだけれども、班がなくなってしまったから	34.5
自分が班の役割分担（ロットや班の当番など）を担えないことが心苦しいから	11.6
家庭内の消費材の消費量が減ったから	18.1
引っ越し＊	9.2

値は％　＊は「その他」からカテゴリーを作成

3.6　戸配組合員の継続意志とその理由

さて、戸配組合員に継続の意志をたずねたところ、図 3-4 のような結果となった。9 割以上の戸配組合員が継続の意志を示していることが分かる。表 3-11 は戸配組合員の継続理由であるが、安全で品質の良い消費材を得られること、消費材を配達してもらえるという理由が圧倒的に多く、生活クラブ生協が実施する市民運動に対する関心は低いことが伺える。

なお、班に移動したいという理由には「班の方が 4%値引きがある」「牛乳の配達頻度が戸配よりも多い」といった消費材に関するものが中心である。また、脱退するか迷っている戸配組合員の理由は、表 3-12 のように班員などの脱会理由と同様の傾向が見られる。

図3-4　戸配組合員の継続意志

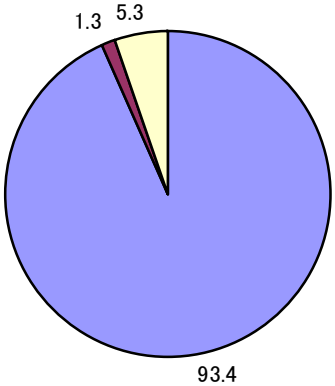


表 3-11　戸配組合員の継続理由（N=351）

品物を配達してもらえるから	75.8
安全で品質の良い品物が手にはいるから	94.0
適正な価格の品物が手にはいるから	22.2
計画的な購入ができるから	27.1
生活クラブ生協の考え方に賛同するから	22.5
生活クラブ生協が行う市民運動に関心があるか	8.5

値は%

表 3-12　戸配組合員の脱会検討理由（N=21）

生活クラブ生協の消費材に魅力を感じない／感じなくなったから	9.5
生活クラブ生協の組織運営（組合員主権の考え方など）に不満があるから	9.5
生活クラブ生協内の人間関係に疲弊してしまったから	0.0
他の業者の方がよいと思ったから	4.8
複数の生協などに加入して、生活クラブ生協での購入が負担に感じられるようになったから	23.8
消費材の価格が高く感じられるから	47.6
生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）についていけないと思ったから	19.0
家庭内の消費材の消費量が減ったから	42.9
生活の変化	28.6

値は%

第 4 章　組合員の購入行動と購入態度

本章では、組合員の購入行動と購入態度の特徴について考察する（問 11～問 17）。

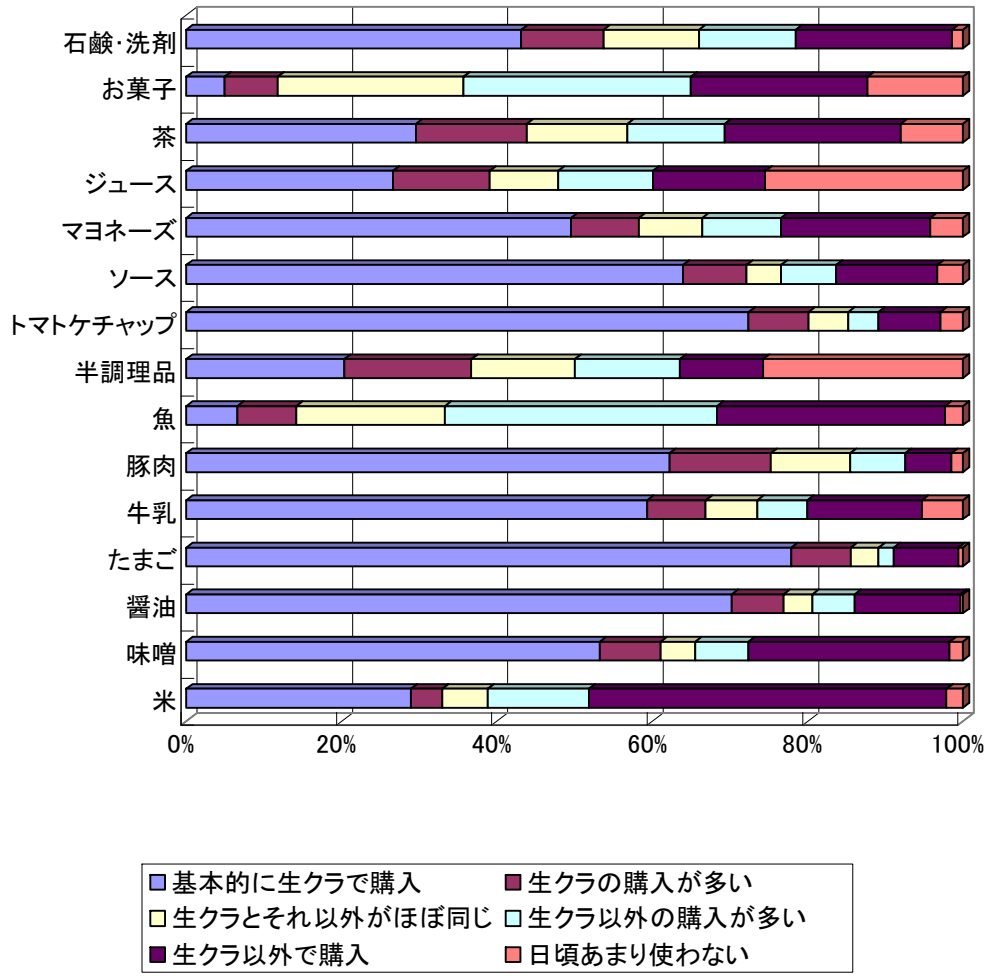
4.1　消費材の購入先

問 11 では、15 の消費材について、主な購入先を回答していただいた。結果は図 4-1 に示されたとおりであり、消費材ごとに購入先のパターンに差がみられた。

「基本的に生活クラブで購入する」という回答が 5 割を超えたのは、たまご（77.9%）・トマトケチャップ（72.8%）・醤油（70.3%）・ソース（64.0%）・豚肉（62.3%）・牛乳（59.4%）・味噌（53.1%）で、生活クラブが比較的初期の段階から積極的に取り組んできた消費材が多く並んだ。

逆に,「基本的に生活クラブで購入する」という回答が 3 割を切ったのは、お菓子（5.0%）・魚（6.7%）・半調理品（20.4%）・ジュース（26.8%）・米（29.0%）の、5 つの消費材である。これらの消費材は、「生活クラブの購入が多い」を含めても 4 割を切っており、総体的に組合員の支持が薄い品目である。逆説的に考えると、これらは「開拓の余地ある」消費材であり、供給増の期待があると評価すること

図4-1　消費材の購入先



も可能である。その一方で、半調理品（25.7%）・ジュース（25.4%）・お菓子（12.3%）については、「日頃あまり使わない」という回答も多く、生活クラブ生協組合員の、ある種の「こだわり」のようなものも感じられる。

「生活クラブ以外で購入する」という回答については、米（46.0%）・魚（29.4%）・味噌（26.0%）で多かった。特に、米の 46%は突出しており、なんらかの分析と対策が必要であると思われる。また、基礎調味料として位置づけられる味噌で、4 分の 1 以上が「生活クラブ以外で購入する」と回答していることは興味深い。

世代・組合員歴との関連でみると、ほとんどの消費材で（菓子が例外）、年齢・加入年数と比例して積極的な購入態度となっている。広い意味でのエイジング効果が、ここからみてとることができる。

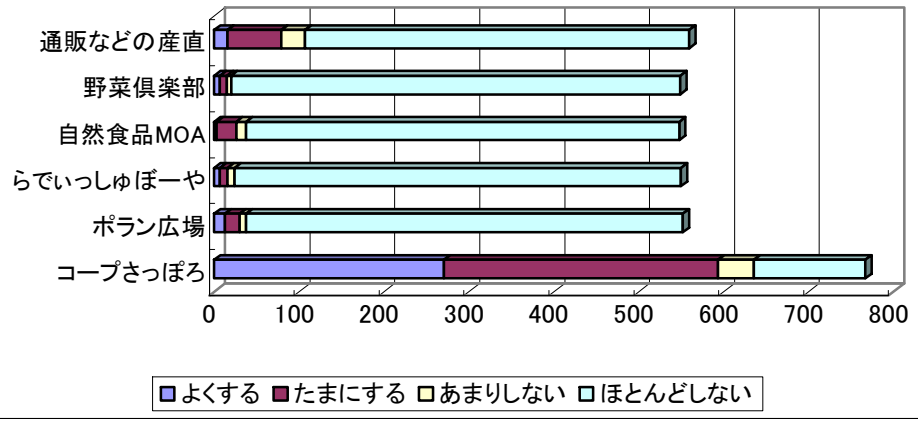
また、班・元班・戸配との関連では、基本的には班経験のある組合員で積極的な購入態度がみられるが、消費材ごとに若干異なる傾向も現れている。すなわち、班経験の有無による差の明らかな消費材とそうでないものとの差である。茶・ジュース・マヨネーズ・トマトケチャップ・豚肉・牛乳・たまご・醤油・では統計的にも有意な差がみられ、特に豚肉・牛乳・たまごでは、現役の班組合員で最も高くなっている。逆に、この 3 つ以外では、元班組合員の方が若干積極的な購入態度となっている。石けん・ソース・では、統計的には有意ではないが、班経験のある組合員で積極的な購入態度がみられている。菓子・半調理品・魚類・味噌・米では顕著な差はみられなかった。味噌では、班組合員と元班組合員でも「生活クラブ以外で購入」という回答が 2 割を超えており、ここでも興味深い結果となった。この結果だけで原因を類推することには限界があるが、味噌についてはなんらかの不満を生じさせる要素がある可能性が考えられるだろう。

4.2 「類似」業者等の利用について

近年では、自然食や安全を売りにした業者が数多く登場している。札幌市内にも、らでぃっしゅぼーややポラン広場が進出し、北海道に生活クラブが誕生した当時の時代状況とは大きく変化している。

そのような状況を踏まえて、問 12 では、競合の可能性が考えられるいくつかの小売業者等の利用について質問した（図 4-2）。このうち、コープさっぽろを利用すると回答した組合員が多数にのぼり、「よく利用する」（40.6%）、「たまに利用する」（33.4%）をあわせると 74.1%に達した。4 人に 3 人はコープさっぽろを利用していることになる。世代とのクロス集計の結果は、併用する組合員では目立った違いは見られないが、「ほとんどしない」で、60 代以上での回答が 32.9%と高くなっており、

図4-2 「類似」業者の利用



逆に 40 代では 13.8%と低くなっているのが目立つ（表 4-1）。次に多いのが「通販などの産直」で、「よくする」（2.9%）・「たまにする」（11.3%）あわせて 14.2%となっている。世代とのクロス集計の結果は統計的に有意ではなかったが、60 代以上でやや高い（「よくする」「たまにする」あわせて 26.6%）傾向が見られた。

表4-1 コープさっぽろの利用

	よくする	たまにする	あまりしない	ほとんどしない	計
30代以下	35(37.6%)	35(37.6%)	6(6.5%)	17(18.3%)	93
40代	94(44.8%)	69(32.9%)	18(8.6%)	29(13.8%)	210
50代	112(40.3%)	93(33.5%)	16(5.8%)	57(20.5%)	278
60代以上	28(34.1%)	25(30.5%)	2(2.4%)	27(32.9%)	82
全体	269(40.6%)	222(33.5%)	42(6.3%)	130(19.6%)	663

X^2=17.659 p<0.05

他方、その他はきわめて少数の利用にとどまっており、ポラン広場 5.4%（30 人）・自然食品の MOA4.7%（26 人）・らでぃっしゅぼーや 2.9%（15 人）・野菜倶楽部 2.4%（13 人）である。この設問に関しては無回答が多くみられたが、これは「まったく利用したことがない」という選択肢がなかったために無回答となったと考えられるので、実際の利用割合はさらに低いとみるのが適切であろう。

質問紙を作成した段階では、これら同業他社との競合が激しくなっているか、あるいは組合員がこれらを消費材によって使い分けているのではないかとの予測をしていたが、結果は予測を裏切るものとなった。競合については、今回の調査結果が完全な反証となったということはできないが、少なくとも現在は、こうした類似業者を併用するという形は一般的ではないということが確認されたといえるだろう。

4.3 外食の利用

高度経済成長から今日の安定成長期への変遷の過程で、個人のライフスタイルが大きく変化したことはすでに指摘されているところであるし、われわれの実感としても首肯できる。ライフスタイルの変化はさまざまな領域に起こっているが、当然食のあり方にも影響していると考えられる。

問 13 では外食の頻度を尋ねた（図 4-3）。週一回以上という回答は「平日の昼食」が最も多く、10%（66 人）となっている。「月に数回」を加えた数値でも「平日の昼食」が最多となり、30.4%（267 人）となった。これは、サークル活動や地域活動、もしくは組合員活動などとの関連で昼食が外食となるということを想像させるが、理由は定かではない。休日に関しても昼間の利用の方が多くなり、「平日の夕食」が最も少ない。

図4-3 外食の利用

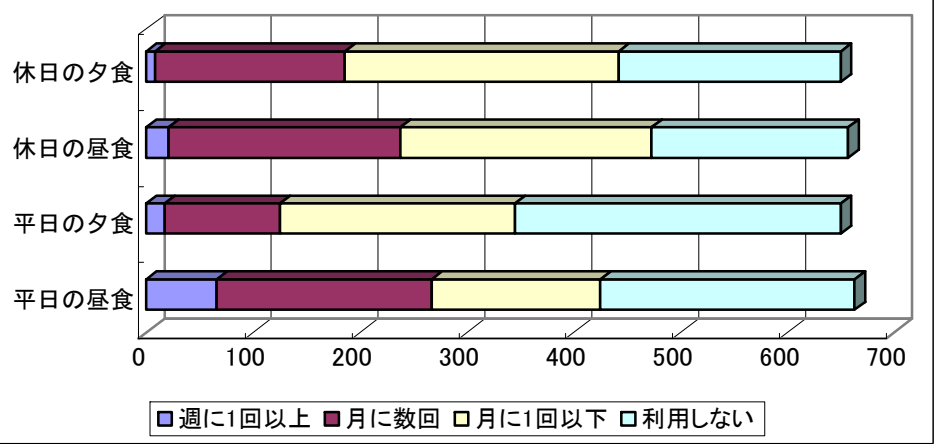


表4-2　外食の利用										
	休日の昼食					休日の夕食				
	週1回以上	月に数回	月1回以下	利用しない	計	週1回以上	月に数回	月1回以下	利用しない	計
30代以下	2(2.2%)	51(57.3%)	27(30.3%)	9(10.1%)	89	0(0.0%)	41(46.1%)	35(39.3%)	13(14.6%)	89
40代	11(5.3%)	72(34.4%)	79(37.8%)	47(22.5%)	209	5(2.4%)	60(28.6%)	93(44.3%)	52(24.8%)	210
50代	7(2.6%)	80(29.2%)	107(39.1%)	80(29.2%)	274	3(1.1%)	66(24.1%)	111(40.5%)	94(34.3%)	274
60代以上	1(1.2%)	13(16.0%)	20(24.7%)	47(58.0%)	81	0(0.0%)	11(13.6%)	25(30.9%)	45(55.6%)	81
全体	21(3.2%)	216(33.1%)	233(35.7%)	183(28.0%)	653	8(1.2%)	178(27.2%)	264(40.4%)	204(31.2%)	654
X^2=71.814　p<0.001						X^2=52.233　p<0.001				

世代とのクロス集計の結果は、若い世代ほど利用頻度は多くなる傾向が現れた（表 4-2)。やはり、外食利用は、若い世代にとっては「普通の」こととして捉えられているのであろう。ただし、「週 1 回以上」に限定した場合には、利用者はきわめて少なく、外食の利用が「日常的」であるわけではないということも付け加えておかなければならない。

カイ二乗検定の結果は、「休日の昼食」「休日の夕食」で有意であったが、「平日の昼食」「平日の夕食」では有意ではなかった。この結果にも表れているように、世代別で顕著な違いが現れているのは、休日の外食利用である。特に、30 代以下では「利用しない」が昼食で 10.1%、夕食で 14.6%にとどまるのに対して、60 代以上では 58.0%、55.6%と、大きく差が開いている。平日については、差異は確認できるものの、統計的には有意でないことを勘案すると、現状においては、外食の利用は月に数回程度、土日に行われるある種の月行事的な利用が中心であり、レジャーや買い物などに付随して利用されていることが予想される。これをさらに解釈するとすれば、若い世代ではレジャーなどの機会が相対的に多いということも考えられるかもしれない。その場合は、世代の効果と同時に、ライフステージの効果の可能性もあるだろう。すなわち、学童期の子供の有無などである。

4.4　食生活に関する意識・態度

問 14 では、食生活に関する意識・態度についてうかがった。生活クラブ生協の組合員は、食生活に対して高い意識を有しており、実際の行動もそれを反映しているものと想定されたが、結果はほぼ想定どおりになったといえる。

図4-4　食生活に関する意識・態度

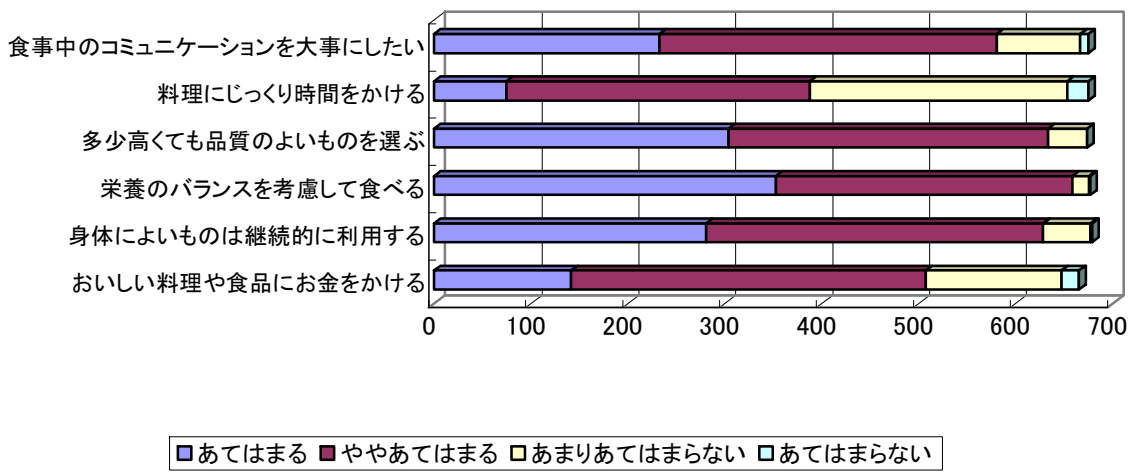


表4-3　食生活に関する意識・態度（世代）										
	料理にじっくり時間をかける					おいしい料理や食品にお金をかける				
	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	計	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	計
30代以下	5（5.4%）	37（39.8%）	49（52.7%）	2（2.2%）	93	15（16.1%）	57（61.3%）	20（21.5%）	1（1.1%）	93
40代	15（7.1%）	90（42.7%）	98（46.4%）	8（3.8%）	211	48（23.0%）	114（54.5%）	42（20.1%）	5（2.4%）	209
50代	41（14.6%）	138（49.1%）	94（33.5%）	8（2.8%）	281	62（22.3%）	152（54.7%）	56（20.1%）	8（2.9%）	278
60代以上	13（15.1%）	46（53.5%）	24（27.9%）	3（3.5%）	86	17（20.7%）	40（48.8%）	21（25.6%）	4（4.9%）	82
全体	74（11.0%）	311（46.3%）	265（39.5%）	21（3.1%）	671	142（21.5%）	363（54.8%）	139（21.0%）	18（2.7%）	662
				X^2=25.953　p<0.01					X^2=19.421　p<0.05	

表4-4　食生活に関する意識・態度（就業形態）										
	料理にじっくり時間をかける					おいしい料理や食品にお金をかける				
	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	計	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	計
自営業	13（18.8%）	29（42.0%）	25（36.2%）	2（2.9%）	69	28（41.8%）	31（46.3%）	7（10.4%）	1（1.5%）	67
フルタイム	6（7.9%）	32（42.1%）	33（43.4%）	5（6.6%）	76	21（27.6%）	37（48.7%）	15（19.4%）	3（3.9%）	76
パートタイム等	9（4.5%）	88（43.8%）	97（48.3%）	7（3.5%）	201	28（14.1%）	122（61.3%）	47（23.6%）	2（1.0%）	199
仕事はしていない	44（14.3%）	153（49.8%）	104（33.9%）	6（2.0%）	307	63（20.9%）	161（53.3%）	69（22.8%）	9（3.0%）	302
全体	72（11.0%）	302（46.2%）	259（39.7%）	20（3.1%）	653	140（21.7%）	351（54.5%）	138（21.4%）	15（2.3%）	644
				X^2=28.258　p<0.01					X^2=29.875　p<0.001	

特に高かったのは「栄養のバランスを考慮して食べる」であり、「あてはまる」が 52.1%、「ややあてはまる」が 45.2%、あわせて 97.3%に達した。「多少高くても品質のよいものを選ぶ」「身体によいものは継続的に利用する」も肯定的意見が 9 割を超えている（それぞれ 94.1%・92.5%）。

他方、「料理にじっくり時間をかける」では、「あてはまる」11.1%、「ややあてはまる」46.4%、合計 57.5%にとどまった。また、「おいしい料理や食品にお金をかける」も肯定的意見が 76.3%となったのは、微妙な差異といえなくもないが、一部の組合員には、必ずしも「おいしいもの」は「安全なもの」とイコールではないという意識があるようである。しかしながら、その逆、すなわち「安全なもの」は「おいしい」という意識は共有されているのかもしれない。

上記の二つの回答では、世代および本人の職業形態との間に有意な差がみられた（表 4-3・表 4-4）。

「料理にじっくり時間をかける」では、年齢の高い世代ほど肯定的意見が多くなるが、若い世代では低くなり、40 代以下では 5 割を割る水準である。本人が時間をかけたいと考えているかどうかは別として、また、主観による回答であるために実際の調理時間が反映されているわけではないが、若い世代では、日常的な調理においてあまり時間をかけない傾向があるということが明らかとなった。また、職業形態との関連では、「自営業」および「仕事はしていない」で肯定的意見が多くなり、「フルタイム」と「パートタイム等」では肯定的意見と否定的意見がほぼ拮抗している。率の上では顕著な差とはいえず、また、当然の結果であるともいえるが、自宅外で仕事をしている組合員は料理に時間をかけない傾向がある。

また、「おいしい料理や食品にお金をかける」では、40 代および 50 代でやや強い肯定の傾向がみられている。30 代でも、肯定的意見の割合は高いが、「やや当てはまる」が相対的に多くなる。日生協調査において、若年層における低価格志向の強さが指摘されているが（日本生活協同組合連合会編, 2006:42）、この結果も、そうしたことと関係しているかもしれない。また、職業形態との関連では、「自営業」が最も、しかも顕著に肯定的である。

ここで注意しておかなければならないのは、世代と職業形態の間には「若い世代ほどフルタイムで働いている割合が高い」というような「直線的な」関係があるわけではないということである（表 4-5）。有職者の割合は 40 代で最も大きく、30 代以下では有職者が 3 人に 1 人である。子育て期間中は職に

就かない様子が顕著にうかがえる。

ちなみに、日生協調査では、「無職」の回答が 30-34 歳 50.7%、35-39 歳 41.9%、40-44 歳 27.7%、45-49 歳 26.7%、50-54 歳 27.2%、55-59 歳 42.9%となっており、40 代は近い値となっているが、その他の年齢では日生協調査の値がかなり低くなっている。これが、北海道という地域の影響なのか、それとも生活クラブという組織の影響なのかは、ここからは分からない。また、フルタイムの割合では、30-34 歳 17.0%、35-39 歳 16.9%、40-44 歳 18.7%、45-49 歳 20.9%、50-54 歳 19.2%、55-59 歳 16.0%で、こちらも日生協調査の方が総じて高い値となっている（cf.近本，2007）。

表4-5　世代と職業形態

	自営業	フルタイム	パートタイム等	仕事はしていない	計
30代以下	7(7.7%)	10(11.0%)	16(17.6%)	58(63.7%)	91
40代	24(11.5%)	30(14.4%)	91(43.8%)	63(30.3%)	208
50代	28(10.3%)	35(12.9%)	81(29.8%)	128(47.1%)	272
60代以上	10(11.5%)	2(2.3%)	12(13.8%)	63(72.4%)	87
全体	69(10.5%)	77(11.7%)	200(30.4%)	312(47.4%)	658

X^2=63.732　p<0.001

最後に、「食事中のコミュニケーションを大事にしたい」については 86.1%が肯定的意見となっている。この回答に関しては、世代間で有意な差が見られた（表 4-6）。基本的には、どの世代においても食事中のコミュニケーションを重要視しているが、特に若い世代においてそれが高く現れている。昨今話題となっている孤食・個食などが子供に与える影響についてセンシティヴになる立場にあることの現れなのかもしれない。

表4-6　食事中のコミュニケーションは大事にしたい

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	計
30代以下	37(39.8%)	48(51.6%)	7(7.5%)	1(1.1%)	93
40代	71(33.6%)	120(56.9%)	20(9.5%)	0(0.0%)	211
50代	101(35.9%)	129(45.9%)	47(16.7%)	4(1.4%)	281
60代以上	23(26.7%)	48(55.8%)	12(14.0%)	3(3.5%)	86
全体	232(34.6%)	345(51.4%)	86(12.8%)	8(1.2%)	671

X^2=19.421　p<0.05

4.5　生活クラブのシステム・消費材への評価

問 15 では、生活クラブのシステムや消費材に対する満足度についてうかがった（図 4-5）。「班内の役割分担」と「ロット」については班員からの回答となるため、他の質問に比べて回答数が少なくなっている。

傾向としては、総じて満足度は高いといえるが、その度合いには差があることも事実である。「消費材の品質」と「配達頻度」がきわめて高い満足度を得ており、前者では「満足している」63.8%、「やや満足している」34.1%、あわせて 97.9%、後者では「満足している」68.0%、「やや満足している」27.1%、あわせて 95.1%が肯定的意見である。

図4-5　生活クラブの仕組み･消費材の満足度

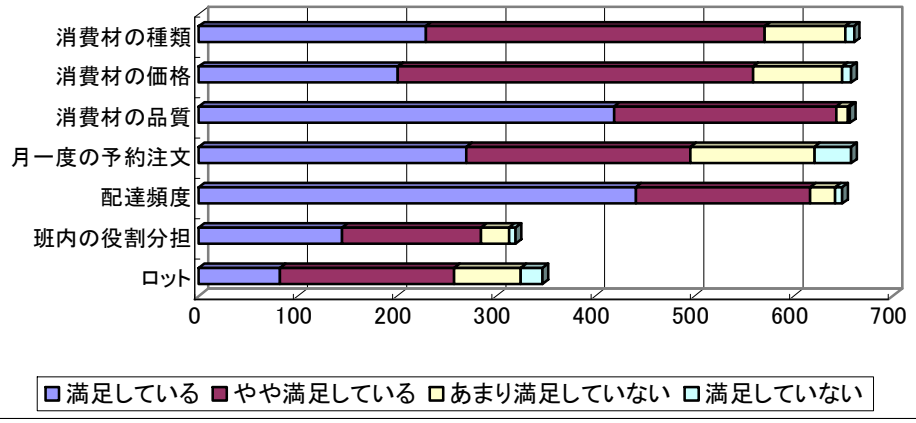


表4-7　生活クラブに対する満足度（世代）										
	配達頻度					消費材の種類				
	満足	やや満足	あまり満足していない	満足していない	計	満足	やや満足	あまり満足していない	満足していない	計
30代以下	67（72.6%）	16（17.4%）	7（7.6%）	2（2.2%）	92	21（23.3%）	55（61.1%）	13（14.4%）	1（1.1%）	90
40代	134（65.0%）	64（31.1%）	5（2.4%）	3（1.5%）	206	76（36.0%）	108（51.2%）	27（12.8%）	0（0.0%）	211
50代	176（65.7%）	83（31.0%）	9（3.4%）	0（0.0%）	268	101（36.6%）	141（51.1%）	30（10.9%）	4（1.4%）	275
60代以上	63（78.8%）	12（15.0%）	3（3.8%）	2（2.5%）	80	31（38.8%）	36（45.0%）	9（11.3%）	4（5.0%）	80
全体	440（68.1%）	175（27.1%）	24（3.7%）	7（1.1%）	646	229（34.9%）	340（51.8%）	79（12.0%）	9（1.4%）	657
					X^2=22.776　p<0.01					X^2=17.894　p<0.05

相対的に評価が低いのが「月一度の予約注文」であり、「満足している」41.0%、「やや満足している」34.3%、あわせて 75.4%にとどまり、「あまり満足していない」19.0%、「満足していない」5.6%、あわせて 24.6%が否定的意見となった。

また、班に限ると、「ロット」に対する評価が、「あまり満足していない」19.3%、「満足していない」6.3%、あわせて 25.6%となり、割合としては最も低くなっている。「班内の役割分担」については肯定的意見が 89.1%（「満足している」45.3%、「やや満足している」43.8%）に達しており、2003 年に行われた組織改革の結果として班員の負担が軽減された効果が出ていると思われる。

世代との関連では、統計的に有意な結果が得られたのは「配達頻度」および「消費材の種類」であった（表 4-7）。「配達頻度」については 40 代と 50 代でやや満足度が低くなっており、「消費材の種類」では 30 代以下で満足度がやや下がっている。なお、有意確率は 0.058 であるが、「消費材の価格」についてで、40 代で 16.2%が「あまり満足していない」（全体は 13.6%）、また、20 代で「満足している」が 20.0%（全体は 30.7%）と回答しているのが目立っている。これも、若年世代における低価格志向の現われとみることもできるかもしれない。

表4-8　月一度の予約注文（組合員歴）					
	満足	やや満足	あまり満足していない	満足していない	計
3年未満	38（40.9%）	22（23.7%）	24（25.8%）	9（9.7%）	93
3年以上10年未満	61（34.5%）	66（37.3%）	40（22.6%）	10（5.6%）	177
10年以上	160（45.6%）	129（36.8%）	50（14.2%）	12（3.4%）	351
計	259（41.7%）	217（34.9%）	114（18.4%）	31（5.0%）	621
					X^2=21.268　p<0.01

組合員歴との関連では、「月一回の予約注文について」で有意な差がみられた（表 4-8）。組合員歴の長さに比例して否定的意見が多くなる傾向が現われているとともに、3 年以上 10 年未満の層の満足度も相対的にやや低くなっている。なお、「配達頻度」についても、有意確率は 0.102 であるが、組合員歴の長さに比例して満足度が低下している。

組合員の加入形態との関連では、「配達頻度」と「月一度の予約注文」で有意な結果を得た（表 4-9）。「配達頻度」については、肯定的意見に大きな差はないが、班員で相対的に満足度が低く、戸配の満足度が高い。また、「消費材の種類」では、「最初から戸配」の否定的意見が顕著に多く、3 人に 1 人以上の割合で不満を表明している。この点については、班経験のない組合員における生活クラブへの理解が十分ではないということの、ひとつの証明とみることもできるだろう。

表4-9　生活クラブに対する満足度（加入形態）										
	配達頻度					消費材の種類				
	満足	やや満足	あまり満足していない	満足していない	計	満足	やや満足	あまり満足していない	満足していない	計
班員	156（55.9%）	107（38.4%）	10（3.6%）	6（2.2%）	279	92（33.3%）	120（43.5%）	51（18.5%）	13（4.7%）	276
班から個配	179（77.5%）	45（19.5%）	7（5.0%）	0（0.0%）	231	123（51.3%）	69（28.8%）	33（13.8%）	15（6.3%）	243
最初から個配	91（77.8%）	19（16.2%）	6（5.1%）	1（0.9%）	119	46（38.3%）	30（25.5%）	36（30.0%）	8（6.7%）	120
全体	426（67.9%）	171（27.3%）	23（3.7%）	7（1.1%）	627	261（41.0%）	219（34.4%）	120（18.9%）	36（5.7%）	639
					X^2=39.891　p<0.001					X^2=34.253　p<0.001

4.6　購入態度の変化

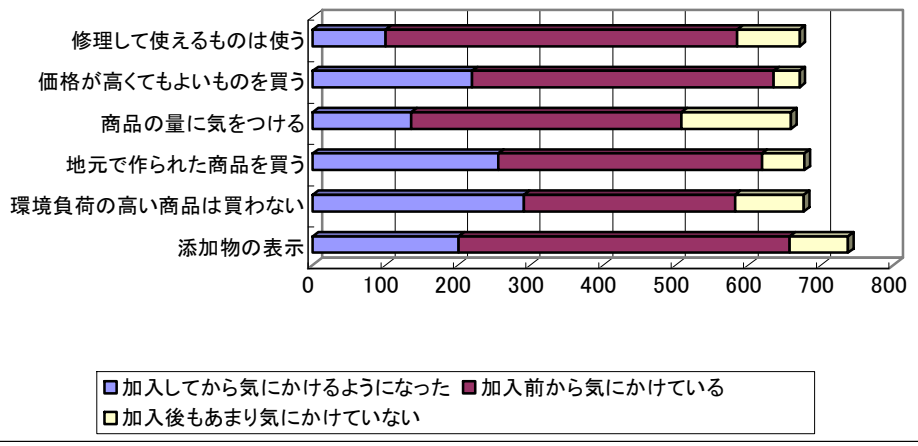
生活クラブでは、「自己変革」が強く意識されていた。それをいみじくも表現しているのが、1981年に出版された『生き方を変える女たち』である。四大公害に象徴されるような産業型公害が収束した後、生活排水による水質汚染や自家用車の普及にともなう大気汚染など、一般市民が公害の被害者であり加害者であるという状況が明らかになっていった。いわゆる生活公害をなくしていくためには、他者の努力だけではなく、自らの生活スタイルも変えていかなければならないという意識を、多くの主婦が共有した時代があった。生協運動が基本的に生活改善運動の要素を持ったように、生活クラブも同じスタンスをとったし、むしろ、生活クラブはその中の先鋭であったと評価することもできるだろう。

問 16 では、生活クラブへの加入前後での、購入態度の変化を問うた（図 4-6）。予想されたとおり、どの項目も気にかけているという回答が多数を占めたが、項目によって差異も現れている。

「加入後も気にかけていない」という回答は、各項目でおおよそ 1 割前後の回答になっているが、「商品の量」に関して 22.8%が「加入後も気にかけていない」と回答したのが目立つ。一般に、日本は食べ残しの多い国民であるといわれるが、このあたりに原因の一端を垣間見ることができるのかもしれない。反対に、「添加物の表示」では 2.7%となっており、添加物についてはきわめて高い関心があることが明らかになった。もっとも、添加物表示は日本国民全般の関心事になっており、2003 年 12 月に内閣府が行った調査では、発がん性の恐れについて、食品添加物はモニター550 人のうちの 77%が感じると回答、これはタバコの 91.1%に次ぐ、放射線の 70.9%、農薬の 69.6%をも上回る高さであった。

「加入してから気にかけるようになった」については、「環境負荷の高い商品は買わない」で 43.0%、「地元で作られた商品を買う」で 37.8%と、かなり高い数値を示した。「価格が高くてもよいものを買う」では 32.8%、「添加物の表示」では 29.8%、「商品の量に気をつける」で 20.8%、「修理して使えるものは使う」で 15.1%の回答となった。「加入してから気にかけるようになった」との回答は、生活クラブの教育効果を測定する指標と考えられるが、地産地消も含めて、商品の環境負荷に関する知識について最も高い効果を示したといえる。それ以外の点について相対的に効果が現れていないのは、比較的一般に流布している知識と考えることができるかもしれない。

図4-6　購入態度の変化



世代との関連では、「修理して使えるものは使う」のみ有意な結果が得られた（表 4-10）。30 代以下で「加入後もあまり気にしていない」が約 2 割となり、他の世代に比べて高い割合となった。これは、使い捨て文化の普及・定着と関係しているのかもしれない。

表4-10　修理して使えるものは使う（世代）

	加入してから気にかけるようになった	加入前から気にかけている	加入後もあまり気にかけていない	計
30代以下	18（19.4%）	58（62.4%）	17（18.3%）	93
40代	23（11.0%）	159（75.7%）	28（13.3%）	210
50代	39（14.0%）	209（74.9%）	31（11.1%）	279
60代以上	20（23.5%）	55（64.7%）	10（11.8%）	85
全体	100（15.0%）	481（72.1%）	86（12.9%）	667
				X^2=13.238　p<0.05

就業形態との関連では、「価格が高くても質のよい商品を買う」で有意な結果となった（表 4-11）。「パートタイム等」で「加入してから気にかけるようになった」が 41.0%と突出して高い数値となっており、「仕事はしていない」がほぼ平均値の 32.8%となっている。この点を解釈するのは難しいが、自営業やフルタイムの場合は比較的自由になる時間が少なく、生活クラブの教育の影響を受けにくい状況にあるといえるかもしれない。また、一般に「面倒」と評価される生活クラブに、相対的に自由な時間が少ない人が「わざわざ」加入しているのは、加入前からある程度高い意識を持ってでないとハードルが高いということも考えられるかもしれない。

表4-11　価格が高くてもよいものを買う（就業形態）

	加入してから気にかけるようになった	加入前から気にかけている	加入後もあまり気にかけていない	計
自営業	14（20.5%）	52（76.5%）	2（2.9%）	68
フルタイム	19（25.0%）	53（69.7%）	4（5.3%）	76
パートタイム等	82（41.0%）	103（63.3%）	15（7.5%）	200
仕事はしていない	98（32.1%）	193（51.5%）	14（4.8%）	305
全体	213（32.8%）	401（61.8%）	35（5.4%）	649
				X^2=18.094　p<0.01

組合員の加入形態との関連では、「添加物の表示」「環境負荷の高い商品は買わない」「地元で作られた商品を買う」で有意な結果がみられた。いずれの場合も、「最初から戸配」で「加入前から気にかけている」の回答が高くなっている。また、「環境負荷の高い商品は買わない」では、班員で「加入してから気にかけるようになった」が 53.5%に達しており、班の教育効果の高さが発揮された形となっている。「添加物の表示」でも 35.2%と、最も高くなっている。

組合員歴との関連では、「添加物の表示」「環境負荷の高い商品は買わない」「地元で作られた商品を買う」「商品の量に気をつける」で有意な結果が得られた。「商品の量に気をつける」以外の 3 つでは、組合員歴と正比例の関係が見出される。長く組合員であることにより、追加的な知識を獲得するということが想定されるであろう。なお、「価格が高くてもよいものを買う」では有意確率 0.056、「修理して使えるものは使う」では 0.162 となったが、この二つでも同様に組合員歴と正比例の関係がみられている。

表4-12　購入態度の変化（加入形態）

	添加物の表示			
	加入してから気にかけるようになった	加入前から気にかけている	加入後もあまり気にかけていない	計
班員	100（35.2%）	175（61.6%）	9（3.2%）	284
班から戸配	69（28.4%）	169（69.5%）	5（2.1%）	243
最初から戸配	22（11.7%）	98（79.0%）	4（3.2%）	124
全体	191（29.3%）	442（67.9%）	18（2.8%）	651
				X^2=13.809　p<0.01
	環境負荷の高い商品は買わない			
	加入してから気にかけるようになった	加入前から気にかけている	加入後もあまり気にかけていない	計
班員	152（53.5%）	95（33.5%）	37（13.0%）	284
班から戸配	94（38.2%）	114（46.3%）	38（15.4%）	246
最初から戸配	31（25.0%）	75（60.5%）	18（14.5%）	124
全体	277（42.4%）	284（43.4%）	93（14.2%）	654
				X^2=34.025　p<0.001
	地元で作られた商品を買う			
	加入してから気にかけるようになった	加入前から気にかけている	加入後もあまり気にかけていない	計
班員	112（39.4%）	147（51.8%）	25（8.8%）	284
班から戸配	101（40.9%）	121（49.0%）	25（10.1%）	247
最初から戸配	31（25.0%）	84（67.7%）	9（7.3%）	124
全体	244（37.3%）	352（53.7%）	59（9.0%）	655
				X^2=12.782　p<0.05

ここであらためて注意しておかなければならないのは、おそらくはそもそも生活クラブに加入しようとする人々の多くは加入前からかなり高い意識を持っていると想定されるということである。この

表*-13 購入態度の変化(組合員歴)								
	添加物の表示				環境負荷の高い商品は買わない			
	加入してから気にかけるようになった	加入前から気にかけている	加入後もあまり気にかけていない	計	加入してから気にかけるようになった	加入前から気にかけている	加入後もあまり気にかけていない	計
3年未満	17(18.1%)	75(79.8%)	2(2.1%)	94	23(24.5%)	55(58.5%)	16(17.0%)	94
3年以上10年未満	51(28.0%)	124(68.1%)	7(3.8%)	182	75(41.2%)	82(45.1%)	25(13.7%)	182
10年以上	122(34.1%)	228(63.7%)	8(2.2%)	358	176(48.9%)	138(38.3%)	46(12.8%)	360
全体	190(30.0%)	427(67.4%)	17(2.7%)	634	274(43.1%)	275(43.2%)	87(13.7%)	636
	X^2=10.861 p<0.05				X^2=18.720 p<0.01			
	地元で作られた商品を買う				商品の購入量に気をつける			
	加入してから気にかけるようになった	加入前から気にかけている	加入後もあまり気にかけていない	計	加入してから気にかけるようになった	加入前から気にかけている	加入後もあまり気にかけていない	計
3年未満	21(22.3%)	67(71.3%)	6(6.4%)	94	16(22.3%)	57(62.6%)	18(19.8%)	91
3年以上10年未満	64(35.2%)	103(56.6%)	15(8.2%)	182	25(14.0%)	109(60.9%)	45(25.1%)	179
10年以上	156(43.2%)	175(48.5%)	30(8.3%)	361	90(25.6%)	188(53.6%)	73(20.8%)	351
全体	241(37.8%)	345(54.2%)	51(8.0%)	637	131(21.1%)	354(57.0%)	136(21.9%)	621
	X^2=16.869 p<0.01				X^2=11.234 p<0.05			

節における、さまざまな差異の一部は、加入によって追加的な知識を得られたかどうかで回答が変化しているということが十分に考えられるということである。つまり、「加入してから気にかけるようになった」という回答は、知識・意識のグレードアップとして把握すべきものという可能性によって説明されるべきなのかもしれない。

4.7 インターネット利用について

近年は、インターネットが広範囲に普及し、インターネットを利用してさまざまな商品を購入することも珍しくなくなってきている。一部の生協でも、インターネットによる注文導入されている状況であり、生活クラブ生協北海道でも、一部に限定してインターネット注文が可能になっている。

問 17 では日常的にインターネットを利用しているかどうかを、問 18 ではインターネットを利用した消費材の注文の希望について問うた。日常的にインターネットを利用しているかどうかについては、「積極的に利用している」が 7.6%、「時々利用している」が 25.2 パーセント、あわせて 32.9%にとどまった（図 4-7・図 4-8)。他方、インターネットによる購入希望については、「利用してみたい」が 31.3%となり、日常的なインターネット利用とほぼ同じ値になっている。

図4-7 日常的インターネット利用
（N＝680）

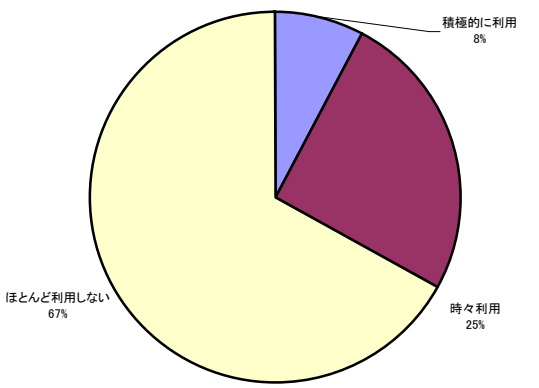
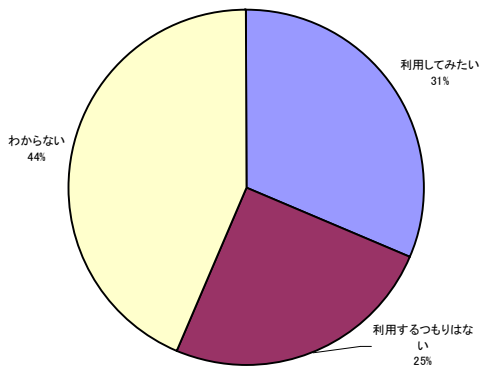


図4-8 インターネットによる購入
（N＝678）



しかしながら、単純にインターネット利用者がインターネット購入希望者と一致するかというと、ことはそう簡単ではない（表 4-14）。「積極的に利用」では、インターネット購入に対する希望が 9 割近くまで達しているが、「時々利用」では 5 割弱にとどまり、16.3%が「利用するつもりはない」という回答になっている。これは「時々利用」層では、パソコンやインターネットの利用自体への不安や、インターネットバンキングやインターネット決済におけるある種の不正行為などに起因する不安感や抵抗感の現れであると考えられる。また、「ほとんど利用しない」で、2 割弱が「利用してみたい」と回答し、「利用するつもりはない」と回答しているのは 3 割強にとどまっているのは興味深い。興味関心はあるが利用する機会がないということが、このような回答の傾向をもたらしているのかもしれない。

表4-14　インターネット

	利用してみたい	利用するつもりはない	わからない	計
積極的に利用	45（86.5%）	0（0.0%）	7（13.5%）	52
時々利用	81（47.1%）	28（16.3%）	63（36.6%）	172
ほとんど利用しない	86（19.0%）	142（31.3%）	225（49.7%）	453
全体	212（31.3%）	170（25.1%）	295（43.6%）	677
				X^2=128.311　p<0.001

世代との関連は、容易に想像されることではあるが、日常的利用と購入希望ともに年齢との負の相関がみられる（表 4-15）。ここで興味深いのは、30 代以下でも日常的利用で「積極的に利用」が 18.3%にとどまり、「ほとんど利用しない」が 48.4%を占めているということである。これに関しては土橋が指摘するように、子育て期間中はパソコンによるインターネット利用よりも携帯電話によるインターネット利用に傾く傾向があるためと思われる（土橋，2006）。購入希望については、30 代と 40 代では大きな差異はないとみてよいと思われ、相対的にではあるが、利用に関して積極的な姿勢がうかがえる。60 代以上になると「利用するつもりはない」が 42.9%を占めており、不安感・抵抗感の強さが顕著に現れているといえるだろう。なお、組合員歴との関係では、日常的利用については有意な結果が見出されているが、購入希望では有意確率が 0.388 となっており、組合員歴の長さによる違いはみられない。

表4-15　インターネット（世代）

	日常的利用				購入希望			
	積極的に利用	時々利用	ほとんど利用しない	計	利用してみたい	利用するつもりはない	わからない	計
30代以下	17（18.3%）	31（33.3%）	45（48.4%）	93	38（40.9%）	15（16.1%）	40（43.0%）	93
40代	21（10.0%）	61（28.9%）	129（61.1%）	211	76（36.2%）	41（19.5%）	93（44.3%）	210
50代	11（3.9%）	69（24.6%）	201（71.5%）	281	83（29.6%）	75（26.8%）	122（43.6%）	280
60代以上	1（1.1%）	10（11.0%）	80（87.9%）	91	12（13.2%）	39（42.9%）	40（44.0%）	91
全体	50（7.4%）	171（25.3%）	455（67.3%）	676	209（31.0%）	170（25.2%）	295（43.8%）	674
	X^2=49.755　p<0.001				X^2=31.491　p<0.001			

最後に、就業形態との関連についてであるが、購入希望において有意な結果が得られている（表 4-16）。「利用してみたい」はフルタイムで 42.1%、パートタイム等で 36.5%となり、職についている組合員においてインターネット購入に対する関心が高い傾向が現れている。これは事に就く女性の加入を促進する手段として、インターネットによる注文がひとつの可能性を示しているともいえる。

「わからない」という回答が多数を占めているため、可能性はまだまだ流動的だが、インターネットが新たな組合員を掘り起こす可能性は十分にあるといえる。

表4-16　インターネットによる購入希望（就業形態）

	利用してみたい	利用するつもりはない	わからない	計
自営業	19（28.4%）	9（13.4%）	39（58.2%）	67
フルタイム	32（42.1%）	14（18.4%）	30（39.5%）	76
パートタイム等	73（36.5%）	49（24.5%）	78（39.0%）	200
仕事はしていない	80（25.6%）	91（29.2%）	141（45.2%）	312
全体	204（31.1%）	163（24.9%）	288（44.0%）	655
				X^2=19.760　p<0.01

第 5 章　生活クラブの組織的活動への参加・評価

生活クラブにかかわる活動は多岐にわたっている。ここでは、そうした諸活動への参加度・評価などについて検討する（問 9 および問 19〜問 25）。

5.1　役職経験

生活クラブにはさまざまな役職がある。2002 年に行われた組織改革以前は、各班に班長が置かれ、5〜20 班に 1 人の割合で支部委員を選出、支部では、その他に消費委員・石けん委員、短期間では共済委員などが原則常任とされ、支部により異なるが、機関紙編集・地区館運営・反原発運動などが置かれている場合もあった。

問 9 では、理事・監事・支部委員長・消費委員長・支部委員・消費委員・その他委員長・その他委員・プロジェクト参加・班代表（班長）の経験の有無と、経験があった場合にその年数をうかがった。

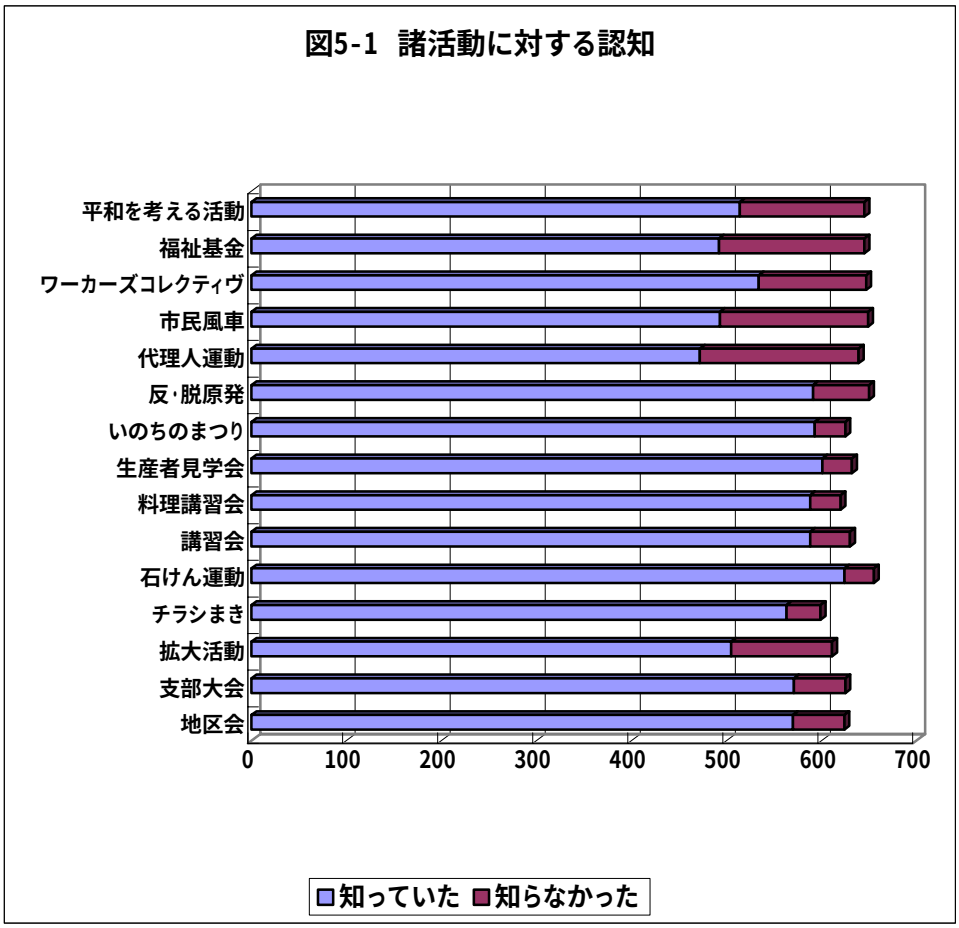
「経験がある」の中には、理事 2・監事 2 の回答があり、経験年数は 5〜7 年となっている。また、支部委員長 5・消費委員長 18・その他委員長 17 の回答があり、経験年数は 1-2 年がほとんどで、支部委員長を経験した 2 人とその他委員長 4 人が 3 年以上という回答である。支部委員では 79、消費委員は 89、その他委員は 54、プロジェクトが 22 の回答があった。おおむね 1.2 年の経験年数となっているが、3 年以上では 10 年との回答もある。

班代表（班長）は、「経験がある」が 376 となり、55.1%に達した。また、経験年数は 1 年が最多で 114、以下 2 年が 92、3 年が 65 となっている。基本的に持ち回りで行うことの多い班代表（班長）ゆえに、経験は半数以上に達し、また、期間も 1〜3 年に集中している。しかし、10 年以上の回答も 16 あり、最長は 20 年であった。現在も班の組合員と現在戸配である組合員との間では、班代表（班長）の経験において有意な差はみられない。ちなみに、支部委員の経験・消費委員の経験についても同様である。このことは、ある意味で「民主的に」役割が他者に引き継がれていったという証明ともいえる。

5.2　組織運営上の活動への参加

生活クラブでは、日常的活動・定期的活動・年間行事などとして位置づけられる活動や、生活クラブから派生的に生まれた活動がある。問 19 および 20 では、それらの活動に関する認知や参加度について質問した（図 5-1）。どの活動に対してもおおむね高い認知度となっているが、相対的には、生協の事業に直接的にかかわると思われる活動（図 5-1 の、「いのちのまつり」から「地区会」までの活動。以下「組織内的活動」とする）に対する認知が高く、ワーカーズコレクティヴや代理人運動など、生活クラブにとってはきわめて重要な位置づけが与えられるが、生協セクター全体からみた場合には必ずしも必要条件とはならない活動（図 5-1 の、「平和を考える活動」から「脱原発」までの活動。以下「組織外的活動」とする）に対する認知が低くなる傾向にある。最も「知っていた」の割合が高かったのは「石けん運動」の 91.4%、最小は「代理人運動」の 69.1%である。「石けん運動」は唯一認知度が 9 割を超えているが、これは、ある意味で「生協＝石けん」のイメージが一般にかなり広まっていることと関係しているかもしれない。

組織内的活動については、「拡大活動」以外はすべて「知っていた」という回答が 8 割を超えており、多くは 9 割に近い値となっている。多くの生協では職員活動と位置づけられる場合が多い拡大活動は、生活クラブにおいては組合員の重要な活動として位置づけられているのであるが、他と比べる



と相対的に認知度が低くなっている（「知っていた」73.9%）。

組織外的活動については、「反・脱原発」以外は 7 割前後の認知度にとどまった。「反・脱原発」は唯一 86.5%という高い認知度を示しているが、これは、数十年前であれば特定のイデオロギーや政治的信条とセットで語られていた「反・脱原発」が、いまや脱イデオロギー化・脱政党化し、「良識ある市民の共通の課題」として認知されていることを物語っているといえよう。少なくとも、「良識ある」主婦の間では、原子力発電所は、一般的に「危険であり」「ない方がいい」と考えられているということができるだろう。

世代・組合員歴・加入形態について関連をみてみると、当然のことではあるが、組合員歴において有意な関係となっており（すべて 0.1%水準で有意）、組合員歴と認知度が正比例している。また、加入形態との関連でも、班の経験の有無で明らかな違いが現れている（表 5-1）。他方、世代では、15 項目中、6 項目（拡大活動、生産者見学会、反・脱原発、代理人運動、市民風車、ワーカーズコレクティヴ）で 0.1%水準、4 項目（地区大会、支部大会、いのちのまつり、福祉基金）で 1%水準、2 項目（講習会、平和を考える活動）で 5%水準の有意性が認められたが、3 項目（チラシまき、石けん運動、料理講習会）では有意性がみられなかった。このことから、年齢的な要素よりも、むしろどれだけ長く組合員をしているか、そして班を経験するか否かの方が認知度に影響することが予想される。

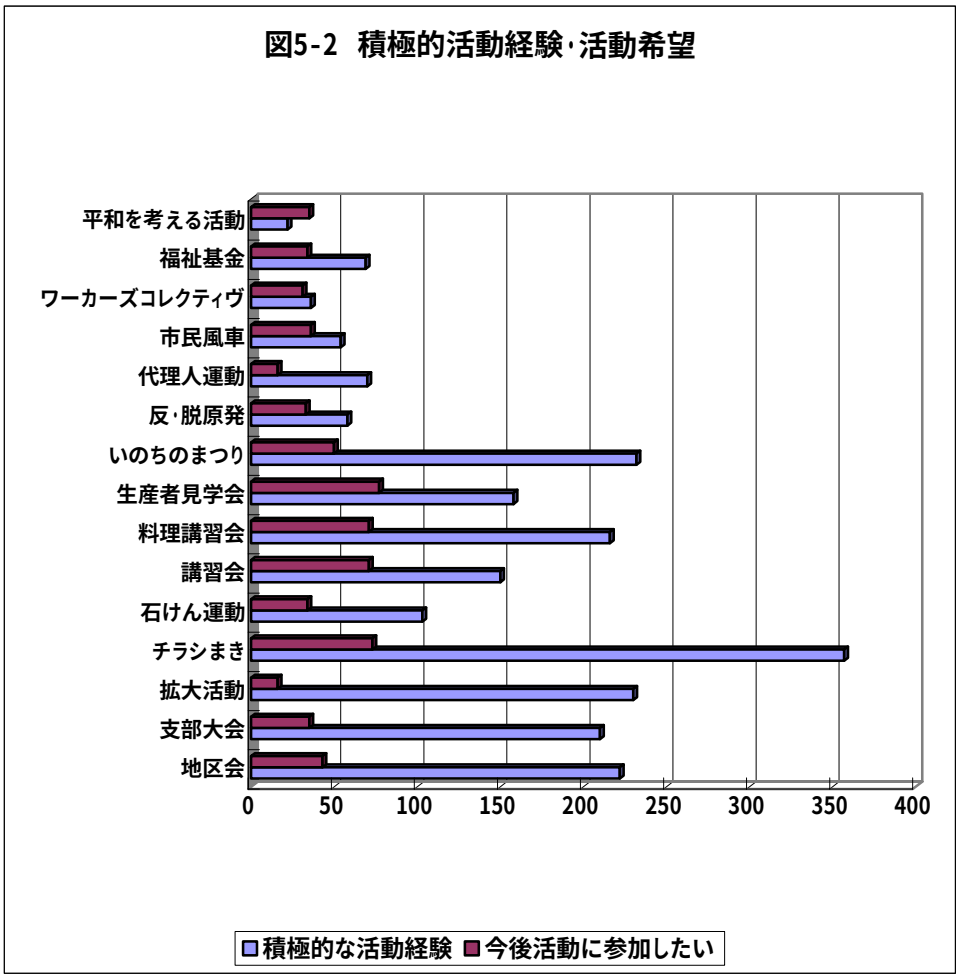
表 5-1 は、加入形態別に認知度をまとめたものであるが、総体的な特徴は、「最初から戸配」の認知度が班経験者に比べて著しく低いことにある。これは、班が、生活クラブの諸活動を知る場としても機能しているということを示すものであると考えられる。また、組織内的活動よりも、組織外的活動において、班経験者と「最初から戸配」との間の差が大きい。

表5-1 諸活動に対する認知（加入形態）									
	地区大会			支部大会			拡大活動		
	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計
班員	254 (96.9%)	8 (3.1%)	262	249 (95.4%)	12 (4.6%)	261	230 (89.5%)	27 (10.5%)	257
班から戸配	222 (96.1%)	9 (3.9%)	231	226 (96.6%)	8 (3.4%)	234	210 (91.7%)	19 (8.3%)	229
最初から戸配	73 (67.6%)	35 (32.4%)	108	75 (70.1%)	32 (29.9%)	107	46 (43.8%)	59 (56.2%)	105
全体	549 (91.3%)	52 (8.7%)	601	550 (91.4%)	52 (8.6%)	602	486 (82.2%)	105 (17.8%)	591
	X^2=94.113 p<0.001			X^2=74.808 p<0.001			X^2=129.436 p<0.001		
	チラシまき			石けん運動			講習会		
	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計
班員	241 (98.4%)	4 (1.6%)	245	268 (98.2%)	5 (1.8%)	273	256 (97.3%)	7 (2.7%)	263
班から戸配	220 (98.2%)	4 (1.8%)	224	243 (98.0%)	5 (2.0%)	248	227 (95.4%)	11 (4.6%)	238
最初から戸配	81 (75.0%)	27 (22.9%)	108	90 (81.1%)	21 (18.9%)	111	85 (79.4%)	22 (20.6%)	107
全体	542 (93.9%)	35 (6.1%)	577	601 (95.1%)	31 (4.9%)	632	568 (93.4%)	40 (6.6%)	608
	X^2=83.604 p<0.001			X^2=56.701 p<0.001			X^2=42083 p<0.001		
	料理講習会			生産者見学会			いのちのまつり		
	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計
班員	253 (97.7%)	6 (2.3%)	259	257 (98.5%)	4 (1.5%)	261	255 (98.5%)	4 (1.5%)	259
班から戸配	226 (97.8%)	5 (2.2%)	231	233 (97.1%)	7 (2.9%)	240	232 (98.3%)	4 (1.7%)	236
最初から戸配	87 (80.6%)	21 (19.4%)	108	89 (81.7%)	20 (18.3%)	109	84 (78.5%)	23 (21.5%)	107
全体	566 (94.8%)	32 (5.4%)	598	579 (94.9%)	31 (5.1%)	610	571 (94.9%)	31 (5.1%)	602
	X^2=51.693 p<0.001			X^2=48.921 p<0.001			X^2=71.190 p<0.001		
	反・脱原発			代理人運動			市民風車		
	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計
班員	257 (95.5%)	12 (4.5%)	269	231 (85.9%)	38 (14.1%)	269	233 (86.0%)	38 (14.0%)	271
班から戸配	238 (96.0%)	10 (4.0%)	248	190 (78.5%)	52 (21.5%)	242	201 (81.0%)	47 (19.0%)	248
最初から戸配	73 (67.6%)	35 (32.4%)	108	36 (34.3%)	69 (65.7%)	105	44 (41.5%)	62 (58.5%)	106
全体	568 (90.9%)	57 (9.1%)	625	457 (74.2%)	159 (25.8%)	616	478 (76.5%)	147 (23.5%)	625
	X^2=73.031 p<0.001			X^2=108.849 p<0.001			X^2=88.553 p<0.001		
	ワーカーズコレクティヴ			福祉基金			平和を考える活動		
	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計	知っていた	知らなかった	計
班員	243 (90.3%)	26 (9.7%)	269	231 (86.2%)	37 (13.8%)	268	233 (86.3%)	37 (13.7%)	270
班から戸配	215 (86.0%)	35 (14.0%)	250	192 (78.0%)	54 (22.0%)	246	198 (80.5%)	48 (19.5%)	246
最初から戸配	56 (53.3%)	49 (46.7%)	105	51 (47.2%)	57 (52.8%)	108	65 (61.3%)	41 (38.7%)	106
全体	514 (82.4%)	110 (17.6%)	624	474 (76.2%)	148 (23.8%)	622	496 (79.7%)	126 (20.3%)	622
	X^2=74.987 p<0.001			X^2=65.240 p<0.001			X^2=29.533 p<0.001		

これらを、組合員の質的な変化とみることもできるかもしれない。すなわち、生活クラブへの加入は、「よい消費材を入手するため」以上のものではなく、消費材購入以外の事柄に関して関心を持たない組合員が増加しているという可能性である。言い換えれば、ある種の個人主義的傾向あるいは道具的・機能的利用が強まっているという可能性である。

5.3 積極的活動経験・活動希望

問 19 および 20 では、同時に積極的な活動経験の有無と、今後の活動への参加希望もうかがった。その結果をまとめたのが図 5-2 である。積極的な活動経験については、組織内的活動と組織外的活動の間に差がみられ、組織内的活動においてはおおむね積極的活動経験があるとの回答が多く得られた。しかしながら、有効回答数が 683 であることを考えると、その割合は決して高いとはいえず、チラシまきが唯一 5 割を超える回答となったのみで、その他では 2〜3 割程度にとどまっている。組織外的活動ではさらに積極的活動経験は低くなり、1 割前後に集中している。ワーカーズコレクティヴ（5.1%）と平和を考える活動（3.2%）ではさらに低い数値となっている。平和を考える活動につい



ては、比較的取り組みが新しいということも考えられるが、その他の諸活動についても、あまり普及していない実態が明らかになったといえるかもしれない。

今後の参加希望についても、最も高い生産者見学会で 11.3%にとどまり、組織外的活動としてまとめたものでは 5%前後となっている。最も低い代理人運動と拡大活動では 2.3%となった。

これらより、総じて組合員は、購買以外の活動について、あまり積極的な関心を有しておらず、生活クラブの特徴ともいわれる、代理人運動・ワーカーズコレクティヴ・反原発運動などの諸活動については、ごく一部の取り組みにとどまっている様子がうかがえる。

活動経験については、年齢や組合員歴と正比例関係にあるのは当然のことだが、就業形態と加入形態との関連で興味深い結果を得られた。

就業形態との関連では、地区会・支部大会・拡大活動・ちらしまき講習会・料理講習会・生産者見学会・いのちのまつり・ワーカーズコレクティヴで統計的に有意となった（表 5-2)。仕事の有無および時間の融通性で差が出ることが予想されるところだが､実際には､｢パートタイム等｣で最大となり、以下「仕事はしていない」･「自営業」･「フルタイム」の順となった。統計的に有意な結果が出なかった他の活動についても、おおむね同様の傾向を示している。このような結果となった理由としては、職業で「ワーカーズコレクティヴ」と回答した 18 名を「パートタイム等」に算入した結果である可能性もあるし（ワーカーズコレクティヴが有意になったのはこの影響)、パートタイム労働をはじめる前に積極的に各種の活動に関わっていたという可能性もある。また、いわゆる専業主婦が外部とのかかわりを積極的に持とうとしないあるいは持てない傾向があるということも考えられるかもしれない。

表5-2　積極的な活動経験（就業形態）

	地区会			支部大会			拡大活動		
	ある	ない	計	ある	ない	計	ある	ない	計
自営業	17 (26.2%)	48 (73.8%)	65	17 (27.0%)	46(73.0%)	63	26(41.3%)	37 (58.7%)	63
フルタイム	12 (15.6%)	65 (84.4%)	77	12 (15.6%)	65 (84.4%)	77	13(16.9%)	64 (83.1%)	77
パートタイム等	81 (40.5%)	119 (59.5%)	200	80(39.8%)	121(60.2%)	201	83(41.5%)	117 (58.5%)	200
仕事はしていない	106 (35.2%)	195 (64.8%)	301	97(32.1%)	205(67.9%)	302	100 (32.9%)	204 (67.1%)	304
全体	216 (33.6%)	427 (66.4%)	643	206(32.0%)	437(68.0%)	643	222 (34.5%)	422 (65.5%)	644
	X^2=17.439　p<0.01			X^2=15.877　p<0.01			X^2=16.542　p<0.01		
	ちらしまき			講習会			料理講習会		
	ある	ない	計	ある	ない	計	ある	ない	計
自営業	33 (49.3%)	34 (50.7%)	67	12 (18.5%)	53 (81.5%)	65	23 (34.8%)	43 (65.2%)	66
フルタイム	34 (44.2%)	43 (55.8%)	77	7 (9.1%)	70 (90.9%)	77	7 (9.2%)	69 (90.8%)	76
パートタイム等	126 (62.7%)	75 (37.5%)	201	57 (28.4%)	144 (71.6%)	201	80 (39.8%)	121 (60.2%)	201
仕事はしていない	152 (49.7%)	154 (50.3%)	306	71 (23.6%)	230 (76.4%)	301	100 (32.8%)	205 (67.2%)	305
全体	345 (53.0%)	306 (47.0%)	651	147 (22.8%)	497 (77.2%)	644	210 (32.4%)	438 (67.6%)	648
	X^2=11.726　p<0.01			X^2=12.540　p<0.01			X^2=23.885　p<0.001		
	生産者見学会			いのちのまつり			ワーカーズコレクティヴ		
	ある	ない	計	ある	ない	計	ある	ない	計
自営業	14 (21.2%)	52 (78.8%)	66	19 (28.4%)	48 (71.6%)	67	2 (3.1%)	62 (96.9%)	64
フルタイム	8 (10.4%)	69 (89.6%)	77	15 (19.5%)	62 (80.5%)	77	2 (2.6%)	74 (97.4%)	76
パートタイム等	56 (27.9%)	145 (72.1%)	201	90 (45.0%)	110 (55.0%)	200	22 (11.1%)	176 (88.9%)	198
仕事はしていない	75 (24.8%)	228 (75.2%)	303	102 (33.9%)	199 (66.1%)	301	8 (2.7%)	291 (97.3%)	299
全体	153 (23.6%)	494 (76.4%)	647	226 (35.0%)	419 (65.0%)	645	34 (5.3%)	603 (94.7%)	637
	X^2=9.894　p<0.05			X^2=18.396　p<0.001			X^2=18.978　p<0.001		

表5-3　積極的な活動経験（加入形態）

	地区会			支部大会			拡大活動		
	ある	ない	計	ある	ない	計	ある	ない	計
班	138 (48.9%)	144 (51.1%)	282	121 (42.9%)	161 (57.1%)	282	125 (44.2%)	158 (55.8%)	283
班から戸配	72 (28.6%)	180 (71.4%)	252	77 (30.4%)	176 (69.6%)	253	95 (37.3%)	160 (62.7%)	255
最初から戸配	6 (5.5%)	103 (94.5%)	109	6 (5.6%)	102 (94.4%)	108	2 (1.9%)	103 (98.1%)	105
全体	216 (33.6%)	427 (66.4%)	643	204 (31.7%)	439 (68.3%)	643	222 (34.5%)	421 (65.5%)	643
	X^2=71.157　p<0.001			X^2=50.621　p<0.001			X^2=61.911　p<0.001		
	ちらしまき			石けん運動			講習会		
	ある	ない	計	ある	ない	計	ある	ない	計
班	194 (68.3%)	90 (31.7%)	284	58 (20.4%)	226 (79.6%)	284	81 (29.0%)	198 (71.0%)	279
班から戸配	138 (53.5%)	120 (46.5%)	258	41 (16.1%)	214 (83.9%)	255	61 (23.9%)	194 (76.1%)	255
最初から戸配	14 (12.8%)	95 (81.2%)	109	2 (1.8%)	109 (98.2%)	111	3 (2.8%)	105 (97.2%)	108
全体	346 (53.1%)	305 (46.9%)	651	101 (15.5%)	549 (84.5%)	650	145 (22.6%)	497 (77.4%)	642
	X^2=97.337　p<0.001			X^2=21.178　p<0.001			X^2=31.127　p<0.001		
	料理講習会			生産者見学会			いのちのまつり		
	ある	ない	計	ある	ない	計	ある	ない	計
班	117 (41.6%)	164 (58.4%)	281	90 (32.0%)	191 (68.0%)	281	129 (46.1%)	151 (53.9%)	280
班から戸配	90 (35.2%)	166 (64.8%)	256	62 (24.2%)	194 (75.8%)	256	89 (34.9%)	166 (65.1%)	255
最初から戸配	3 (2.7%)	107 (97.3%)	110	1 (0.9%)	108 (99.1%)	109	8 (7.4%)	100 (92.6%)	108
全体	210 (32.5%)	437 (67.5%)	647	153 (23.7%)	493 (76.3%)	648	226 (35.1%)	417 (64.9%)	643
	X^2=56.002　p<0.001			X^2=42.123　p<0.001			X^2=51.125　p<0.001		
	反･脱原発			代理人運動			市民風車		
	ある	ない	計	ある	ない	計	ある	ない	計
班	36 (12.9%)	242 (87.1%)	278	47 (17.1%)	228 (82.9%)	275	24 (8.7%)	253 (91.3%)	277
班から戸配	20 (7.8%)	235 (92.2%)	255	21 (8.6%)	224 (91.4%)	245	27 (10.6%)	227 (89.4%)	254
最初から戸配	2 (1.8%)	107 (98.2%)	109	0 (0.0%)	105 (100%)	405	1 (0.9%)	105 (99.1%)	106
全体	58 (9.0%)	584 (91.0%)	642	68 (10.9%)	557 (89.1%)	625	52 (8.2%)	585 (91.8%)	637
	X^2=12.501　p<0.01			X^2=25.106　p<0.001			X^2=9.524　p<0.01		
	ワーカーズコレクティヴ			福祉基金					
	ある	ない	計	ある	ない	計			
班	22 (8.0%)	254 (92.0%)	276	41 (14.8%)	236 (85.2%)	277			
班から戸配	11 (4.3%)	242 (95.7%)	253	23 (9.2%)	228 (90.8%)	251			
最初から戸配	1 (1.0%)	104 (99.0%)	105	4 (3.7%)	104 (96.3%)	108			
全体	34 (5.4%)	600 (94.6%)	634	68 (10.7%)	568 (89.3%)	636			
	X^2=8.237　p<0.05			X^2=11.037　p<0.01					

有意となった 9 つの活動のうち、拡大活動とちらしまきについてはやや違った傾向となっている。拡大活動については、相対的に「自営業」の割合が高くなっている。これは、本業の顧客への勧誘が比較的容易であるということであろうか。また、ちらしまきでは、「パートタイム等」以外であまり差がない。さまざまな活動の中で、ちらしまきは比較的自由に時間設定ができるため、職についていても比較的参加がしやすいということと思われる。

加入形態との関連では、平和を考える活動を除く 14 の活動で有意となった（表 5-3）。「最初から戸配」は組合員歴も浅く、組合員活動のベースが班である現状なので、当然のことながら割合はきわめて小さくなる。むしろ、ここで注目しておかなければならないのは、市民風車を除く 13 の活動で、「班」と「班から戸配」との間での差がある点、すなわち、「班から戸配」の割合が相対的に低くなるという点である。地区会では 20 ポイント以上の差が生じており、支部大会・ちらしまき・いのちのまつりで 10 ポイント以上離れている。ここから、班から戸配への移動が、生活クラブの諸活動への参加と関係している、つまり、消費材購入以外の点に関心が薄い組合員が戸配へと移動する傾向があるということが明らかとなるのである。

次に、活動希望について、就業形態・組合員歴・世代・加入形態・役職経験との関連はどのようになっているであろうか。

就業形態との関係では、講習会といのちのまつりの 2 つのみ統計的に有意であった。いずれも 5%水準で有意であり、「パートタイム」および「仕事はしていない」で割合が高くなっているが、組織内的活動では全般的にこの傾向がみられる。総じて就業形態と活動希望は関連性が低い。

組合員歴との関係では、石けん運動・生産者見学会・平和を考える活動で統計的に有意な結果が得られた（表 5-4）。全般的に、組織内的活動については、組合員歴と参加希望は反比例の関係にあり、組合員歴が浅い方が、参加希望が高い傾向にある。他方、組織外的活動については、活動によって参加希望の現れ方に差があり、一貫した傾向がみられない。

表5-4 諸活動への参加希望（組合員歴）

	石けん運動		
	参加したい	参加したくない	計
3年未満	8 (8.6%)	85 (91.4%)	93
3年以上-10年未満	17 (9.4%)	163 (90.6%)	180
10年以上	8 (2.2%)	351 (97.8%)	359
全体	33 (5.2%)	599 (94.8%)	632
			X^2=15.133 p<0.01
	生産者見学会		
	参加したい	参加したくない	計
3年未満	19 (20.4%)	74 (79.6%)	93
3年以上-10年未満	23 (12.9%)	155 (87.1%)	178
10年以上	34 (9.5%)	324 (90.5%)	358
全体	76 (12.1%)	553 (87.9%)	629
			X^2=8.471 p<0.05
	平和を考える活動		
	参加したい	参加したくない	計
3年未満	8 (8.9%)	82 (91.1%)	90
3年以上-10年未満	15 (8.5%)	162 (91.5%)	177
10年以上	11 (3.2%)	336 (96.8%)	347
全体	34 (5.5%)	580 (94.5%)	614
			X^2=8.570 p<0.05

表5-5 諸活動への参加希望（世代）

	地区会			石けん運動			講習会		
	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計
30代以下	12 (13.0%)	80 (87.0%)	92	10 (10.9%)	83 (90.2%)	92	16 (17.4%)	76 (82.6%)	92
40代	12 (5.7%)	198 (94.3%)	210	13 (6.2%)	186 (88.2%)	211	27 (12.5%)	184 (87.2%)	211
50代	16 (5.7%)	253 (94.3%)	279	7 (2.5%)	253 (89.7%)	282	23 (8.2%)	256 (91.8%)	279
60代以上	3 (3.7%)	78 (96.3%)	81	4 (4.7%)	76 (89.4%)	85	5 (6.3%)	74 (93.7%)	79
全体	43 (6.5%)	619 (93.5%)	662	34 (5.1%)	598 (89.3%)	670	71 (10.7%)	590 (89.3%)	661
		X^2=8.011 p<0.05			X^2=10.833 p<0.05			X^2=8.592 p<0.05	
	料理講習会			生産者見学会			いのちのまつり		
	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計
30代以下	20 (21.7%)	72 (78.3%)	92	21 (22.8%)	71 (77.2%)	92	17 (19.1%)	72 (80.9%)	89
40代	26 (12.3%)	185 (87.7%)	211	25 (11.8%)	186 (88.2%)	211	14 (6.6%)	197 (93.4%)	211
50代	21 (7.5%)	258 (92.5%)	279	24 (8.6%)	256 (91.4%)	280	16 (5.7%)	265 (94.3%)	281
60代以上	4 (4.8%)	79 (95.2%)	83	7 (8.5%)	75 (91.5%)	82	3 (3.7%)	78 (96.3%)	81
全体	71 (10.7%)	594 (89.3%)	665	77 (11.6%)	588 (88.4%)	665	50 (7.6%)	612 (92.4%)	662
		X^2=18.293 p<0.001			X^2=14.597 p<0.01			X^2=20.363 p<0.001	

表5-6 諸活動への参加希望（加入形態）												
	地区会			支部大会			石けん運動			料理講習会		
	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計
班	25 (8.9%)	257 (91.1%)	282	21 (7.4%)	261 (92.6%)	282	12 (4.2%)	272 (95.8%)	284	34 (12.1%)	247 (87.9%)	281
班から戸配	8 (3.2%)	244 (96.8%)	252	4 (1.6%)	249 (98.4%)	253	8 (3.1%)	247 (96.9%)	255	17 (6.6%)	239 (93.4%)	256
最初から戸配	6 (5.5%)	103 (94.5%)	109	7 (6.5%)	101 (93.5%)	108	13 (11.7%)	98 (88.3%)	111	15 (13.6%)	95 (86.4%)	110
全体	39 (6.1%)	604 (93.9%)	643	32 (5.0%)	611 (95.0%)	643	33 (5.1%)	617 (94.9%)	650	66 (10.2%)	581 (89.8%)	647
	X^2=7.636 p<0.05			X^2=10.324 p<0.01			X^2=12.557 p<0.01			X^2=6.066 p<0.05		
	生産者見学会			反・脱原発			平和を考える活動					
	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計			
班	41 (14.6%)	240 (85.4%)	281	20 (7.2%)	258 (92.8%)	278	18 (6.6%)	256 (93.4%)	274			
班から戸配	17 (6.6%)	239 (93.4%)	256	4 (1.6%)	251 (98.4%)	255	6 (2.4%)	243 (97.6%)	249			
最初から戸配	16 (14.7%)	93 (85.3%)	109	9 (8.3%)	100 (91.7%)	109	11 (10.4%)	95 (89.6%)	106			
全体	74 (11.5%)	572 (88.5%)	646	33 (5.1%)	609 (94.9%)	642	35 (5.6%)	594 (94.4%)	629			
	X^2=9.691 p<0.01			X^2=11.248 p<0.01			X^2=9.915 p<0.01					

表5-7 諸活動への参加希望（役職経験）												
	地区会			支部大会			拡大活動			ちらしまき		
	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計
役員・委員長	6 (19.4%)	25 (80.6%)	31	6 (19.4%)	25 (80.6%)	31	5 (16.1%)	26 (83.9%)	31	7 (22.6%)	24 (77.4%)	31
委員（3年以上）	7 (20.0%)	28 (80.0%)	35	5 (14.3%)	30 (85.7%)	35	1 (2.9%)	34 (97.1%)	35	9 (25.7%)	26 (74.3%)	35
委員（3年未満）	13 (11.7%)	98 (88.3%)	111	7 (6.3%)	105 (93.8%)	112	3 (2.7%)	109 (97.3%)	112	16 (14.3%)	96 (85.7%)	112
役職経験なし	17 (3.5%)	472 (93.5%)	489	17 (3.5%)	471 (96.5%)	488	7 (1.4%)	481 (98.6%)	488	41 (8.3%)	455 (91.7%)	496
全体	43 (6.5%)	623 (93.5%)	666	35 (5.3%)	631 (94.7%)	666	16 (2.4%)	650 (97.6%)	666	73 (10.8%)	601 (89.2%)	674
	X^2=31.435 p<0.001			X^2=21.409 p<0.001			X^2=26.929 p<0.001			X^2=17.222 p<0.01		
	石けん運動			講習会			料理講習会			反・脱原発		
	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計
役員・委員長	6 (19.4%)	25 (80.6%)	31	10 (32.5%)	21 (67.7%)	31	9 (30.0%)	21 (70.0%)	30	8 (25.8%)	23 (74.2%)	31
委員（3年以上）	0 (0.0%)	35 (100.0%)	35	4 (11.8%)	30 (88.2%)	34	5 (14.3%)	30 (85.7%)	35	3 (8.6%)	32 (91.4%)	35
委員（3年未満）	7 (6.3%)	105 (93.8%)	112	12 (10.9%)	98 (89.1%)	110	10 (8.9%)	102 (91.1%)	112	6 (5.5%)	103 (94.5%)	109
役職経験なし	21 (4.2%)	474 (95.8%)	495	45 (9.2%)	445 (90.8%)	490	47 (9.6%)	445 (90.4%)	492	16 (3.3%)	474 (96.7%)	490
全体	34 (5.1%)	639 (94.9%)	673	71 (10.7%)	594 (89.3%)	665	71 (10.6%)	598 (89.4%)	669	33 (5.0%)	632 (95.0%)	665
	X^2=16.094 p<0.01			X^2=16.333 p<0.01			X^2=13.302 p<0.01			X^2=32.586 p<0.001		
	市民風車			ワーカーズコレクティヴ			福祉基金			平和を考える活動		
	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計	参加したい	参加したくない	計
役員・委員長	7 (22.6%)	24 (77.4%)	31	4 (12.9%)	27 (87.1%)	31	8 (25.8%)	23 (74.2%)	31	10 (32.5%)	21 (67.7%)	31
委員（3年以上）	3 (8.6%)	32 (91.4%)	35	0 (0.0%)	35 (100.0%)	35	2 (5.9%)	32 (94.1%)	34	1 (2.9%)	33 (97.1%)	34
委員（3年未満）	9 (8.3%)	100 (91.7%)	109	9 (8.3%)	100 (91.7%)	109	5 (4.5%)	105 (95.5%)	110	6 (5.6%)	101 (94.4%)	107
役職経験なし	17 (3.5%)	467 (96.5%)	484	18 (3.7%)	464 (96.3%)	482	19 (3.9%)	465 (96.1%)	484	18 (3.8%)	462 (96.3%)	480
全体	36 (5.5%)	623 (94.5%)	659	31 (4.7%)	626 (95.3%)	657	34 (5.2%)	625 (94.8%)	659	35 (5.4%)	617 (94.6%)	652
	X^2=23.457 p<0.001			X^2=10.426 p<0.05			X^2=28.635 p<0.001			X^2=47.005 p<0.001		

世代との関連においては、地区会・石けん運動・講習会・料理講習会・生産者見学会・いのちのまつりで統計的に有意となった（表 5-5）。これらについては、30 代以下において参加希望が高い。特に、料理講習会・生産者見学会・いのちのまつりではその傾向が顕著に現れている。料理講習会・生産者見学会・生産者交流会などについては、生活クラブ以外の生協でも取り組まれている事例も多く、組合員からの評判も高いという。食育の重要性が喧伝される今日ならではの傾向ともいえるのかもしれない。逆に、若い世代でこのような差異が現れたのは、特に生活クラブだからといった、ある意味で「特殊な」関心からというよりは、むしろ一般的なものと考えた方がいいだろう。上記 6 つ以外の活動については、世代間で特に大きな違いはみられない。

加入形態との関係では、7 項目で統計的に有意な結果が得られた（表 5-6）。一貫した傾向ではないが、大まかな傾向としては、「班」と「最初から戸配」が相対的に高くなり、「班から戸配」が低い。

また、「班」と「最初から戸配」では、後者が高くなる。この傾向は、統計的には有意ではなかった活動においても現れる傾向である。割合の差はわずかではあるため、限定的な解釈しかできないが、班から戸配に移動した組合員は、生活クラブの行っている諸活動に関心が薄く、消費材の購入に関心が特化しているということができるかもしれない。また、最初から戸配の組合員で相対的に高い参加希望が得られたのは、もちろん絶対的な数も少なく、加入歴が浅いためにある種の期待感が相対的に大きいということもあろうが、今後を考える上で明るい材料であるといえよう。

最後に、役職経験との関係は、生産者見学会・いのちのまつり・代理人運動以外の活動で統計的に有意となった（表 5-7）。傾向としては、これも一貫していないが、理事・監事・支部レベルの各種委員長などの経験がある組合員（以下「役員経験者」）、支部レベルの各種委員を 3 年以上務めた経験のある組合員、各種委員 3 年未満の組合員、役職経験がない組合員の順に参加希望が高くなる。

ただし、その現れ方には、活動によって差異もある。地区会・ちらしまきでは、「役員経験者」と「委員経験者（3 年以上）」がほぼ同様の割合で高く、支部大会・料理講習会では、「役員経験者」から「役員経験なし」までが、ほぼ一貫して正比例の関係となっている。また、地区会については、「役職経験なし」が目立って低くなっている。しかし、その他の 7 つの活動については、「役員経験者」を除いて目立った違いがみられない。

これらを総合すると、次のようなことがいえるだろう。組織内的活動については、拡大活動・石けん運動を例外として、おおむね役職による効果が効いており、より高い役職に就くこと、より長く役職に就くことで意識の違いが現れる。しかし、組織外的活動に関しては、本部とのかかわりを持たない多くの組合員にとって関心あるものにはならない。この傾向は、「役員経験者」が、比較的年齢が高く、組合員歴も長いと思われることを加味すると、相対的に今後の参加希望について否定的になる可能性が高い。このことを考慮すれば、「役職経験者」とその他の組合員との参加希望意識の差は相当に開きがあると考えられるだろう。

5.4　活動の是非

問 21 では、生活クラブが展開するさまざまな活動に対して、組合員がどのように評価しているかをうかがった（図 5-3）。総じて高い評価が与えられており、全体的には齟齬はないといってよいだろう。最も低い評価となった代理人運動でも 76.1%が肯定的意見となっており、否定的意見についても 9.0%にとどまっている。

もう少し細かくみていくと、石けん運動についてきわめて高い評価が与えられているのが目立っている（「積極的にすべき」57.0%、「ある程度活動すべき」39.2%）。また、反・脱原発に対して高い評価となっているのは（「積極的にすべき」44.1%、「ある程度活動すべき」44.7%）、泊原発をめぐる住民投票運動の影響かもしれないし、先にも記したように、脱イデオロギー化され、原発に対するリスクが共有されている結果と受け止めることもできる。ワーカーズコレクティヴについても評価は高い（「積極的にすべき」44.2%、「ある程度活動すべき」41.3%）。

他方、相対的に批判的意見が集まったのが、共済事業（「あまり活動すべきでない」6.7%、「活動すべきでない」3.3%）と福祉事業（「あまり活動すべきでない」6.9%、「活動すべきでない」3.1%）である。代理人運動も含め、これらの運動に批判的意見を表明している組合員は、「生協は『食』に特化すべき」という考えを持っているのかもしれない。

就業形態との関連では、福祉事業・脱原発・市民風車・平和を考える活動で統計的に有意な結果となった（表 5-8）。

図5-3　活動の是非

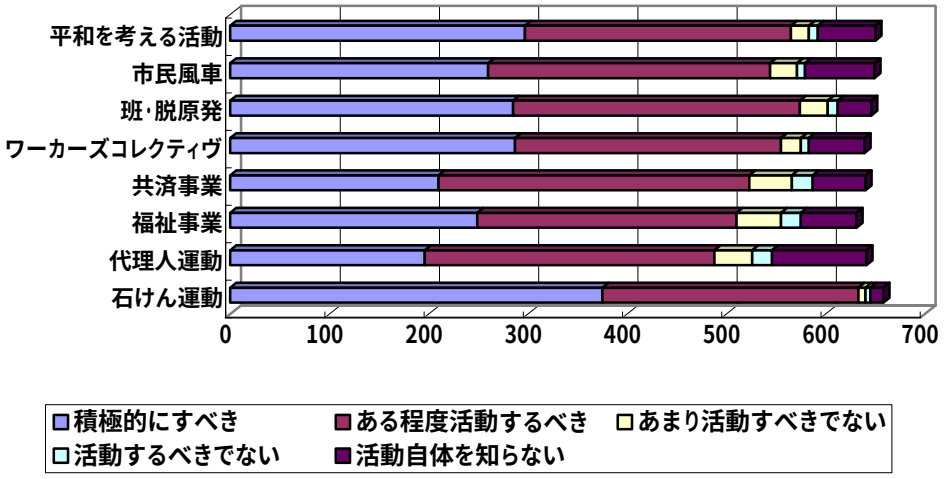


表5-8　活動の是非（就業形態）

	石けん運動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
自営業	40 (60.6%)	20 (30.3%)	4 (6.1%)	0 (0.0%)	2 (3.0%)	66
フルタイム	40 (54.8%)	30 (41.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (4.7%)	73
パートタイム等	106 (53.5%)	89 (44.9%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	1 (0.3%)	198
仕事はしていない	173 (58.1%)	113 (37.9%)	3 (1.0%)	3 (1.0%)	7 (2.3%)	198
計	359 (58.5%)	252 (39.7%)	7 (1.1%)	7 (0.6%)	13 (2.0%)	635
						X^2=26.311　p<0.05

	福祉事業					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
自営業	29 (45.3%)	23 (35.9%)	5 (7.8%)	2 (3.1%)	5 (7.8%)	64
フルタイム	28 (38.4%)	35 (47.9%)	5 (6.8%)	0 (0.0%)	5 (6.8%)	73
パートタイム等	85 (42.7%)	88 (44.2%)	14 (7.0%)	6 (3.0%)	6 (3.0%)	199
仕事はしていない	98 (33.3%)	127 (43.2%)	20 (6.8%)	10 (3.4%)	39 (13.3%)	294
計	240 (38.1%)	273 (43.3%)	44 (7.0%)	18 (2.9%)	55 (8.7%)	630
						X^2=22.173　p<0.05

	反・脱原発					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
自営業	30 (46.9%)	26 (40.6%)	6 (9.4%)	0 (0.0%)	2 (3.1%)	64
フルタイム	38 (52.1%)	28 (38.4%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	5 (6.8%)	73
パートタイム等	80 (40.4%)	103 (52.0%)	9 (4.5%)	9 (4.5%)	4 (2.0%)	198
仕事はしていない	125 (43.3%)	125 (43.3%)	10 (3.5%)	10 (3.5%)	23 (8.0%)	289
計	273 (43.8%)	282 (45.2%)	26 (4.2%)	26 (4.2%)	34 (5.4%)	624
						X^2=21.598　p<0.05

	市民風車					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
自営業	28 (43.8%)	25 (39.1%)	8 (12.5%)	0 (0.0%)	3 (4.7%)	64
フルタイム	33 (45.8%)	28 (38.9%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	10 (13.9%)	72
パートタイム等	76 (38.4%)	99 (50.0%)	9 (4.5%)	2 (1.0%)	12 (6.1%)	198
仕事はしていない	115 (39.1%)	123 (41.8%)	8 (2.7%)	4 (1.4%)	44 (15.0%)	294
計	252 (40.1%)	275 (43.8%)	26 (4.1%)	6 (1.0%)	69 (11.0%)	628
						X^2=30.652　p<0.01

表5-9 活動の是非（役職経験）

	石けん運動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
役員・委員長	25(80.6%)	6(19.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31
委員（3年以上）	27(77.1%)	8(22.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35
委員（3年未満）	65(58.0%)	47(42.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	112
役職経験なし	258(53.8%)	197(41.0%)	7(1.5%)	5(1.0%)	13(2.7%)	480
計	375(57.0%)	258(38.2%)	7 (1.1%)	5(0.8%)	13 (2.0%)	658
						X^2=21.846 p<0.05
	代理人運動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
役員・委員長	17(54.8%)	13(41.9%)	1(3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31
委員（3年以上）	19(54.3%)	13(37.1%)	1(2.9%)	1(2.9%)	1(2.9%)	35
委員（3年未満）	40(35.7%)	58(51.8%)	11(9.8%)	0 (0.0%)	3 (2.7%)	112
役職経験なし	120(25.9%)	208(44.9%)	25(5.4%)	19(4.1%)	91 (19.7%)	463
計	196(30.6%)	292(45.6%)	38(5.9%)	20(3.1%)	95 (14.8%)	641
						X^2=54.624 p<0.001
	共済事業					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
役員・委員長	15 (50.0%)	13 (43.3%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30
委員（3年以上）	13 (38.2%)	20 (58.8%)	0 (0.0%)	1(2.9%)	0 (0.0%)	34
委員（3年未満）	37 (33.6%)	56 (50.9%)	13 (11.8%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	110
役職経験なし	145 (31.1%)	224 (48.1%)	29 (6.2%)	17 (3.6%)	51 (10.8%)	466
計	210 (32.8%)	313 (48.9%)	43 (6.7%)	21 (3.3%)	53 (8.3%)	640
						X^2=27.452 p<0.01
	ワーカーズコレクティヴ					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
役員・委員長	20 (64.5%)	11 (35.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31
委員（3年以上）	20 (57.1%)	13 (37.1%)	1(2.9%)	0 (0.0%)	1(2.9%)	35
委員（3年未満）	50 (44.6%)	55 (49.1%)	4 (3.6%)	0 (0.0%)	3 (2.7%)	112
役職経験なし	197 (41.8%)	189 (40.1%)	15 (3.2%)	8 (1.7%)	62 (13.2%)	471
計	287 (44.2%)	288 (41.3%)	20 (3.1%)	8 (1.2%)	66 (10.2%)	649
						X^2=28.447 p<0.01
	反・脱原発					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
役員・委員長	17 (54.6%)	14 (45.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31
委員（3年以上）	17 (50.0%)	17 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	34
委員（3年未満）	52 (46.8%)	54 (48.6%)	5 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	111
役職経験なし	199 (42.3%)	204 (43.4%)	23 (4.9%)	10 (2.1%)	34 (7.2%)	470
計	285 (44.1%)	289 (44.7%)	28 (4.3%)	10 (1.5%)	34 (5.3%)	646
						X^2=22.017 p<0.05
	市民風車					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
役員・委員長	13 (41.9%)	18 (58.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31
委員（3年以上）	15 (42.9%)	16 (45.7%)	3 (8.6%)	0 (0.0%)	1(2.9%)	35
委員（3年未満）	49 (44.1%)	56 (50.5%)	5 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	111
役職経験なし	183 (38.8%)	194 (41.1%)	19 (4.0%)	8 (1.7%)	68 (14.4%)	472
計	260 (40.1%)	284 (43.8%)	27 (4.2%)	8 (1.2%)	70 (10.8%)	649
						X^2=31.287 p<0.01

ここから一貫した傾向を読み解くのは難しいが、概して、「フルタイム」と「仕事はしていない」で「活動自体を知らない」の回答が多くなる。「フルタイム」では仕事、「仕事はしていない」では子育てで、生協活動に割ける時間が制約されていることが考えられる。また、相対的に「自営業」での否定的意見が多くなり、逆に「フルタイム」で否定的意見が少なくなる傾向がある。これらのことが何を意味するかは、今後の検討課題としたい。

役職経験との関連では、福祉事業と平和を考える活動を除く 6 つの活動で、組合員歴および加入形態との関連ではすべての活動で、世代との関連では、石けん運動と平和を考える活動を除く 6 つの活動で、統計的に有意となった。これらは、相互に関連が深いため、このような結果になったのは至極当然のことのようにも思える。しかしながら、ここの傾向をみていくと興味深い点が散見される。

役職経験では、おおむね役職のレベルおよび年数と正比例の関係にある（表 5-9）。そして、「活動自体を知らない」という回答が「役職経験なし」に集中している。共同購入以外関心を示さない組合員の存在という可能性とともに、役職と情報との相関関係という仮説も成り立つと思われる。また、共済事業で「委員（3 年未満）」の否定的回答の割合が大きくなるのも特徴的である。

組合員歴との関係は若干複雑である（表 5-10）。組合員歴が長くなるほど肯定的な評価が増えることを予想していたが、実際にはそうはなっていない。

一貫しているのは、「活動自体を知らない」について、「3 年未満」が非常に高い割合を示すことである。また、「3 年未満」では、諸活動に対して否定的回答が皆無であることも注目されてよいだろう。ここから予想されるのは、新たに生活クラブに加入する組合員はあらかじめ二極分化されており、共同購入以外の活動に関心を示さないグループと、社会問題に関する意識が加入以前から高く、生活クラブの行っている諸活動について、その意義を評価しているグループとの分化である。平和を考える活動では「積極的にすべき」が半数を超えて最も高い比率になっているし、共済事業と反・脱原発では「10 年以上」と同等となっている。特にこれらについては、組合員歴の浅い彼女たちにとっても重要な課題として認識されているようである。

数自体はそれほど多くはないが、否定的回答は 3 年以上の組合員から現れてくる。これは、なんらかの形で諸活動の「実態」に触れることで、ある種の違和感を覚える組合員が、少数ではあるが存在するということであろうか。この点についてはさらなる探求が必要と思われる。また、「3 年以上 10 年未満」で、相対的に諸活動に対する評価が厳しくなる傾向も、組合員歴との関係で一貫している。これもさらに検討していく必要があるだろう。

加入形態との関連では、特に目立つのが「最初から戸配」における「活動自体を知らない」比率の高さである（表 5-11）。また、「最初から戸配」の否定的意見の少なさも注目されるべきところであろう。「最初から戸配」の組合員は、組合員歴が浅いために自然と生活クラブの行っている諸活動の認知が低くなるのは、至極当然のことである。むしろ、否定的意見が少ないという点を考慮すれば、生活クラブの諸活動に対する期待感という点では、そうした新しい組合員の方が（「実態を知らない」という側面も否定できないが）高いとすらいえるのかもしれない。

もうひとつ注目されるのは、「班」における否定的意見の比率の高さである。すべての活動において、量的および割合的に最も高くなっている。代理人運動・福祉事業・共済事業にいたっては、否定的意見の割合が 1 割を超えているのである。やや意外な結果とも思えるのだが、あえて解釈するとするならば、班の方が共同購入に関連する作業や時間が多いために、その他の活動に対して積極的になるインセンティヴがないという可能性、または、そもそも班に加入している組合員の方が広い意味で「保守的」であり、次々に活動のウィングを広げていく生活クラブのスタイルに抵抗感がある（もしくはついていけない）という可能性などが考えられよう。

世代との関連では、「活動自体を知らない」について、30 代以上では一貫して高い比率となり、60 代以上も比較的高い割合となる場合が多くなっている（表 5-12）。前者の場合は、組合員歴の浅さが原因と思われるが、後者については、60 代以上の新規戸配組合員が増えている可能性、組合員としての積極的な活動が 50 代までである可能性などが考えられる。

表5-10 活動の是非（組合員歴）

	石けん運動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
3年未満	54 (57.4%)	34 (36.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (6.4%)	94
3年以上10年未満	90 (52.0%)	73 (42.2%)	2 (1.2%)	4 (2.3%)	4 (2.3%)	173
10年以上	214 (60.6%)	131 (37.1%)	5 (1.4%)	1 (0.3%)	2 (0.6%)	353
計	358 (57.7%)	238 (38.4%)	7 (1.1%)	5 (0.8%)	12 (1.9%)	620
X^2=23.704 p<0.01						

	代理人運動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
3年未満	22 (23.7%)	30 (32.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (44.1%)	93
3年以上10年未満	42 (24.3%)	80 (47.3%)	8 (4.7%)	6 (3.8%)	33 (19.5%)	169
10年以上	124 (36.0%)	165 (48.0%)	27 (7.8%)	11 (3.2%)	17 (4.9%)	344
計	188 (31.0%)	275 (45.4%)	35 (5.8%)	17 (2.8%)	91 (15.0%)	606
X^2=99.934 p<0.001						

	福祉事業					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
3年未満	37 (39.4%)	31 (33.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	25 (26.6%)	94
3年以上10年未満	51 (29.8%)	85 (49.7%)	14 (8.2%)	4 (2.3%)	17 (9.9%)	171
10年以上	153 (43.7%)	145 (41.4%)	27 (7.7%)	15 (4.3%)	10 (2.9%)	350
計	241 (39.2%)	261 (42.4%)	42 (6.8%)	19 (3.1%)	52 (8.5%)	615
X^2=70.131 p<0.001						

	共済事業					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
3年未満	33 (35.1%)	36 (38.3%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	23 (24.5%)	94
3年以上10年未満	44 (26.8%)	93 (56.7%)	9 (5.5%)	3 (1.8%)	15 (9.1%)	164
10年以上	124 (35.8%)	166 (48.0%)	29 (8.4%)	16 (4.6%)	11 (3.2%)	346
計	201 (33.3%)	295 (48.8%)	40 (6.6%)	19 (3.1%)	49 (8.1%)	604
X^2=59.755 p<0.001						

	ワーカーズコレクティヴ					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
3年未満	37 (39.8%)	26 (28.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	29 (31.2%)	93
3年以上10年未満	64 (37.9%)	80 (47.3%)	4 (2.4%)	2 (1.2%)	19 (11.2%)	169
10年以上	175 (49.9%)	142 (40.5%)	14 (4.0%)	5 (1.4%)	15 (4.3%)	351
計	276 (45.0%)	248 (40.5%)	19 (3.1%)	7 (1.1%)	63 (10.3%)	613
X^2=65.618 p<0.001						

	反･脱原発					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
3年未満	44 (47.3%)	32 (34.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	17 (18.3%)	93
3年以上10年未満	69 (40.5%)	77 (45.3%)	7 (4.1%)	4 (2.4%)	13 (7.6%)	170
10年以上	166 (47.8%)	156 (45.0%)	20 (5.8%)	3 (0.9%)	2 (0.6%)	347
計	279 (45.7%)	265 (43.4%)	27 (4.4%)	7 (1.1%)	32 (5.2%)	610
X^2=58.860 p<0.001						

	市民風車					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
3年未満	36 (38.7%)	23 (24.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	34 (36.6%)	93
3年以上10年未満	73 (42.7%)	67 (39.2%)	7 (4.1%)	3 (1.8%)	21 (12.3%)	171
10年以上	142 (40.7%)	172 (49.3%)	18 (5.2%)	4 (1.1%)	13 (3.7%)	349
計	251 (40.9%)	262 (42.7%)	25 (4.1%)	7 (1.1%)	68 (11.1%)	613
X^2=89.387 p<0.001						

	平和を考える活動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
3年未満	48 (51.6%)	25 (26.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (21.5%)	93
3年以上10年未満	75 (44.1%)	71 (41.8%)	4 (2.4%)	4 (2.4%)	16 (9.4%)	170
10年以上	163 (46.6%)	152 (43.4%)	12 (3.4%)	4 (1.1%)	19 (5.4%)	350
計	286 (46.7%)	248 (40.5%)	16 (2.6%)	8 (1.3%)	55 (9.0%)	613
X^2=33.097 p<0.001						

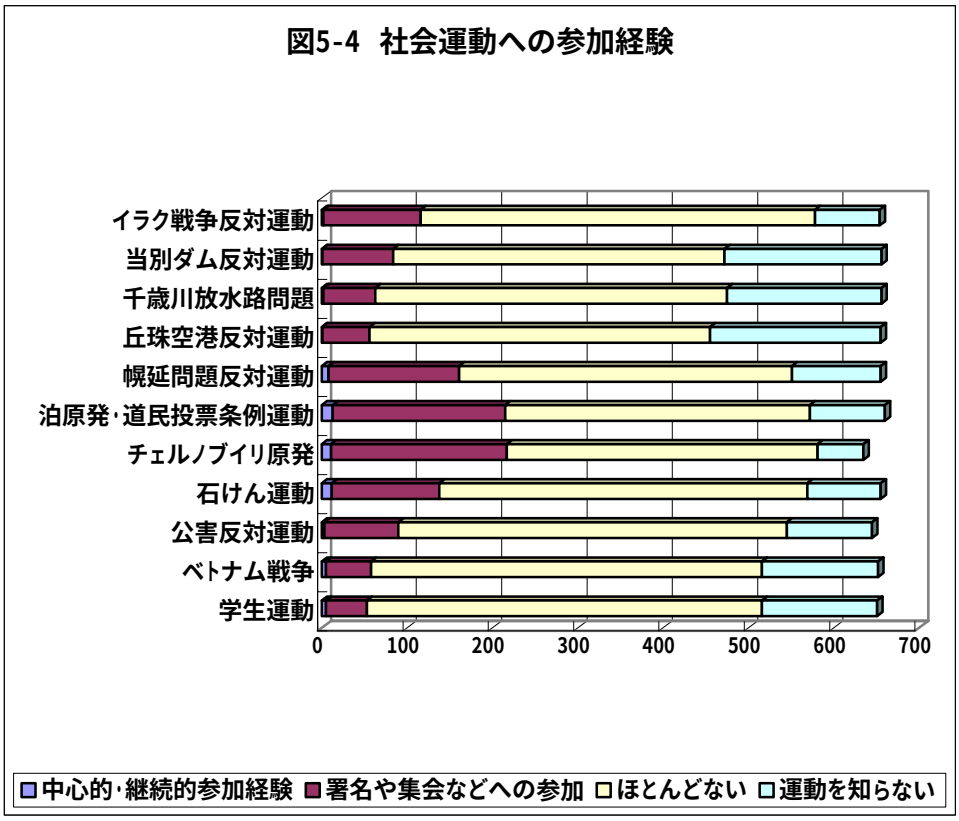
表5-11 活動の是非（加入形態）

	石けん運動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
班	155(55.6%)	112 (40.1%)	6 (2.2%)	2 (0.7%)	4 (1.4%)	279
班から戸配	150 (59.5%)	97 (38.5%)	1 (0.4%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	252
最初から戸配	61 (57.0%)	40 (37.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (5.6%)	107
計	366 (57.4%)	249 (39.0%)	7 (1.1%)	5 (0.8%)	12 (1.9%)	638
						X^2=16.269 p<0.05
	代理人運動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
班	83 (30.2%)	135 (49.1%)	26 (9.5%)	9 (3.3%)	22 (8.0%)	275
班から戸配	84 (35.0%)	107 (44.6%)	11 (4.6%)	8 (3.3%)	30 (12.5%)	240
最初から戸配	25 (23.6%)	38 (35.8%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	41 (38.7%)	105
計	192 (30.9%)	280 (45.1%)	38 (6.1%)	18 (2.9%)	93 (15.0%)	621
						X^2=68.122 p<0.001
	福祉事業					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
班	99 (35.9%)	120 (43.5%)	31 (11.2%)	10 (3.6%)	16 (5.8%)	276
班から戸配	103 (41.2%)	111 (44.4%)	9 (3.6%)	9 (3.6%)	18 (7.2%)	250
最初から戸配	39 (36.8%)	44 (41.5%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	21 (19.8%)	106
計	241 (38.1%)	275 (43.5%)	42 (6.6%)	19 (3.0%)	55 (8.7%)	632
						X^2=39.204 p<0.001
	共済事業					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
班	81 (29.9%)	141 (52.0%)	26 (9.6%)	3 (1.1%)	16 (5.9%)	271
班から戸配	87 (35.5%)	116 (47.3%)	13 (5.3%)	4 (1.6%)	17 (6.9%)	245
最初から戸配	36 (34.6%)	45 (43.3%)	3 (2.9%)	0 (0.0%)	19 (18.3%)	104
計	204 (32.9%)	302 (48.7%)	42 (6.8%)	7 (1.1%)	52 (8.4%)	620
						X^2=27.807 p<0.01
	ワーカーズコレクティヴ					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
班	115 (41.5%)	129 (46.6%)	15 (5.4%)	3 (1.1%)	15 (5.4%)	277
班から戸配	124 (50.0%)	99 (39.9%)	4 (1.6%)	4 (1.6%)	17 (6.9%)	248
最初から戸配	37 (35.6%)	33 (31.7%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	33 (31.7%)	104
計	276 (43.9%)	261 (43.9%)	20 (3.2%)	7 (1.1%)	65 (10.3%)	629
						X^2=73.421 p<0.001
	反・脱原発					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
班	114 (41.0%)	134 (48.2%)	16 (5.8%)	3 (1.1%)	11 (4.0%)	278
班から戸配	113 (46.5%)	109 (44.9%)	11 (4.5%)	5 (2.1%)	5 (2.1%)	243
最初から戸配	52 (49.1%)	36 (34.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	17 (16.0%)	106
計	279 (44.5%)	279 (44.5%)	27 (4.3%)	9 (1.4%)	33 (5.3%)	627
						X^2=41.038 p<0.001
	市民風車					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
班	104 (37.4%)	134 (48.2%)	18 (6.5%)	4 (1.4%)	18 (6.5%)	278
班から戸配	109 (44.1%)	107 (43.3%)	8 (3.2%)	3 (1.2%)	20 (8.1%)	247
最初から戸配	41 (39.0%)	33 (31.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31 (29.5%)	105
計	254 (40.3%)	274 (43.5%)	26 (4.1%)	7 (1.1%)	69 (11.0%)	630
						X^2=56.418 p<0.001
	平和を考える活動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
班	114 (41.0%)	131 (47.1%)	9 (3.2%)	4 (1.4%)	20 (7.2%)	278
班から戸配	117 (47.4%)	100 (40.5%)	8 (3.2%)	4 (1.6%)	18 (7.3%)	247
最初から戸配	59 (56.2%)	28 (26.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	18 (17.1%)	105
計	290 (46.0%)	259 (41.1%)	17 (2.7%)	8 (1.3%)	56 (8.9%)	630
						X^2=26.462 p<0.01

表5-12　活動の是非（世代）

	代理人運動					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
30代以下	25 (27.8%)	35 (38.9%)	2 (2.2%)	1 (1.1%)	17 (18.7%)	91
40代	44 (21.6%)	109 (53.4%)	14 (6.9%)	7 (3.4%)	10 (4.9%)	203
50代	104 (38.8%)	113 (42.2%)	16 (6.0%)	10 (3.6%)	19 (6.9%)	276
60代以上	23 (30.3%)	33 (43.4%)	6 (7.9%)	2 (2.6%)	10 (13.0%)	77
計	196 (30.7%)	290 (45.5%)	38 (6.0%)	45 (7.0%)	56 (8.7%)	647
						X^2=33.983　p<0.01
	福祉事業					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
30代以下	33 (36.3%)	38 (41.8%)	2 (2.2%)	0 (0.0%)	17 (18.7%)	31
40代	68 (33.5%)	96 (47.3%)	22 (10.8%)	7 (3.4%)	10 (4.9%)	35
50代	121 (43.8%)	107 (38.8%)	19 (6.9%)	10 (3.6%)	19 (6.9%)	111
60代以上	26 (33.8%)	37 (48.1%)	2 (2.6%)	2 (2.6%)	10 (13.0%)	472
計	248 (38.3%)	278 (43.0%)	45 (7.0%)	20 (3.1%)	56 (8.7%)	649
						X^2=33.983　p<0.01
	共済事業					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
30代以下	24 (26.7%)	49 (54.4%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)	15 (16.7%)	90
40代	57 (28.2%)	111 (55.0%)	19 (9.4%)	5 (2.5%)	10 (5.0%)	202
50代	107 (39.6%)	113 (41.9%)	19 (7.0%)	12 (4.2%)	19 (7.0%)	270
60代以上	21 (28.4%)	37 (50.0%)	4 (5.4%)	3 (4.1%)	9 (12.2%)	74
計	209 (32.9%)	310 (48.7%)	43 (6.8%)	21 (3.3%)	53 (8.3%)	636
						X^2=33.056　p<0.01
	ワーカーズコレクティヴ					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
30代以下	36 (39.6%)	35 (38.5%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)	18 (19.8%)	91
40代	82 (40.4%)	99 (48.8%)	6 (3.0%)	2 (1.0%)	14 (6.9%)	203
50代	134 (48.9%)	105 (38.3%)	11 (4.0%)	3 (1.1%)	21 (7.7%)	274
60代以上	31 (40.3%)	29 (37.7%)	2 (2.6%)	2 (2.6%)	13 (16.9%)	77
計	293 (43.9%)	268 (41.6%)	20 (3.1%)	8 (1.2%)	66 (10.2%)	645
						X^2=25.190　p<0.05
	反・脱原発					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
30代以下	34 (37.8%)	43 (47.8%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	12 (13.3%)	90
40代	79 (38.7%)	102 (50.0%)	12 (5.9%)	4 (2.0%)	7 (3.4%)	204
50代	137 (50.0%)	112 (40.9%)	10 (3.8%)	4 (1.5%)	11 (4.0%)	274
60代以上	34 (45.3%)	30 (40.0%)	6 (8.0%)	1 (1.3%)	4 (5.3%)	75
計	284 (44.2%)	287 (44.6%)	28 (4.4%)	10 (1.6%)	34 (5.3%)	643
						X^2=28.247　p<0.01
	市民風車					
	積極的にすべき	ある程度すべき	あまりすべきでない	活動すべきでない	活動を知らない	計
30代以下	34 (37.8%)	32 (35.6%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	23 (25.6%)	90
40代	78 (37.9%)	93 (45.1%)	13 (6.3%)	3 (1.5%)	19 (9.2%)	206
50代	115 (42.3%)	124 (45.6%)	9 (3.3%)	4 (1.5%)	20 (7.4%)	272
60代以上	32 (41.6%)	33 (42.9%)	5 (6.5%)	0 (0.0%)	7 (9.1%)	77
計	259 (40.2%)	282 (43.7%)	27 (4.2%)	8 (1.2%)	69 (10.7%)	645
						X^2=33.088　p<0.01

また、50 代で「積極的に活動すべき」が一番高いのも一貫した傾向である。逆に、40 代では、一貫しているわけではなく、他の世代との差が顕著に大きいわけでもないが、相対的に否定的意見が多くなる傾向がある。この点はさらに検討を進めていくべき点と思われる。付け加えておくと、そうした傾向の中で、ワーカーズコレクティヴは異なった傾向をみせているのは、40 代の組合員にとって、ワーカーズコレクティヴの活動が重要性を持っているということかもしれない。



5.5 社会運動の活動経験

問 23 では、一般の社会運動や、生活クラブが深く関与した社会運動の活動経験をうかがった（図 5-4）。積極的な活動経験についてはごく少数にとどまり、署名や集会への参加を加えても、チェルノブイリ原発と泊原発・道民投票条例運動で 3 割、幌延問題反対運動で 2 割を超えた他は、すべて 2 割以下となった。原発関連での参加経験が相対的に高い数値を示しているのは、生活クラブ生協北海道の組合員の特徴といえるのかもしれない。丘珠空港、千歳川放水路、当別ダムについては「運動を知らない」が 3 割近くにのぼっており、生活クラブが深くかかわっている地域問題に関する認知が相対的に低いレベルにとどまっている。他方、イラク戦争反対運動については、積極的な関与はほとんどないが、参加経験ありの回答が 17.7%となっているのは興味深いところである。

運動経験と他の変数との関連であるが、「中心的・継続的参加経験」がきわめて少数であるため、「署名や集会などへの参加」と合算し、「経験あり」として分析を行った。また、ここで取り上げた 11 の運動は、生活クラブにきわめて関連が深い運動（泊原発・幌延・丘珠空港・千歳川放水路・当別ダム）と、生活クラブにとどまらない、「一般的・広範な」社会運動との区別をしておいた方がよい。ここでは、便宜的に、前者を「生活クラブ関連運動」、後者を「一般の運動」としておく。

加入形態との関連では、公害反対運動を除く 10 の運動で統計的に有意となった（表 5-13）。一貫した傾向として、「最初から戸配」で「知らない」が相対的に多数を占める。特に「生活クラブ関連運動」でその傾向が顕著で、3 割から 4 割に達する。また、「最初から戸配」では、全般的に「経験あり」の比率が低くなる。一般に、「最初から戸配」では組合員歴が短くなるので、妥当な結果である。

興味深いのは、「班」と「班から戸配」を比較すると、「生活クラブ関連運動」ではほとんど差がみられないが、石けん運動を除く「一般の運動」では差がみられること、すなわち、「経験あり」で「班から戸配」の割合が若干勝り、「知らない」で「班」の割合が高くなることである。

表5-13　運動経験（加入形態）

	学生運動				ベトナム戦争			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
班	22 (8.0%)	195 (70.9%)	58 (21.1%)	275	23 (8.3%)	193 (69.9%)	60 (21.7%)	276
班から戸配	25 (10.2%)	182 (74.3%)	38 (15.5%)	245	26 (10.6%)	184 (74.8%)	36 (14.6%)	246
最初から戸配	5 (4.6%)	72 (66.1%)	32 (29.4%)	109	7 (6.4%)	71 (65.1%)	31 (28.4%)	109
計	52 (8.3%)	449 (71.4%)	128 (20.3%)	629	56 (8.9%)	448 (71.0%)	127 (20.1%)	631
	X^2=10.893　p<0.05				X^2=10.485　p<0.05			
	石けん運動				チェルノブイリ原発			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
班	68 (24.4%)	180 (64.5%)	31 (11.1%)	279	107 (38.8%)	146 (52.9%)	23 (8.3%)	276
班から戸配	59 (24.1%)	158 (64.5%)	28 (11.4%)	245	87 (34.9%)	150 (60.2%)	12 (4.8%)	249
最初から戸配	9 (8.3%)	78 (71.6%)	22 (20.2%)	109	19 (17.6%)	71 (65.7%)	18 (16.7%)	108
計	136 (21.5%)	416 (65.7%)	81 (12.8%)	633	213 (33.6%)	367 (58.0%)	53 (8.4%)	633
	X^2=28.247　p<0.01				X^2=25.747　p<0.001			
	泊原発･道民投票条例運動				幌延問題反対運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
班	105 (37.8%)	146 (52.5%)	27 (9.7%)	278	76 (27.4%)	161 (58.1%)	40 (14.4%)	277
班から戸配	89 (35.3%)	137 (54.4%)	26 (10.3%)	252	67 (26.8%)	151 (60.4%)	32 (12.8%)	250
最初から戸配	17 (15.7%)	58 (53.7%)	33 (30.6%)	108	15 (13.9%)	61 (56.5%)	32 (29.6%)	108
計	211 (33.1%)	341 (53.4%)	86 (13.5%)	638	158 (24.9%)	373 (58.7%)	104 (16.4%)	635
	X^2=40.293　p<0.001				X^2=20.740　p<0.001			
	丘珠空港反対運動				千歳川放水路問題			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
班	33 (11.8%)	160 (57.3%)	86 (30.8%)	279	30 (10.8%)	175 (62.9%)	73 (26.3%)	278
班から戸配	17 (6.9%)	163 (66.0%)	67 (27.1%)	247	27 (10.8%)	158 (63.5%)	64 (25.7%)	249
最初から戸配	2 (1.9%)	62 (57.4%)	44 (40.7%)	108	3 (2.8%)	63 (58.3%)	42 (38.9%)	108
計	52 (8.2%)	385 (60.7%)	197 (31.1%)	634	60 (9.4%)	396 (62.4%)	179 (28.2%)	635
	X^2=16.647　p<0.01				X^2=11.773　p<0.05			
	当別ダム反対運動				イラク戦争反対運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
班	50 (17.9%)	159 (57.0%)	70 (25.1%)	279	59 (21.1%)	182 (65.2%)	38 (13.6%)	279
班から戸配	27 (10.9%)	154 (62.1%)	67 (27.0%)	248	38 (15.4%)	188 (76.1%)	21 (8.5%)	247
最初から戸配	4 (3.7%)	59 (54.6%)	45 (41.7%)	108	15 (13.9%)	77 (71.3%)	16 (14.8%)	108
計	81 (12.8%)	372 (58.6%)	182 (28.7%)	635	112 (17.7%)	447 (70.5%)	75 (11.8%)	634
	X^2=22.233　p<0.001				X^2=9.607　p<0.05			

この結果は、「班から戸配」の 51.6%が 50 代（133 名／258 名）であり、世代の効果によるものであると考えられる。また、「班」の年齢層が相対的に若くなっていることも、影響として考えられるだろう。

組合員歴との関連では、11 の運動すべてで、有意確率 0.1%以上で有意となっている（表 5-14）。一貫した傾向としては、「3 年未満」における「知らない」の比率が高い傾向が現れる。また、「3 年以上 10 年未満」における「知らない」の比率もおおむね高く、「経験あり」「経験なし」も含めて、割合の上では「3 年未満」と「3 年以上 10 年未満」の比率はあまり変わらない。その中で、「チェルノブイリ原発」・「泊原発・道民投票条例運動」・「幌延問題反対運動」において「3 年未満」と「3 年以上 10 年未満」の差が目立つのは、世代の影響と思われる。組合員歴と年齢は相関関係があると考えられるが、30 代以下では、チェルノブイリ原発事故が発生した 1986 年はまだ 20 歳前後であり、40 代が 30 歳前後である。すでに子育てに入っている女性とそうでない女性との差が、ここに現れているといえるのではないかということである。またこれは、原発問題や核問題に対する意識の差が、30 代と 40 代の境あたりに存在している可能性も示唆しているといえよう。

表5-14 運動経験（組合員歴）

	学生運動				ベトナム戦争			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
3年未満	3 (3.2%)	60 (63.6%)	31 (33.0%)	94	3 (3.2%)	62 (66.0%)	29 (30.9%)	94
3年以上10年未満	6 (3.4%)	121 (67.6%)	52 (29.1%)	179	9 (5.1%)	116 (65.2%)	53 (29.8%)	178
10年以上	41 (12.0%)	255 (74.3%)	47 (13.7%)	343	42 (12.2%)	253 (73.3%)	50 (14.5%)	345
計	50 (8.1%)	436 (70.8%)	130 (21.1%)	616	54 (8.8%)	431 (69.9%)	132 (21.4%)	617
	X^2=36.089 p<0.001				X^2=29.531 p<0.001			
	公害反対運動				石けん運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
3年未満	5 (5.4%)	62 (66.7%)	26 (28.0%)	93	7 (7.4%)	64 (68.1%)	23 (24.5%)	94
3年以上10年未満	19 (10.8%)	117 (66.5%)	40 (22.7%)	176	21 (11.9%)	121 (68.4%)	35 (19.8%)	177
10年以上	61 (17.9%)	250 (73.3%)	30 (8.8%)	341	102 (29.2%)	223 (63.9%)	24 (6.9%)	349
計	85 (13.9%)	429 (70.3%)	96 (15.7%)	610	130 (21.0%)	408 (65.8%)	82 (13.2%)	620
	X^2=35.662 p<0.001				X^2=52.345 p<0.001			
	チェルノブイリ原発				泊原発・道民投票条例運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
3年未満	10 (10.8%)	63 (67.7%)	20 (21.5%)	93	10 (10.8%)	50 (53.8%)	33 (35.5%)	93
3年以上10年未満	45 (25.9%)	109 (62.6%)	20 (11.5%)	174	41 (23.0%)	103 (57.9%)	34 (19.1%)	178
10年以上	152 (43.1%)	189 (53.5%)	12 (3.4%)	353	155 (43.8%)	180 (50.8%)	19 (5.4%)	354
計	207 (33.4%)	361 (58.2%)	52 (8.4%)	620	206 (33.0%)	333 (53.3%)	86 (13.8%)	625
	X^2=62.029 p<0.001				X^2=86.630 p<0.001			
	幌延問題反対運動				丘珠空港反対運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
3年未満	7 (7.4%)	54 (57.4%)	33 (35.1%)	94	1 (1.1%)	52 (53.5%)	41 (43.6%)	94
3年以上10年未満	27 (15.3%)	109 (61.6%)	41 (23.2%)	177	8 (4.9%)	100 (56.5%)	69 (39.0%)	177
10年以上	120 (34.3%)	201 (57.4%)	29 (8.3%)	350	46 (13.1%)	218 (62.3%)	86 (24.6%)	350
計	154 (24.8%)	364 (58.6%)	103 (16.6%)	621	55 (8.9%)	370 (59.6%)	196 (31.6%)	621
	X^2=69.584 p<0.001				X^2=31.299 p<0.01			
	千歳川放水路問題				当別ダム反対運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
3年未満	1 (1.1%)	54 (57.4%)	39 (41.5%)	94	3 (3.2%)	52 (55.3%)	39 (41.5%)	94
3年以上10年未満	9 (5.1%)	103 (58.2%)	65 (36.7%)	177	14 (7.9%)	102 (57.3%)	62 (34.8%)	178
10年以上	49 (14.0%)	227 (64.7%)	75 (21.4%)	351	63 (18.0%)	208 (59.4%)	79 (22.6%)	350
計	59 (9.5%)	384 (61.7%)	179 (28.8%)	622	80 (12.9%)	362 (58.2%)	180 (28.9%)	622
	X^2=35.040 p<0.001				X^2=29.879 p<0.001			
	イラク戦争反対運動							
	あり	なし	知らない	計				
3年未満	9 (9.6%)	67 (71.3%)	18 (19.1%)	94				
3年以上10年未満	21 (11.9%)	128 (72.3%)	28 (15.8%)	177				
10年以上	83 (23.7%)	237 (67.7%)	30 (8.6%)	350				
計	113 (18.2%)	432 (69.6%)	76 (12.2%)	621				
	X^2=23.369 p<0.001							

「10 年以上」は、どの運動でも相対的に「経験あり」の比率が高いが、細かくみていくと、「一般的な運動」、特に「学生運動」「ベトナム戦争」「公害追放運動」など、過去のものと目される運動では比較的差が小さく、「生活クラブ関連運動」では差が大きくなる傾向がある。特に、「チェルノブイリ原発」・「泊原発・道民投票条例運動」・「幌延問題反対運動」では、その差が大きく現れているが、これは、1990 年前後に、生活クラブ生協北海道が精力的にこれらの問題に取り組んだ結果でもあるだろう。逆にいうと、それらの運動が、後続の組合員にうまく引き継がれてこなかったことの証明ということもできるかもしれない。運動の継続においては常にさまざまな困難に直面するが、運動の担い手の再生産は最も難しいものかもしれない。運動の持続が単純によいこととするのは早計であるとしても、短期的・単発的な運動には限界がある。いかに運動を持続するかは、重要な課題でもある。

表5-15　運動経験（役職経験）

	学生運動				石けん運動				チェルノブイリ原発			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
役員・委員長	1 (3.3%)	26 (86.7%)	3 (10.0%)	30	17 (56.7%)	12 (40.0%)	1 (3.3%)	30	19 (63.3%)	10 (33.3%)	1 (3.3%)	30
委員（3年以上）	2 (6.1%)	28 (84.8%)	3 (9.1%)	33	17 (50.0%)	16 (47.1%)	1 (2.9%)	34	20 (58.8%)	14 (41.2%)	0 (0.0%)	34
委員（3年未満）	14 (13.1%)	76 (71.0%)	17 (15.9%)	107	35 (32.4%)	62 (57.4%)	11 (10.2%)	108	50 (45.5%)	53 (48.2%)	7 (6.4%)	110
役職経験なし	36 (7.5%)	333 (69.2%)	112 (23.3%)	481	69 (14.3%)	341 (70.6%)	73 (15.1%)	483	128 (26.6%)	307 (63.8%)	46 (9.6%)	481
計	53 (8.1%)	463 (71.1%)	135 (20.7%)	651	138 (21.1%)	431 (65.8%)	86 (13.1%)	655	217 (33.1%)	384 (58.6%)	54 (8.2%)	655
	X^2=13.174　p<0.05				X^2=63.429　p<0.001				X^2=40.720　p<0.001			
	泊原発・道民投票条例運動				幌延問題反対運動				丘珠空港反対運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
役員・委員長	21 (67.7%)	10 (32.3%)	0 (0.0%)	31	16 (53.3%)	13 (43.3%)	1 (3.3%)	30	14 (45.2%)	12 (38.7%)	5 (16.1%)	31
委員（3年以上）	20 (58.8%)	12 (35.3%)	2 (5.9%)	34	17 (50.0%)	16 (47.1%)	1 (2.9%)	34	9 (26.5%)	18 (52.9%)	7 (20.6%)	34
委員（3年未満）	50 (45.0%)	54 (48.6%)	7 (6.3%)	111	37 (33.3%)	62 (55.9%)	12 (10.8%)	111	13 (11.9%)	65 (59.6%)	31 (28.4%)	109
役職経験なし	124 (25.6%)	281 (58.1%)	79 (16.3%)	484	91 (18.9%)	299 (62.2%)	91 (18.9%)	481	20 (4.1%)	304 (63.1%)	158 (32.8%)	482
計	215 (32.6%)	357 (54.1%)	88 (13.3%)	660	161 (24.5%)	390 (59.5%)	105 (16.0%)	656	56 (6.5%)	399 (60.8%)	201 (30.6%)	656
	X^2=51.317　p<0.001				X^2=42.886　p<0.001				X^2=81.265　p<0.001			
	千歳川放水路問題				当別ダム反対運動				イラク戦争反対運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
役員・委員長	9 (30.0%)	17 (56.7%)	4 (13.3%)	30	14 (45.2%)	15 (48.4%)	2 (6.5%)	31	15 (50.0%)	15 (50.0%)	0 (0.0%)	30
委員（3年以上）	8 (23.5%)	20 (58.8%)	6 (17.6%)	34	10 (30.3%)	16 (48.5%)	7 (21.2%)	33	8 (24.2%)	23 (69.7%)	2 (6.1%)	33
委員（3年未満）	13 (11.8%)	70 (63.6%)	27 (24.5%)	110	20 (18.3%)	64 (58.7%)	25 (22.9%)	109	24 (22.2%)	72 (66.7%)	12 (11.1%)	108
役職経験なし	33 (6.8%)	305 (63.1%)	145 (30.0%)	483	40 (8.3%)	293 (60.5%)	151 (31.2%)	484	69 (14.2%)	352 (72.6%)	64 (13.2%)	485
計	63 (9.6%)	412 (62.7%)	182 (27.7%)	657	84 (12.8%)	388 (59.1%)	185 (28.2%)	657	116 (17.7%)	462 (70.4%)	78 (13.2%)	656
	X^2=29.419　p<0.001				X^2=53.512　p<0.001				X^2=30.632　p<0.001			

また、「イラク戦争反対運動」の結果は、いろいろな意味で示唆的であると思われる。傾向としては、ほぼ組合員歴に比例しているものの、他の運動と比べると「3 年未満」の比率が高くなっている。もちろん、絶対数は、全体からみればわずかであり、実際の活動も参加コストの低い穏健なもの（署名など）にとどまっているだろう。しかし、生活クラブの影響が相対的に弱い状態であることを考えると、比較的意識の高い人びとが生活クラブに加入しており、生活クラブの諸活動に対しても、理解が進めばより積極的な関与が期待できるとも考えられる。

役職経験との関連では、「ベトナム戦争」と「公害反対運動」を除く 9 つの運動で統計的に有意となった（表 5-15）。「学生運動」では、「委員（3 年未満）」が相対的に高い比率となっているのは特徴的である。これは、ある意味で、学生運動と生活クラブの運動原理の違いを示すものかもしれない。「石けん運動」「チェルノブイリ原発」「泊原発・道民投票条例運動」「幌延問題反対運動」「千歳川放水路問題」の 5 つはおおむね同じ傾向がみられ、「役員・委員長」と「委員（3 年以上）」がほぼ似たような割合となり、「委員（3 年未満）」「役職経験なし」となるにしたがって経験者の割合が低下する。「丘珠空港反対運動」「当別ダム反対運動」では、「役員・委員長」と「委員（3 年以上）」との間にも差がみられるようになる。ある意味で、ここには役職による情報アクセスへの差異が見られるということもできよう。より高い役職につけば、それだけ生活クラブが関わっているさまざまな活動を知る機会も多くなり、主体的に、あるいは役務上の問題から、それらの問題に関わる機会も増えるものと思われる。

就業形態との関連では、「学生運動」「ベトナム戦争」「公害反対運動」「幌延問題反対運動」の 4 つで有意となった。これらは、「幌延問題反対運動」を除くと時代状況的な要素が深く関連している運動であり、本人のライフコースとも大いに関連していることが予想される。また、この中では「幌延問題反対運動だけが異なった傾向をみせているが、「パートタイム等」「仕事はしていない」で「知らない」が多くなっていることから、組合員歴の短い人たちが集中したことによる誤差の可能性がある。

表5-16　運動経験（就業形態）

	学生運動				ベトナム戦争			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
自営業	10 (15.9%)	39 (61.9%)	14 (22.2%)	63	11 (16.9%)	39 (60.0%)	15 (23.1%)	65
フルタイム	11 (14.7%)	46 (61.3%)	18 (24.0%)	75	8 (10.5%)	50 (65.8%)	18 (23.7%)	76
パートタイム等	12 (6.2%)	155 (79.5%)	28 (14.4%)	105	12 (6.2%)	153 (79.3%)	28 (14.5%)	193
仕事はしていない	20 (6.7%)	205 (68.8%)	73 (24.5%)	298	27 (9.1%)	198 (66.7%)	72 (24.2%)	297
計	53 (8.4%)	445 (70.5%)	133 (21.1%)	631	58 (9.2%)	440 (69.7%)	133 (21.1%)	631
	X^2=19.960　p<0.01				X^2=15.939　p<0.05			
	公害反対運動				幌延問題反対運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
自営業	10 (15.4%)	43 (66.2%)	12 (18.5%)	65	14 (21.5%)	39 (60.0%)	12 (18.5%)	65
フルタイム	11 (14.5%)	56 (73.7%)	9 (11.8%)	76	19 (25.0%)	52 (68.4%)	5 (6.6%)	76
パートタイム等	16 (8.4%)	153 (80.1%)	22 (11.5%)	191	42 (21.6%)	125 (64.4%)	27 (13.9%)	194
仕事はしていない	51 (17.5%)	185 (63.4%)	56 (19.2%)	292	82 (27.3%)	159 (53.0%)	59 (18.7%)	300
計	88 (14.1%)	437 (70.0%)	99 (15.9%)	624	157 (24.7%)	375 (59.1%)	103 (16.2%)	635
	X^2=17.121　p<0.01				X^2=13.176　p<0.05			

表5-17　運動経験（世代）

	学生運動				ベトナム戦争				公害反対運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
30代以下	1 (1.1%)	44 (47.8%)	47 (51.1%)	92	0 (0.0%)	47 (51.1%)	45 (48.9%)	92	2 (2.2%)	50 (55.6%)	38 (42.2%)	90
40代	4 (1.9%)	141 (68.4%)	61 (29.6%)	206	3 (1.5%)	142 (69.3%)	60 (29.3%)	205	13 (6.4%)	150 (73.5%)	41 (20.1%)	204
50代	42 (15.6%)	206 (75.3%)	22 (8.1%)	270	41 (15.1%)	205 (75.6%)	25 (9.2%)	271	54 (20.1%)	194 (72.4%)	20 (7.5%)	268
60代以上	6 (7.6%)	68 (86.1%)	5 (6.3%)	79	14 (17.5%)	60 (75.0%)	6 (7.5%)	80	21 (26.6%)	57 (72.2%)	1 (1.3%)	79
計	53 (8.2%)	459 (70.9%)	135 (20.9%)	647	58 (9.0%)	454 (70.1%)	136 (21.0%)	648	90 (14.0%)	451 (70.4%)	100 (15.6%)	641
	X^2=120.903　p<0.001				X^2=111.077　p<0.001				X^2=102.068　p<0.001			
	石けん運動				チェルノブイリ原発				泊原発･道民投票条例運動			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
30代以下	9 (9.9%)	51 (56.0%)	31 (34.1%)	91	9 (9.9%)	60 (65.9%)	22 (24.2%)	91	7 (7.7%)	50 (54.9%)	34 (37.4%)	91
40代	30 (14.7%)	142 (69.6%)	32 (15.7%)	204	57 (27.7%)	130 (63.1%)	19 (9.2%)	206	56 (27.2%)	118 (57.3%)	32 (15.5%)	206
50代	74 (27.1%)	178 (65.2%)	21 (7.7%)	273	119 (43.4%)	142 (51.8%)	13 (4.7%)	274	121 (43.8%)	136 (49.3%)	19 (6.9%)	276
60代以上	24 (28.9%)	57 (68.7%)	2 (2.4%)	83	31 (38.8%)	49 (61.3%)	0 (0.0%)	80	30 (36.1%)	50 (60.2%)	3 (3.6%)	83
計	137 (21.0%)	428 (65.7%)	86 (13.2%)	651	216 (33.2%)	381 (58.5%)	54 (8.3%)	651	214 (32.6%)	354 (54.0%)	88 (13.4%)	656
	X^2=62.902　p<0.001				X^2=68.664　p<0.001				X^2=86.646　p<0.001			
	幌延問題反対運動				丘珠空港反対運動				千歳川放水路問題			
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計
30代以下	6 (6.5%)	46 (50.0%)	40 (43.5%)	92	3 (3.3%)	39 (42.4%)	50 (54.3%)	92	1 (1.1%)	42 (45.7%)	49 (53.3%)	92
40代	41 (20.1%)	124 (60.8%)	39 (19.1%)	204	17 (8.2%)	114 (55.1%)	76 (36.7%)	207	16 (7.8%)	120 (58.3%)	70 (34.0%)	206
50代	87 (31.6%)	164 (59.6%)	24 (8.7%)	275	28 (10.3%)	179 (65.6%)	66 (24.2%)	273	35 (12.8%)	185 (67.5%)	54 (19.7%)	274
60代以上	26 (32.1%)	53 (65.4%)	2 (2.5%)	81	7 (8.8%)	64 (80.0%)	9 (11.3%)	80	10 (12.3%)	62 (76.5%)	9 (11.1%)	81
計	160 (24.5%)	387 (59.4%)	105 (16.1%)	652	55 (8.4%)	396 (60.7%)	201 (30.8%)	652	62 (9.5%)	409 (62.6%)	182 (27.9%)	653
	X^2=85.887　p<0.001				X^2=48.844　p<0.001				X^2=58.458　p<0.001			
	当別ダム反対運動				イラク戦争反対運動							
	あり	なし	知らない	計	あり	なし	知らない	計				
30代以下	6 (6.5%)	43 (46.7%)	43 (46.7%)	92	10 (10.9%)	61 (66.3%)	21 (22.8%)	92				
40代	23 (11.1%)	116 (56.0%)	68 (32.9%)	207	36 (17.4%)	145 (70.0%)	26 (12.6%)	207				
50代	47 (17.3%)	163 (59.9%)	62 (22.8%)	272	53 (19.5%)	192 (70.6%)	27 (9.9%)	272				
60代以上	8 (9.8%)	62 (75.6%)	12 (14.6%)	82	15 (18.5%)	62 (76.5%)	4 (4.9%)	81				
計	84 (12.9%)	384 (58.8%)	185 (28.3%)	653	114 (17.5%)	480 (70.6%)	78 (12.0%)	652				
	X^2=35.522　p<0.001				X^2=17.051　p<0.01							

「学生運動」「ベトナム戦争」「公害反対運動」で特徴的なのは、「パートタイム等」で「なし」がいずれも顕著に割合が高くなっていることである。ここについてはさらなる検討が必要と思われるが、ひとつの仮説を示すとすれば､政治的関心の高い人たちは相対的にフルタイムの就職や起業をするか、あるいは専業主婦である確率が高く、政治的関心の低い人たちがパートタイムでの就職をする傾向が

あるということも考えられるかもしれない。

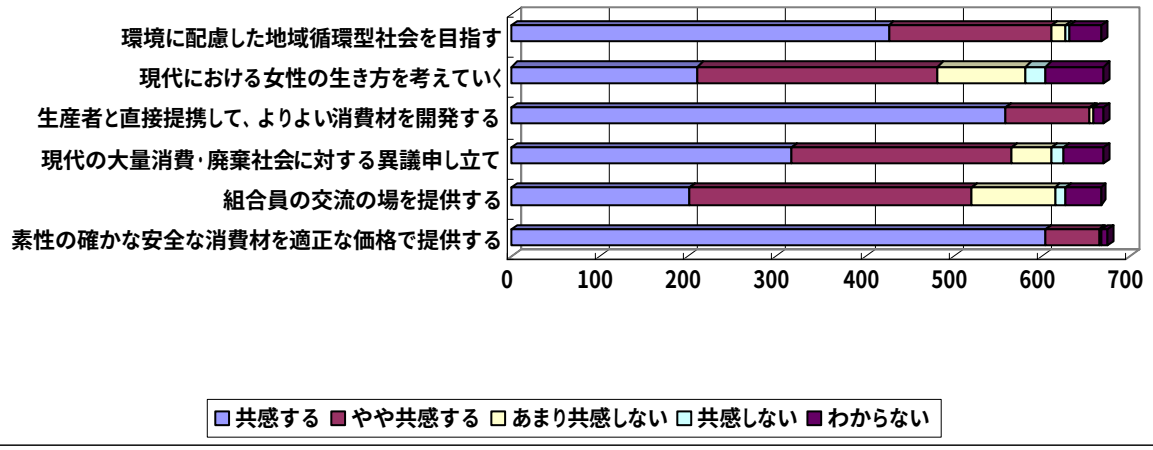
最後に世代との関連であるが、すべてにおいて統計的に有意となった（表 5-17）。おおむね 50 代で参加度が高くなり、30 代以下で「知らない」が最も高くなるが、その他の世代については運動によって傾向が異なっている。「ベトナム戦争」「公害反対運動」「石けん運動」では、50 代と 60 代の割合が近似し、その傾向は「チェルノブイリ原発」「泊原発・道民投票条例運動」「幌延問題反対運動」でも同様であるが、さらに 40 代の参加割合も高くなる。前者については時代状況による影響が想定され、後者については、時代状況の影響と同時に 90 年代前後における生活クラブの、活動に対する力の入れ方が関連しているように思われる。「丘珠空港反対運動」「千歳川放水路問題」「当別ダム反対運動」では、40 代以上の割合が相対的に高いものの、30 代との差はそれほど大きくなく、「知らない」と回答する割合も相対的に大きい。したがって、これらは比較的特定地域の問題として捉えられる傾向とともに、生活クラブ内において十分に情報が流通しなかったということを示しているとも思われる。

5.6　生活クラブの活動方針への共感度および実行度に対する評価

多くの生協では環境・ジェンダー・福祉などに活動の力点を置いており、生活クラブも例外ではない。問 24 では、生活クラブの活動方針として重要と考えられる 6 つについて、どの程度共感しているか、問 25 では、その方針に沿って、生活クラブがどの程度活動を実行しているかをうかがった。

図 5-5 に示されたとおり、生活クラブの 6 つの活動方針に対する共感度はおおむね高い。一方で、その内容には若干の相違もみられる。

図5-5　生活クラブの活動方針に対する共感



きわめて高い共感度を示したのは、「素性の確かな安全な食材を適正な価格で提供する」（「共感する」89.6%、「やや共感する」8.9%）と「生産者と直接提携して、よりよい食材を提供する」（「共感する」83.4%、「やや共感する」14.2%）のふたつである。やはり、第一に生活クラブに求められているのは、食の安全であるといえよう。続いて共感度が高かったのは、「環境に配慮した地域循環型社会を目指す」（「共感する」63.7%、「やや共感する」27.6%）と「現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立て」（「共感する」47.2%、「やや共感する」37.3%）であり、いわば環境に関する活動方針といえるだろう。「組合員の交流の場を提供する」（「共感する」30.1%、「やや共感する」48.0%）や「現代における女性の生き方を考えていく」（「共感する」31.5%、「やや共感する」40.8%）の共感度は相対的に

表5-18　活動への共感（世代）

	素性確かで安全な食材を適正な価格で提供する				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	計
30代以下	80 (87.0%)	12 (13.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	92
40代	189 (90.0%)	21 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	210
50代	254 (91.0%)	19 (6.8%)	1 (0.4%)	5 (1.8%)	279
60代以上	78 (86.7%)	8 (8.9%)	2 (2.2%)	2 (2.2%)	90
計	601 (89.6%)	60 (8.9%)	3 (0.4%)	7 (1.0%)	671
					X^2=17.231　p<0.05
	組合員の交流の場を提供する				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	
30代以下	28 (30.4%)	49 (53.3%)	11 (12.0%)	4 (4.3%)	92
40代	57 (27.3%)	110 (52.6%)	36 (17.2%)	6 (2.9%)	209
50代	88 (32.0%)	124 (45.1%)	48 (17.5%)	15 (5.5%)	275
60代以上	26 (29.3%)	35 (40.2%)	12 (13.8%)	14 (16.1%)	87
計	199 (30.0%)	318 (48.0%)	107 (16.1%)	39 (5.9%)	663
					X^2=24.770　p<0.01

表5-19　活動への共感（役職経験）

	組合員の交流の場を提供する				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	計
役員・委員長	22 (71.0%)	8 (25.8%)	1 (3.2%)	0 (0.0%)	31
委員（3年以上）	20 (58.8%)	10 (29.4%)	4 (11.8%)	0 (0.0%)	34
委員（3年未満）	34 (30.9%)	65 (59.1%)	11 (10.0%)	0 (0.0%)	110
役職経験なし	125 (25.4%)	237 (48.2%)	91 (18.5%)	39 (7.9%)	492
計	201 (30.1%)	320 (48.0%)	107 (16.0%)	39 (5.8%)	667
					X^2=60.348　p<0.001
	現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立て				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	
役員・委員長	26 (83.9%)	5 (16.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31
委員（3年以上）	21 (61.8%)	11 (32.4%)	2 (5.9%)	0 (0.0%)	34
委員（3年未満）	56 (50.0%)	45 (40.2%)	7 (6.3%)	4 (3.8%)	112
役職経験なし	214 (43.3%)	189 (38.3%)	49 (9.9%)	42 (8.5%)	494
計	317 (47.2%)	250 (37.3%)	58 (8.6%)	46 (6.9%)	671
					X^2=29.257　p<0.01
	現代における女性の生き方を考えていく				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	
役員・委員長	16 (51.6%)	9 (29.0%)	3 (9.7%)	3 (9.7%)	31
委員（3年以上）	18 (52.9%)	8 (23.5%)	8 (23.5%)	0 (0.0%)	34
委員（3年未満）	35 (31.3%)	52 (46.4%)	16 (14.3%)	9 (8.0%)	112
役職経験なし	142 (28.8%)	203 (41.2%)	95 (19.3%)	53 (10.8%)	493
計	211 (31.5%)	272 (40.6%)	122 (18.2%)	65 (9.7%)	670
					X^2=21.723　p<0.01

表5-20　活動への共感（組合員歴）

	組合員の交流の場を提供する				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	計
3年未満	27 (28.7%)	40 (42.6%)	14 (14.9%)	13 (13.8%)	94
3年以上10年未満	52 (28.6%)	90 (49.5%)	28 (15.4%)	12 (6.6%)	182
10年以上	112 (31.5%)	174 (49.0%)	57 (16.1%)	12 (3.4%)	355
計	191 (30.3%)	304 (48.2%)	99 (15.7%)	37 (5.9%)	631
					X^2=15.321　p<0.05

低い水準にとどまり、新たな共同性（もしくはコミュニティ）の構築やジェンダー問題への対処などを、生活クラブの役割として認識する組合員は相対的に少ないことが明らかとなった。

活動への共感について、統計的に有意な関連を見出すことができたのは、世代・役職経験・組合員歴・加入形態であり、就業形態との関連は有意な関連を見出せなかった。

世代では、「素性確かで安全な食材を適正な価格で提供する」と「組合員の交流の場を提供する」で有意となった（表5-18）。前者については、40 台以下でやや肯定的意見の割合が高く、50 代以上で否定的意見が散見されるものの、大きな違いというほどのものではない。後者では、30 代以下で否定的意見がやや低く、60 代以上で「わからない」の割合が高くなっているのがやや目立つ。

役職経験では、「組合員の交流の場を提供する」「現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立てを行う」「現代における女性の生き方を考えていく」で有意となった（表 5-19）。いずれも、役職経験の豊富さと肯定的意見の割合の高さが正比例する傾向がみられる。しかしながら、「現代における女性の生き方を考えていく」では、「委員（3 年以上）」で否定的意見の割合が最大となっており、この点については検討が必要である。

組合員歴では、「組合員の交流の場を提供する」で有意となった（表 5-20）。組合員歴が長いと肯定的になっているものの、その差はわずかであり、「3 年未満」で「わからない」の割合が高くなっているのが若干目立つ程度である。

加入形態では、「組合員の交流の場を提供する」「生産者と提携してよりよい食材を開発する」「現代における女性の生き方を考えていく」「環境に配慮した地域循環型社会を目指す」で有意となった（表 5-21）。このうち、「組合員の交流の場を

表5-21　活動への共感（加入形態）

	組合員の交流の場を提供する				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	計
班	90 (32.0%)	139 (49.5%)	44 (15.7%)	8 (2.9%)	281
班から戸配	70 (27.8%)	122 (48.4%)	47 (18.7%)	13 (5.2%)	252
最初から戸配	33 (29.7%)	48 (43.2%)	14 (12.6%)	16 (14.4%)	111
計	193 (30.0%)	309 (48.0%)	105 (16.3%)	37 (5.7%)	644
X^2=22.092　p<0.01					
	生産者と直接提携してよりよい食材を開発する				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	計
班	230 (81.9%)	45 (16.0%)	3 (1.1%)	3 (1.1%)	281
班から戸配	217 (85.4%)	33 (13.0%)	3 (1.2%)	1 (0.4%)	254
最初から戸配	97 (85.6%)	10 (8.9%)	0 (0.0%)	5 (4.5%)	112
計	544 (86.6%)	88 (13.6%)	6 (0.9%)	9 (1.4%)	647
X^2=14.283　p<0.05					
	現代における女性の生き方を考えていく				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	計
班	80 (28.4%)	120 (42.6%)	62 (22.0%)	20 (7.1%)	282
班から戸配	84 (33.1%)	108 (42.5%)	38 (15.4%)	24 (9.4%)	254
最初から戸配	41 (36.9%)	37 (33.3%)	17 (15.3%)	16 (14.4%)	111
計	205 (31.7%)	265 (41.0%)	117 (18.1%)	60 (9.3%)	647
X^2=12.835　p<0.05					
	環境に配慮した地域循環型社会を目指す				
	共感する	やや共感する	やや共感しない・共感しない	わからない	計
班	170 (60.3%)	86 (30.5%)	13 (4.6%)	13 (4.6%)	282
班から戸配	165 (65.0%)	68 (26.8%)	5 (2.0%)	16 (6.3%)	254
最初から戸配	81 (73.0%)	22 (19.8%)	0 (0.0%)	4 (7.2%)	111
計	416 (64.3%)	176 (27.2%)	18 (2.8%)	37 (5.7%)	647
X^2=13.654　p<0.05					

提供する」「現代における女性の生き方を考えていく」では、「最初から戸配」でやや肯定的意見の割合が低下し、その分「わからない」が多くなる傾向がみられる。また、「生産者と提携してよりよい食材を開発する」「環境に配慮した地域循環型社会を目指す」では、逆に「最初から戸配」で肯定的意見が多くなるが、これは、生活クラブへの加入動機のひとつが、環境配慮に努力している点にあることを示しているといえよう。その他では、「現代における女性の生き方を考えていく」で、「班」の否定的意見の割合が高い点が注目されるだろう。これは、先にも記したが、班組合員のある種の「保守性」を指し示すものであるとも考えられる。

次に、活動方針の実行度についての評価は、「組合員の交流の場を提供する」以外のすべての項目において共感度よりも低い数値となっている（図5-6）。ただし、傾向的には「共感する」の減少分のほとんどが「やや思う」に吸収されている形となっており、実行度については、批判的であるというよりもやや控えめな評価になっているというのが正確である。なお、「組合員の交流の場を提供する」（「思う」41.4%、「やや思う」42.4%）で数値の「逆転現象」が起こっているのは、組合員同士の交流が一定程度実現しているということを示すものと考えられる。

図5-6　活動方針に関する実行度の評価

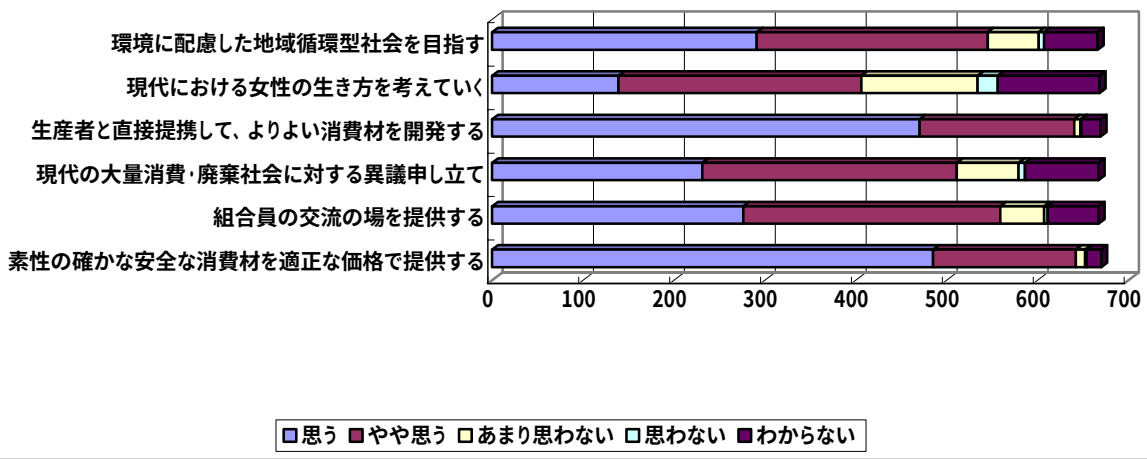


表5-22　活動の実行度（世代）

	素性確かで安全な食材を適正な価格で提供する				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
30代以下	67 (73.6%)	24 (26.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	91
40代	161 (76.7%)	43 (20.5%)	3 (1.4%)	3 (1.4%)	210
50代	195 (70.1%)	71 (25.5%)	6 (2.2%)	6 (2.2%)	278
60代以上	58 (66.7%)	19 (21.8%)	3 (3.4%)	7 (8.0%)	87
計	481 (72.2%)	157 (23.6%)	12 (1.8%)	16 (2.4%)	666
					X^2=20.787　p<0.05
	組合員の交流の場を提供する				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
30代以下	50 (54.9%)	32 (35.2%)	5 (5.5%)	4 (4.4%)	91
40代	84 (40.0%)	98 (46.7%)	17 (8.1%)	11 (5.2%)	210
50代	105 (37.9%)	122 (44.0%)	24 (8.7%)	26 (9.4%)	277
60代以上	35 (41.2%)	29 (34.1%)	6 (7.1%)	15 (17.6%)	85
計	274 (41.3%)	281 (42.4%)	52 (7.8%)	56 (8.4%)	663
					X^2=22.633　p<0.01
	現代における女性の生き方を考えていく				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
30代以下	28 (30.8%)	33 (36.3%)	16 (17.6%)	14 (15.4%)	91
40代	34 (16.2%)	88 (41.0%)	61 (29.0%)	29 (13.8%)	210
50代	60 (21.6%)	114 (41.0%)	57 (20.5%)	47 (16.9%)	278
60代以上	17 (20.0%)	31 (36.5%)	15 (17.6%)	22 (25.9%)	85
計	139 (20.9%)	264 (39.8%)	149 (22.4%)	112 (16.9%)	664
					X^2=18.004　p<0.05
	環境に配慮した地域循環型社会を目指す				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
30代以下	43 (47.3%)	38 (41.8%)	6 (6.6%)	4 (4.4%)	91
40代	81 (38.8%)	91 (43.5%)	21 (10.0%)	16 (7.7%)	209
50代	127 (45.7%)	100 (36.0%)	28 (10.1%)	23 (8.3%)	278
60代以上	38 (45.2%)	23 (27.4%)	7 (8.3%)	16 (19.0%)	84
計	289 (43.7%)	252 (38.1%)	62 (9.4%)	59 (8.9%)	662
					X^2=19.897　p<0.05

表5-23　活動の実行度（就業形態）

	組合員の交流の場を提供する				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
自営業	27 (40.9%)	21 (31.8%)	8 (12.1%)	10 (15.2%)	66
フルタイム	28 (36.8%)	30 (39.5%)	9 (11.5%)	9 (11.8%)	78
パートタイム等	75 (37.9%)	102 (51.5%)	10 (5.1%)	11 (5.6%)	198
仕事はしていない	136 (44.3%)	122 (39.7%)	23 (7.5%)	26 (8.5%)	307
計	266 (41.1%)	275 (42.5%)	50 (7.7%)	56 (8.7%)	647
					X^2=19.364　p<0.05

比較的数値の開きの大きいのが「現代における女性の生き方について考えていく」（「思う」20.8%、「やや思う」40.0%）と「環境に配慮した地域循環型社会を目指す」（「思う」43.7%、「やや思う」38.1%）である。逆に、数字の開きが小さいのは、共感度の高かった「素性の確かな安全な食材を適正な価格で提供する」（「思う」72.4%、「やや思う」23.4%）と「生産者と直接提携して、よりよい食材を提供する」（「思う」70.3%、「やや思う」25.4%）である。食の安全に関する実効度も高いと評価する組合員が多い一方で、例えば、ジェンダー・地産地消・廃棄物対策などにおいてさらに工夫を期待する組合員も一定数いるということの表れとみることもできるかもしれない。

世代との関連については、「組合員の交流の場を提供する」「現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立てを行う」「現代における女性の生き方を考えていく」「環境に配慮した地域循環型社会を目指す」で有意となった（表 5-22）。ほぼ一貫しているのは、30 代における肯定的意見の割合が高いことである。また、40 代で、消極的肯定の比率が高くなっているのもおおむね共通している。また、60 代以上では「わからない」の比率が高くなる。個別の数字では、「現代における女性の生き方を考える」で、40 代における否定的意見の比率が 3 割弱に達しているのが目立つ。

就業形態との関連では、「組合員の交流の場を提供する」で有意となった（表 5-23）。ここでの特徴は、「自営業」「フルタイム」で否定的意見と「わからない」の比率が高くなることであるが、これは、労働に費やされる時間が相対的に長いために、組合員活動への参加が限られてしまい、その結果として、交流の実感が持てないことによるものと思われる。

役職経験との関連では、「組合員の交流の場を提供する」「現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立てを行う」「現代における女性の生き方を考えていく」「環境に配慮した地域循環型社会を目指す」で有意となった（表 5-24）。一見して目立つのは、「役職経験なし」で「わからない」の比率が高いことである。

表5-24　活動の実行度（役職経験）

	組合員の交流の場を提供する					現代における女性の生き方を考えていく				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
役員・委員長	19 (61.3%)	11 (35.5%)	1 (3.2%)	0 (0.0%)	31	5 (16.1%)	18 (58.1%)	6 (19.4%)	2 (6.5%)	31
委員（3年以上）	15 (44.1%)	14 (41.2%)	5 (14.7%)	0 (0.0%)	34	9 (26.5%)	15 (44.1%)	8 (23.5%)	2 (5.9%)	34
委員（3年未満）	38 (33.6%)	66 (58.4%)	7 (6.2%)	2 (1.8%)	113	19 (16.8%)	56 (49.6%)	27 (23.9%)	11 (9.7%)	113
役職経験なし	204 (41.7%)	192 (39.3%)	39 (8.0%)	54 (11.0%)	489	108 (21.6%)	178 (36.3%)	109 (22.2%)	97 (19.8%)	490
計	276 (41.4%)	283 (42.4%)	52 (7.8%)	56 (8.4%)	667	139 (20.8%)	267 (40.0%)	150 (22.5%)	112 (16.8%)	668
	X^2=31.757　p<0.001					X^2=19.436　p<0.05				
	現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立て					環境に配慮した地域循環型社会を目指す				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
役員・委員長	17 (54.8%)	11 (35.5%)	3 (9.7%)	0 (0.0%)	31	21 (67.7%)	8 (25.8%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)	31
委員（3年以上）	13 (38.2%)	13 (38.2%)	7 (20.6%)	1 (2.9%)	34	18 (52.9%)	9 (26.5%)	6 (17.6%)	1 (2.9%)	34
委員（3年未満）	35 (31.0%)	63 (55.8%)	11 (9.7%)	4 (3.5%)	113	50 (44.2%)	48 (42.5%)	9 (8.0%)	6 (5.3%)	113
役職経験なし	166 (33.9%)	193 (39.5%)	54 (11.0%)	76 (15.5%)	489	202 (41.4%)	189 (38.7%)	45 (9.2%)	52 (10.7%)	488
計	231 (34.6%)	280 (42.0%)	75 (11.2%)	81 (12.1%)	667	291 (43.7%)	254 (38.1%)	62 (9.3%)	59 (8.9%)	666
	X^2=31.179　p<0.001					X^2=18.930　p<0.05				

4つのうち、「現代における女性の生き方を考えていく」を除く3つでは、おおむね役職の高さ・役職経験の長さと正比例して肯定的意見が増える。特に、「役員・委員長」での積極的肯定意見の高さは突出している。また、「委員（3 年以上）」で否定的意見が最大となり、「委員（3 年未満）」で消極的な肯定が増えることも共通している。基本的には、役職経験によって生活クラブへのアイデンティティやシンパシーが高くなるということができると思われるが、その中で、「委員（3 年以上）」での否定的意見の高さは法則性を欠く事象であり、さらなる検討が必要である。「現代における女性の生き方を考えていく」で「委員（3 年以上）」で積極的肯定的意見が最大となることも、同じ文脈で判断する必要があるかもしれない。そして、「現代における女性の生き方を考えていく」において「役員・委員長」の積極的肯定の比率がかなり低くなっているのも、検討が必要である。

表5-25　活動の実行度（組合員歴）

	組合員の交流の場を提供する				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
3年未満	39 (41.5%)	34 (36.2%)	4 (4.3%)	17 (18.1%)	94
3年以上10年未満	80 (44.4%)	69 (38.3%)	12 (6.7%)	19 (10.6%)	180
10年以上	142 (39.9%)	165 (46.3%)	31 (8.7%)	18 (5.1%)	356
計	261 (41.4%)	268 (42.5%)	47 (7.5%)	54 (8.6%)	630
	X^2=21.532　p<0.01				
	現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立て				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
3年未満	32 (34.0%)	34 (36.2%)	4 (4.3%)	24 (25.5%)	94
3年以上10年未満	62 (34.4%)	73 (40.6%)	18 (10.0%)	27 (15.0%)	180
10年以上	127 (35.6%)	157 (44.0%)	49 (13.7%)	24 (6.7%)	357
計	221 (35.0%)	264 (41.8%)	71 (11.3%)	75 (11.9%)	631
	X^2=31.741　p<0.001				
	現代における女性の生き方を考えていく				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
3年未満	19 (20.2%)	32 (34.0%)	17 (18.1%)	26 (27.7%)	94
3年以上10年未満	42 (23.3%)	64 (35.6%)	37 (20.6%)	37 (20.6%)	180
10年以上	73 (20.4%)	154 (43.0%)	86 (24.0%)	45 (12.6%)	358
計	134 (21.2%)	250 (39.6%)	140 (22.2%)	108 (17.1%)	632
	X^2=16.240　p<0.05				

組合員歴との関連では、「組合員の交流の場を提供する」「現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立てを行う」「現代における女性の生き方を考えていく」で有意となった（表 5-25）。一貫した傾向としては、まず、組合員歴の長さと正比例して「わからない」の比率が低下することである。これは、組合員教育がある程度効果を発揮していることの証明とみることもできる。また、否定的意見について、組合員歴の長さと比例して比率が高くなるのも一貫している。一見否定的なデータとも読めるが、その一方で、自分の意見を明確に持っている点で、反対に肯定的に捉えることも可能であろう。ここでの否定的意見が、生活クラブの現状に満足せず、さらなる高い地点を目指

表5-26　活動の実行度（加入形態）

	組合員の交流の場を提供する				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
班	112 (40.1%)	126 (45.2%)	29 (10.4%)	12 (4.3%)	279
班から戸配	109 (42.5%)	110 (43.3%)	16 (6.3%)	19 (7.5%)	254
最初から戸配	48 (43.2%)	35 (31.5%)	5 (4.5%)	23 (20.7%)	111
計	269 (41.8%)	271 (42.1%)	50 (7.8%)	54 (8.4%)	644
X^2=34.618　p<0.001					
	現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立て				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
班	90 (32.3%)	122 (43.7%)	43 (15.4%)	24 (8.6%)	279
班から戸配	95 (37.3%)	104 (40.8%)	25 (9.8%)	31 (12.2%)	255
最初から戸配	41 (37.3%)	40 (36.4%)	3 (2.7%)	26 (23.6%)	110
計	226 (35.1%)	266 (41.3%)	71 (11.0%)	81 (12.6%)	644
X^2=28.514　p<0.001					
	現代における女性の生き方を考えていく				
	思う	やや思う	あまり思わない・思わない	わからない	計
班	60 (21.5%)	106 (38.0%)	75 (26.9%)	38 (13.6%)	279
班から戸配	55 (21.5%)	112 (37.3%)	48 (18.8%)	41 (16.0%)	256
最初から戸配	20 (18.2%)	41 (37.3%)	21 (19.1%)	28 (25.5%)	110
計	135 (20.9%)	259 (40.2%)	144 (22.3%)	107 (16.6%)	645
X^2=13.176　p<0.05					

きる。

しているものと考えることもできるのである。「10 年以上」で消極的肯定が増えるのも、同じような考え方ができるかもしれない。

加入形態との関連でも、「組合員の交流の場を提供する」「現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立てを行う」「現代における女性の生き方を考えていく」で有意となった。ここでは、「最初から戸配」における「わからない」の回答の比率の高さが目立つ。「最初から戸配」は組合員歴が短いことが予想されるので、上記の傾向と同じものと考えられる。また、「班」において否定的意見の比率が高くなることも、先に検討したように、一見否定的なデータとも取れるが、要求水準の高さの違いから生じるものと考えることもで

第６章　組合員の意識構造

本章では、生活クラブ生協の組合員のさまざまな意識について考察していくことにしたい。以下の分析では主に世代別の傾向を見ていくが、班員／元班員の戸配組合員／最初から戸配組合員の間で顕著な差が見られた項目については適宜考察を加えることにする。

6.1　組合員の「生き方」に関する考え方

はじめに組合員の全般的な生き方に関する意見を見ていこう。表 6-1 はそれぞれの項目に関して 4 段階で尋ね（4 が肯定的な意見）、その平均値とその比較を分散分析によって実施したものである。「今は、まず個人としての生活の内容を充実していくことが第一で、社会全体や国のことまで考えがまわらない」という点は世代別に差はなかったが、班員だけの分析では、若い世代ほど個人主義的な傾向が見られた（表 6-2）。また「公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲になってもしかたがない」という項目に対して若年層が否定的な見解を示していることも、個人主義的な傾向の証左として確認できるだろう。さらに、「十分な話し合いをした上で、みんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべきだ」という点は、上の世代の方が肯定的な意見を述べている。

従来の生活クラブ生協では「話し合いの末、生活クラブ生協で決まったこと」に対しては、個人の多少の意見のずれがあったにしろ、組織の方針に従うという点が共有されていたように思われる。この分析結果は特に若い世代ではそのような価値観が共有されなく、「組織による上からの押しつけ」という感覚を組合員に生じさせることにつながる可能性を示唆している。ただし、班員だけの分析では、「十分な話し合いをした上で、みんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべきだ」という意見に対して肯定的な意見が少ない世代は 40 代（平均値、3.20）であり、必ずしも若い世代が共有しているというわけではない。だが、戸配組合員については、30 代以下の組合員にその傾向があることは見いだせるだろう。

表 6-1　組合員の生き方に関する考え方（世代別）

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体	分散分析の結果
今は、まず個人としての生活の内容を充実していくことが第一で、社会全体や国のことまで考えがまわらない	2.29	2.35	2.19	2.20	2.26	n.s.
公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲になってもしかたがない	1.86	1.87	2.06	2.30	2.00	F=5.459 p<.01
十分な話し合いをした上で、みんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべき	3.30	3.34	3.51	3.72	3.45	F=11.846 p<.001

表 6-2　「十分な話し合いをした上でみんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべき」という意見（班・戸配別）

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体	分散分析の結果
班員	3.42	3.20	3.53	3.64	3.41	F=6.218 p<.001
元班員の戸配組合員	3.18	3.48	3.52	3.76	3.51	F=5.055 p<.01
最初から戸配組合員	3.26	3.50	3.43	3.78	3.45	F=4.151 p<.01

6.2　組合員の「豊かさ」に関する意識と生活満足度

次に組合員の「豊かさ」に関する意識について見てみよう。何をもって「豊か」であるのかという点はさまざまな意見があろうが、はじめに「経済的な豊かさ」（問 27）に関して見ていこう。問 27

では経済的な豊かさを得るための条件として、実績を重視するのか平等性を重視するのかという観点から組合員の意見と日本社会の現実の 2 つの側面から尋ねた（表 6-3,6-4）。個人の意見に関して世代別の差は統計的には有意な結果となっていないが、若い世代の方が実績主義的な傾向であることが伺える。一方、日本社会の現実という点については、7-8 割以上の組合員が実績を上げた人が経済的な豊かさを享受していると判断している（ただし傾向としては若い世代の方が強い）。

表 6-3　望ましい経済的な豊かさに関する意見（個人）

	30代以下	40代	50代	60代	全体
実績をあげた人ほど多く得るのが望ましい	12.6	6.5	4.9	7.5	6.8
努力した人ほど多く得るのが望ましい	52.9	57.8	52.7	58.8	55.1
必要としている人が必要なだけ得るのが望ましい	25.3	25.1	26.1	25.0	25.6
誰でもが同じくらいに得るのが望ましい	9.2	10.6	16.3	8.8	12.5
合計	100.0(87)	100.0(199)	100.0(264)	100.0(80)	100.0(630)

値は％（人数）　n.s.

表 6-4　経済的な豊かさの現実に関する意見

	30代以下	40代	50代	60代	全体
実績をあげた人ほど多く得るのが望ましい	89.3	93.2	85.4	72.2	86.9
努力した人ほど多く得るのが望ましい	3.6	2.6	4.0	5.6	3.7
必要としている人が必要なだけ得るのが望ましい	4.8	1.6	5.1	9.7	4.5
誰でもが同じくらいに得るのが望ましい	2.4	2.6	5.5	12.5	5.0
合計	100.0(84)	100.0(192)	100.0(253)	100.0(72)	100.0(601)

値は％（人数）　$\chi 2=24.067$ d.f.=9 $p<.01$

一方、経済的な豊かさとは逆に、脱物質主義的価値観と呼ばれる生活の質を問う豊かさ（心の豊かさやゆとりのある生活）に対する意識については、40 代の組合員以外は強く肯定していることが伺える。また 60 代以上の組合員は、脱物質主義的価値観に肯定的な層と否定的な層の 2 つが分かれていることも見いだせる。だが、全体的には組合員は経済的な豊かさよりは心の豊かさやゆとりのある生活を重視しているといえるだろう。

表 6-5　物質的な豊かさよりも、心の豊かさやゆとりのある生活を重視すべきという意見

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
思う	49.4	35.4	47.7	54.8	45.2
やや思う	40.2	54.7	46.2	34.5	46.4
あまり思わない	10.3	8.9	4.5	6.0	6.8
思わない	0	1.0	1.5	4.8	4.6
合計	100.0(87)	100.0(192)	100.0(266)	100.0(84)	100.0(629)

値は％（実数）　$\chi 2=24.588$ d.f.=9 $p<.01$

最後に組合員の生活満足度および生活環境の評価（現在と将来）、不公平感についての意見を見てみよう（表 6-6）。生活満足度については、それほど世代別の差は見られないが、「現在と比べて、5 年後の自分の生活は良くなっていると思う」と「5 年前と比べて、現在の自分の生活は良くなっている

と思う」という項目は、ともに若い世代が肯定的な評価を下していることが見いだせる。ある意味、若い世代の生活に関する楽観的な態度が伺えるだろう。最後に不公平感については世代別の差は見られないが、全般的にやや不公平感があることが見いだせる。

表 6-6　生活満足度と生活環境の評価、不公平感

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体	分散分析の結果
今の生活全般に満足している	2.91	2.63	2.68	2.73	2.70	F=2.379 p<.1
現在と比べて、5年後の自分の生活は良くなっていると思う	2.21	1.87	1.79	1.52	1.83	F=8.726 p<.001
5年前と比べて、現在の自分の生活は良くなっていると思う	2.50	2.03	2.02	1.82	2.06	F=7.753 p<.001
一般的にいって、今の世の中は不公平だ	2.91	2.63	2.68	2.73	2.70	n.s.

6.3　地域社会への関与に関する意識

生活クラブ生協北海道では、これまで地域のさまざまな活動を展開してきたが、組合員自体の地域社会への関与に関する態度はどのようになっているだろうか。問 28 では「地域社会への満足度」に加えて「地域社会に積極的に関与していきたいか」という点を尋ねている。また、「地域や社会を豊かなものにしていくには、地域の問題や政治にも積極的にかかわっていくべきだ」という意見に対する意識を問 26 で尋ねた。表 6-7 はそれぞれの項目（4 段階）に関する平均点とその比較の結果である（値が高い方が肯定的意見）。地域社会への満足度と積極的に関わっていきたいかという項目には世代による差がないが、「地域や社会を豊かなものにしていくには、地域の問題や政治にも積極的にかかわっていくべきだ」という点については、40 代の組合員がその他の世代と比較し、相対的に否定的な意見を示していることが特徴的である。なお、この傾向は班員のみを対象とした時に顕著な傾向を示している。

一方、地域社会への満足度と地域社会への関与の積極性との間の相関係数は.156（p<.001　N=582）であり、弱いながらも正の関係が認められる。また、組合員が所属・関与する組織数（ソーシャル・キャピタル数）と地域社会への関与の積極性との間については、相関係数は.169（p<.001 N=592）となっている（なお、ソーシャル・キャピタル数と地域社会への満足度は相関はない）。地域社会への関与に積極的であるから所属する組織数が多い可能性もあるが、ソーシャル・キャピタル数の多さが地域社会への活動の積極性の要因になっていることが伺えるだろう。ただし、6.7 で述べるように、活動的な人々がソーシャル・キャピタル数が結果として多くなっているということでもある。

表 6-7　地域社会への関与に関する意識

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体	分散分析の結果
地域や社会を豊かなものにしていくには、地域の問題や政治にも積極的にかかわっていくべきだ	3.17	3.03	3.21	3.18	3.14	F=3.202 p<.05
地域社会に満足しているかどうか	2.82	2.88	2.94	2.92	2.90	n.s.
地域社会に積極的に関わっていきたいかどうか	2.77	2.80	2.68	2.74	2.74	n.s.

6.4　政治意識

生活クラブ生協北海道は、行政などに対峙する社会運動も数多く展開してきたが、組合員の政治的な意識についてはどのようになっているだろうか。まず、人々の政治に対する態度を測る「政治的有

効性感覚」（問 29）について見ていこう。政治的有効性感覚とは、自分を含めて有権者一人ひとりが政治を変えることができるという意識のことであり、「自分たちが政治に働きかければ効果はある」という内的有効性感覚と「政治家や政党、国会などが自分たちの気持ちに応えてくれる」という外的有効性感覚という 2 つに区分されるが、ここでは前者を中心的に取り扱う。以下では、政治意識に関する項目は 4 段階（数値が大きい方が肯定的意見）で測定し、その平均値と差の検定を分散分析で求めた（表 6-8 を参照）。

「選挙では大勢の人々が投票するので、自分一人くらい投票しなくても影響はない」という点は、平均点の低さから全般的にはそのように思っていない組合員が多数いることが見いだせる。また、「国会議員は、おおざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる」「今の政党の中には、信頼のおけるものはない」といった項目は世代別の違いはなく、全般的に政治不信が根強いことを示している。だが、「政治や政府は複雑なので、自分は何をやっているのかよく理解できない」「自分のような普通の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない」といった政治的有効性感覚の指標について見ると、特に若い世代を中心として肯定的な意見が多いことが見いだせる。つまり、政治的有効性感覚は若い世代は低く、政治参加への意欲が低いことが予想されるだろう。さらにこの傾向は、班に所属する組合員に特に見られることから、従来の生活クラブ生協のような班員が中心となって社会運動が展開されるということは今後は望めない可能性もある。ただしその一方で、「この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである」「批判ばかりしていても世の中は変わらない」という項目についても世代の差はなく、組合員は自分たちの力で批判だけではなく世の中を変えていく必要性を感じていることも伺える。

表 6-8　政治的有効性感覚・政治的不信感

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体	分散分析の結果
政治や政府は複雑なので、自分は何をやっているのかよく理解できない	2.90	2.71	2.62	2.56	2.68	F=3.089 p<.05
自分のような普通の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力は	2.71	2.46	2.30	2.31	2.40	F=4.142 p<.01
選挙では大勢の人々が投票するので、自分一人くらい投票しなくても影響はな	1.52	1.50	1.33	1.25	1.40	F=4.395 p<.01
国会議員は、おおざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	3.08	3.22	3.20	3.08	3.17	n.s.
今の政党の中には、信頼のおけるものはない	3.05	3.04	2.99	2.85	3.00	n.s.
この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである	1.89	1.91	1.78	1.92	1.85	n.s.
批判ばかりしていても世の中は変わら	3.52	3.51	3.59	3.69	3.57	n.s.

さて、調査に回答した組合員の支持政党、イデオロギーについてはどうであろうか。表 6-9 は「保守か革新と聞かれれば、私の立場は革新だ」という質問に対する意見である。50 代が革新的であると考える組合員が多いことが分かる。60 代以上も革新であるとする組合員が多いが、そうではないと回答する組合員も多いことが見いだせる。また、「わからない」という回答は世代が若いほど多くなっている。これは保守と革新という対立軸が見いだしにくい現状を反映している結果かもしれない。

一方、表 6-10 は回答者の支持政党を示したものである。60 代以上は民主党への支持と自民党への支持がほぼ同じ程度あるが、50 代は民主党支持が多い。40 代は政治には関心があるが支持政党がないという層が多い。30 代以下は、自民党支持も相対的に多いことだけではなく、政治に関心もなく支持政党もないという無関心層が多いことが特徴的である。これば上述したように、若年層の特に政治

的有効性感覚が低いという結果と付合しているといえるだろう。

表 6-9　「保守か革新と聞かれれば、私の立場は革新だ」という意見

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
思う	11.0	15.1	21.6	25.3	18.5
やや思う	13.2	23.4	28.6	16.9	23.3
あまり思わない	22.0	17.6	14.5	19.3	17.1
思わない	6.6	5.4	9.3	15.7	8.5
わからない	47.3	38.5	26.0	22.9	32.6
合計	100.0(91)	100.0(205)	100.0(269)	100.0(83)	100.0(648)

値は%（人数）　χ 2=40.968 d.f.=12 p<.001

表 6-10　回答者の支持政党

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体
自民党	13.8	9.6	13.7	23.6	13.8
民主党	11.5	10.6	19.9	21.3	16.0
公明党	3.4	1.0	0.7	0.0	1.1
共産党	1.1	4.8	6.5	5.6	5.1
社民党	2.3	1.4	1.8	2.2	1.8
その他	0.0	0.0	3.6	1.1	1.7
政治に関心はあるが、特に支持する政党はない	52.9	63.9	49.5	46.1	54.0
政治に関心はなく、特に支持する政党はない	14.9	8.7	4.3	0.0	6.5
合計	100.0(87)	100.0(208)	100.0(277)	100.0(89)	100.0(661)

値は%（人数）　χ 2=60.090 d.f.=21 p<.001

6.5　政治・政策に対する意見

6.4 では組合員の政治意識について概観してきたが、既存の政治や政策に対する意識（問 29）に見ていこう（表 6-11）。

表 6-11　政治・政策に対する意見

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体	分散分析の結果
経済に対する政府の規制はできるだけ少ない方がいい	2.15	2.21	2.43	2.54	2.33	F=4.347 p<.01
これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政治を行うべきだ	3.23	3.17	3.21	3.16	3.19	n.s
政府は豊かな人からの税金を増やしてでも、恵まれない人への福祉を充実させるべきだ	2.98	3.00	3.14	3.23	3.09	F=2.492 p<.1
今の日本にはリーダーシップを持った政治家が必要だ	3.18	3.13	3.30	3.49	3.26	F=4.469 p<.01
年金に対する負担は、すべての世代が公平に負担すべきだ	3.07	2.91	2.91	3.19	2.97	n.s
高齢者の医療・介護・生活保障は、国や地方自治体の責任ではなく、個人や家族の責任だ	1.83	1.57	1.59	1.76	1.64	F=3.154 p<.05
効率性を重視したり、金銭本位的な働き方とは異なった働き方をすべきだ	2.78	2.77	3.01	2.84	2.89	F=2.777 p<.05

世代別に違いが見られた点は、まず「経済に対する政府の規制はできるだけ少ない方がいい」という点であり、若い世代が新自由主義的な政策を支持していることが伺える。また、「今の日本にはリー

ダーシップを持った政治家が必要だ」という点については、世代があがるにつれて肯定的な意見を示していることが見いだせる。さらに、「高齢者の医療・介護・生活保障は、国や地方自治体の責任ではなく、個人や家族の責任だ」という点については、30 代以下と 60 代以上がその他の世代に比べて肯定的であることも伺える。ワーカーズ・コレクティブの存在意義とも関連する「効率性を重視したり、金銭本位的な働き方とは異なった働き方をすべきだ」という意見については、50 代がもっとも肯定的な意見を示している。上述した政治意識における革新的な態度、生活クラブ生協の運動をもっとも積極的に担ってきた 50 代の組合員が多いことがその理由であると考えられるだろう。

6.6　ジェンダーに関する意識

生活クラブ生協の組合員のほとんどは女性であり、その多くは専業主婦であった。一般に高学歴の専業主婦の存在が、生活クラブ生協のさまざまな活動を支えたという点は否定できない。そして、専業主婦＝「夫の精算と労働に依存し、消費と生活を引き受ける女性」という位置づけによって、生活クラブ生協の活動は、ジェンダー論から批判的に議論された経緯もある。なぜなら既存のジェンダーの秩序を再生産する保守的な役割を果たす専業主婦を前提とした活動であったからである。だが、女性のライフスタイルも変わり、生活クラブ生協の組合員であっても、必ずしも専業主婦であるとは限らないようになってきた。では、組合員のジェンダーに関する意識はどのようになっているのだろうか。以下、性別役割分業意識を中心にその傾向を分析していきたい。なお、留意しなければならない点は、第 1 章でも述べたように、本調査における回答者の 47.3%が仕事をしていなく、フルタイムの職（自営業と会社経営者、常勤の雇用者、公務員の合計）に就いている回答者は 2 割程度であるという点である。

さて、表 6-12 は、回答者のジェンダー意識について尋ねたものである。「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」という性別役割分業に対して最も否定的であるのが 40 代であり、30 代以下で性別役割分業を肯定する層が 60 代以上の回答者についで多いことが見いだせる。一般に世代が若いほど、伝統的な性役割規範に対して否定的であるが、生活クラブ生協の組合員については違う傾向が見られる点は興味深い点である。同様な傾向は、「家族を（経済的に）養うのは男性の役割だ」という意見でも見られる。なお、2 つの項目に関するこの傾向は、班員のみ、最初から戸配組合員の回答者でも同様に確認されている。

表 6-12　ジェンダー意識について

	30代以下	40代	50代	60代以上	全体	分散分析の結果
男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ	1.87	1.55	1.74	2.00	1.73	F=6.939 p<.001
専業主婦は、社会的に大変意義のある存在だ	2.95	2.70	2.80	2.81	2.80	n.s.
家族を（経済的に）養うのは男性の役割だ	2.09	1.97	2.27	2.29	2.15	F=4.802 p<.01
女性も、自分自身の職業生活を重視した生き方をするべきだ	2.81	2.99	2.94	3.00	2.95	n.s.
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たずに育児に専念すべきだ	2.72	2.78	3.14	3.31	2.99	F=11.134 p<.001
今の政治を変えるためにはもっと女性が政治にかかわるべきだ	3.04	3.14	3.22	3.10	3.16	n.s.

このような結果となった背景には、まず、40 代の組合員は、生活クラブ生協北海道を専業主婦という立場で支えた 50 代とは違って、組合員のライフスタイルなどの変化もあり性別役割分業意識を否定的に捉える傾向が強まったこと、そして 30 代以下の組合員はかつての生活クラブ生協の組合員の

典型であった専業主婦の割合が高く、性別役割分業意識に対して肯定的な層が多かったためであると考えられる。したがって、一般的には性別役割分業意識は若い世代ほど否定的であるが、性別役割分業を肯定的に捉える若い世代が生活クラブ生協に集ってきたという解釈もあり得るだろう。

最後に、俗にいう「3歳児神話」（子どもが小さいときには母親が仕事を持たずに家庭で育児をしないと子どもの成長に悪い）に関しては、若い世代ほど否定的であることが見いだせる。だが、平均値の値が3に近いように、全般的に肯定している傾向があることは留意する必要がある。

6.7　ソーシャル・キャピタル

ソーシャル・キャピタルとは、社会関係資本とも呼ばれ、R. Putnamによれば個人にとってお互いの利益を促進するための社会的組織のことである。そして、さまざまな市民活動への参加者ほど、多くの組織にさまざまな組織に加入しているとされている。表 6-13 は、回答者全体において、それぞれの組織への「加入している」「積極的に活動している」「以前、活動していた」と回答した割合である。自治会・町内会、学校・PTA・父母会、趣味・教養・学習のための団体やサークルが加入率が高く、積極的に活動している（していた）経験も高い。趣味サークルやボランティア団体への加入や活動が多いのに対して、社会運動・市民運動などは相対的に少ないことが分かる。

表 6-13　組織への参加形態

	加入	積極的に活動	以前、活動
自治会・町内会	61.3	8.5	15.7
労働組合	5.4	0.7	6.1
業界団体・同業者団体	2.3	0.3	0.9
政治関係の団体や会（政党・後援会など）	3.7	0.6	2.5
ボランティアのグループ	8.5	6.0	8.1
生協などの消費者運動、団体	9.1	1.0	3.4
自然保護・環境保護団体・サークル	1.3	1.0	2.3
その他の市民運動・団体	3.1	1.8	1.8
宗教や信仰に関する団体・サークル	5.6	2.9	1.6
学校・PTA・父母会	24.3	10.8	29.6
スポーツ関係のグループやクラブ	13.0	8.1	13.9
趣味・教養・学習のための団体・サークル	23.1	13.3	16.4
同窓会・同郷会	17.3	3.2	5.6

さて、Putnum にならって、以上のような組織への加入をまとめて数量化し、ソーシャル・キャピタル数として指標化しよう。世代別および班員・戸配組合員別のソーシャル・キャピタル数はどのようになっているのだろうか。その平均値の比較（分散分析）を行った結果が、表 6-14 と表 6-15 である。

表 6-14　世代別のソーシャル・キャピタル数

	平均値	N
30代以下	1.85	93
40代	2.34	212
50代	1.93	283
60代以上	2.07	91
合計	2.07	679

d.f.=3 F=3.653 p<.05

表 6-15　班・戸配別のソーシャル・キャピタル数

	平均値	N
班員	2.10	286
元班員の戸配組合員	2.17	261
最初から戸配組合員	1.71	112
合計	2.06	659

d.f.=2 F=3.704 p<.05

分散分析の多重比較（Turkey 法）によると、40 代のソーシャル・キャピタル数が 30 代や 50 代よりも多く（表 6-14）、元班員の戸配組合員のソーシャル・キャピタル数が最初から戸配の組合員よりも多いという点が有意な差として現れている（表 6-15）。また、世代をコントロールして、班・戸配別のソーシャル・キャピタル数を分析すると、30 代のみ有意な結果となり（表 6-16）、班員の方が最初から戸配組合員よりもソーシャル・キャピタル数が多いという結果となった。

表 6-16　30 代のソーシャル・キャピタル数

	平均値	N
班員	2.28	36
元班員の戸配組合員	2.17	18
最初から戸配組合員	1.32	38
合計	1.86	92

d.f.=2 F=5.220 p<.01

では、組合員のソーシャル・キャピタル数は生活クラブ生協の組合員活動や社会運動とどのような関係になっているだろうか。生活クラブ生協における活動（石けん運動、講演会、料理講習会、産者見学・交流会、まつり、反・脱原発運動、代理人運動、グリーン電気料金運動・市民風車、ワーカーズ・コレクティブ、福祉基金、平和を考える活動）のそれぞれにおいて、積極的な参加経験があった活動の合計数および活動希望の合計数と、ソーシャル・キャピタル数の相関を分析した。また、社会運動（学生運動、ベトナム戦争反対運動、公害反対運動、合成洗剤追放運動（石けん運動）、チェルノブイリ原発事故を巡った反原発運動、泊原発の可否を問う道民投票条例運動、幌延問題に関する反対運動、丘珠空港ジェット化反対運動、千歳川放水路問題に関わる反対運動、当別ダムに関わる反対運動、イラク戦争反対運動）への中心的・継続的な参加経験がある活動の合計数と、ソーシャル・キャピタル数の相関を分析した。なお、ソーシャル・キャピタル数は世代による差があるために、世代をコントロールした上で相関（偏相関）を取った。また、組合員全体の傾向だけではなく、班員・元班員の戸配組合員・最初から戸配組合員の 3 つに分けて分析を行った。表 6-17 はその結果である。

表 6-17　ソーシャル・キャピタル数との相関係数

	全体		班員		元班員の戸配組合員		最初から戸配組合員	
	相関係数	世代を統制した相関係数	相関係数	世代を統制した相関係数	相関係数	世代を統制した相関係数	相関係数	世代を統制した相関係数
生活クラブ生協の活動経験数	.141***	.127**	.149*	.171*	.114+	.099	.076	.044
生活クラブ生協の活動希望数	.105**	.118**	.115+	.120+	.028	.019	.250*	.284**
社会運動の経験数	.123**	.105*	.162**	.211**	.096	.014	.016	.009

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05 + p<.1

回答者全体では、ソーシャル・キャピタル数と生活クラブ生協の活動経験数、社会運動の経験数の双方とも正の相関があることが見いだせる。つまり、生活クラブ生協の活動や関連する社会運動といったさまざまな活動をしている人ほど、多くの組織に加入しているのである。ただし、班員・元班員の戸配組合員・最初から戸配組合員ごとに分析すると、ソーシャル・キャピタル数と活動経験数との間の相関は班員のみに見られる効果であり、これは世代をコントロールしても同様である。つまり、班員になる人がさまざまな活動に参加し、その結果、さまざまな組織に所属しているとも考えられる。だが、戸配組合員が活動的ではないと結論づけることもできない。最初から戸配組合員では、ソーシ

ャル・キャピタル数と生活クラブ生協の活動希望数が正の相関が見られるように、さまざまな組織に所属している最初からの戸配組合員は、生活クラブ生協の活動に参加する潜在的な動機付けはあるといえるのではないだろうか。

（整理用番号）

生活クラブ生協・組合員
に関するアンケート

【ご記入にあたっては、以下の点にご留意ください。】

（1）このアンケートは生活クラブ生協の組合員として関わっている方を対象に、皆様の日頃のお考えや行動について質問させていただいております。生活クラブ生協の今後の発展や、さまざまな運動・事業展開の可能性について考えるための基礎的な資料となります。なお、組合員の名義が配偶者であった場合でも、実際上、生活クラブ生協に関わっている方が、質問にお答え下さい。よろしくお願いいたします。

（2）皆様にご回答いただいた内容は、コンピューターで統計的に処理します。誰がどのように答えたかを特定することはありません。秘密の保持には細心の注意を払っておりますので、ありのままをご記入いただきますようにお願いいたします。

（3）このアンケートは、○や数字を記入するだけで簡単に回答できるようになっており、すべての記入には 20 分程度の時間で終わるようになっています。質問事項をよくお読みになって、間違いのないようにご記入ください。

（4）同封の返信用封筒にて、10 月末までに生活クラブ業務便で提出していただきますようお願い申し上げます。

どうぞよろしくお願いいたします

■まず、回答者の方の基本的な属性についてお聞きします。

問１　性別　　男　　女　（どちらか一つに〇をつけて下さい）

問２　年齢　　＿＿＿＿歳

■次に、生活クラブ生協への加入についてお聞きします。

問３　（1）あなたが北海道の生活クラブ生協に入ったのはいつですか。
（2）また、再加入の方（別の地域の生活クラブ生協も含む）は、最初の加入時期と今回の加入時期および、加入したのべ年数をお答え下さい。
（3）さらに、現在、加入している支部、または支部コード番号をお書き下さい（支部コード番号は注文用紙の上段に記入されています）。

（1）加入した年　＿＿＿＿年（西暦）

（2）再加入の方　最初の加入　＿＿＿＿年（西暦）
今回の加入　＿＿＿＿年（西暦）
のべ年数　＿＿＿＿年

（3）現在の加入支部名（支部コード番号）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問４　あなたが生活クラブ生協に加入された動機は何でしたか。次の中から、強い順に３つまで選んで番号をお書き下さい。「11　その他」と答えた方は、下記に具体的にその内容をお書き下さい。

一番目の理由＿＿＿＿　　二番目の理由＿＿＿＿　　三番目の理由＿＿＿＿

1　品物を配達してもらえるから
2　安全で品質の良い品物が手にはいるから
3　子どもの健康のために安全な食品を手に入れたいから
4　生活クラブの食材がおいしいから
5　主婦の社会参加の場所として魅力があったから
6　石けんや反・脱原発などの生活クラブ生協が行っている市民運動に興味があったから
7　友達や話し相手がもっと欲しかったから
8　熱心に誘われたから
9　生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）に賛同するから
10　生活クラブ生協の存在に社会的意義を感じるから
11　その他
（具体的にお書きください：　　）

問５　あなたのご家族・親族の中に、生活クラブ生協へ加入されていた方はいらっしゃいましたか。次から一つ選んで、〇をつけて下さい。

1　親が加入していた
2　親以外の親族が加入していた
3　加入していない

■生活クラブ生協への加入形態についてお聞きします。

問６　あなたは現在、生活クラブ生協にどのような形態として加入されていますか。次から一つ選んで〇をつけて下さい。

１　班	→	【問７にお進み下さい】
２　大型班	→	【問７にお進み下さい】
３　戸配	→	【問８（5 ページ）にお進み下さい】

問７　問６で１（班）もしくは、２（大型班）と答えた方にお聞きします。

（１）班の人数は何人で構成されていますか。ご存じない方は「わからない」に〇をつけて下さい。

（＿＿＿＿＿＿人）　（わからない）

（２）あなたの班では班会をどのくらい開きますか。次から一つ選んで、〇をつけて下さい。

１　班会は開いていない　２　年 1 回　３　年 2 回
４　年 3～4 回　５　年 5～6 回　６　年 7～12 回　７　年 13 回以上

（３）あなたは班会にどのくらい出席していますか。次から一つ選んで、〇をつけて下さい。

１　いつも出席している　２　だいたい出席する　３　あまり出席しない
４　まったく出席しない　５　班会は開いていない

（４）通常、班会はどこで開きますか。次から一つ選んで、〇をつけてください。

１　班の代表（班長）の家　２　班の代表（班長）以外の決まった班員の家
３　もちまわりで開く　４　マンション・団地などの集会所
５　生活クラブ生協の施設・地区館　６　公共機関（学校・公民館など）
７　ファミリーレストラン・喫茶店　８　班会は開いていない

（５）班のメンバーの年齢構成は、同世代中心ですか、それとも違った世代から構成されていますか。次から一つ選んで、〇をつけて下さい。

１　同世代中心　２　世代に幅がある　３　わからない

（６）現在、あなたは班に対してどのような印象・イメージをお持ちでしょうか。それぞれの項目について、１～４の番号を一つ選んで〇をつけて下さい。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
1）共通の話題（育児、教育、介護など）を話す場所	1	2	3	4
2）商品や料理などの口コミの場	1	2	3	4
3）困った時には助け合える雰囲気がある	1	2	3	4
4）消費材を配分し、受け取るところ	1	2	3	4
5）生活クラブ生協・支部の活動の情報を収集する場所	1	2	3	4
6）社会の課題や問題を学習する場所	1	2	3	4
7）集団で行動するルールを身につける場所	1	2	3	4
8）ずっと続けていきたいしくみ	1	2	3	4

（７）あなたは今後も生活クラブ生協を利用したいと思いますか。一つ選んで番号に〇をつけて下さい。

1	今後も班で継続的に利用したい	→（８）へお進み下さい
2	戸配への移動を考えている	→（９）へお進み下さい
3	脱退するか迷っている	→（10）へお進み下さい

（８）（７）で「１」と答えた方にお聞きします。生活クラブ生協の班を継続的に利用したいと思われる理由は何ですか。当てはまるものの番号にすべて〇をつけて下さい。

1 品物を配達してもらえるから
2 安全で品質の良い品物が手にはいるから
3 適正な価格の品物が手にはいるから
4 計画的な購入ができるから
5 班の方が 4%の値引きがあるから
6 牛乳の配達の頻度が、戸配よりも多いから
7 主婦の社会参加の場所として魅力があるから
8 生活クラブ生協が行う市民運動に関心があるから
9 仲の良い友人がいるから
10 生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）に賛同するから
11 その他（具体的に：　　）

＝＞（８）を回答後、問９（6 ページ・下）へお進み下さい

（９）（７）で「２」と答えた方にお聞きします。戸配への移動を考えている理由は何ですか。当てはまるものの番号にすべて〇をつけて下さい。

1 ロットを考慮せずに、消費材の注文ができるから
2 集計作業やロットの調整が大変だから
3 配達時間に拘束されないので、自分の生活スタイルに合っているから
4 消費材を分けたり、取りに行ったりすることが大変だから
5 自宅に直接配達してくれるから
6 当番や班長や委員を選出することが大変だから
7 班内での連絡が多いのがわずらわしいから
8 班内のさまざまなつきあいが面倒だから
9 自分が班の役割分担（ロットや班の当番など）を担えないことが心苦しいから
10 家庭内の消費材の消費量が減ったから
11 その他（具体的に：　　）

＝＞（９）を回答後、問９（6 ページ・下）へお進み下さい

（10）（７）で「３」と答えた方にお聞きします。脱退しようと考えている理由は何ですか。当てはまるものの番号にすべて〇をつけて下さい。

1 生活クラブ生協の消費材に魅力を感じない／感じなくなったから
2 生活クラブ生協の組織運営（組合員主権の考え方など）に不満があるから
3 生活クラブ生協内の人間関係に疲弊してしまったから
4 他の業者の方がよいと思ったから
5 複数の生協などに加入して、生活クラブ生協での購入が負担に感じられるようになったから
6 消費材の価格が高く感じられるから
7 生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）についていけないと思ったから
8 家庭内の消費材の消費量が減ったから
9 その他（具体的に：　　）

＝＞（10）を回答後、問９（6 ページ・下）へお進み下さい

問８　問６で３（戸配）と答え方にお聞きします

（１）あなたは最初から戸配の組合員に加入しましたか、以前は班に加入されていましたか。以下から一つ選んで、〇をつけて下さい。

１	最初から戸配の組合員　　→　（２）へお進み下さい	
２	以前は班に所属していたが脱退し、新たに戸配の組合員になった	（３）へお進み下さい
３	班が事情によりなくなり、戸配の組合員になった	
４	班は存続していたが、戸配の組合員になった	

（２）最初から戸配に加入されていた方（問８（１）で１と答えた方）にお聞きします。最初から戸配として加入した理由はなぜですか。当てはまるものの番号にすべて〇をつけて下さい。

１	自宅に直接配達してくれるから	２	自分の生活スタイルに合っているから
３	戸配が、班別共同購入よりも便利だと思ったから	４	班別共同購入のしくみが面倒だから
５	班別共同購入のしくみがよくわからなかったから	６	近くに班がなかったから
７	人づきあいが苦手だから	８	人づきあいが面倒だから
９	戸配は組合員活動をしなくてもよいと思っていたから		
10	その他（具体的に：　　）		

＝＞回答後、（４）へお進み下さい

（３）班から戸配の組合員に変えた方（問８（１）で２～４と答えた方）にお聞きします。その理由はなぜですか。当てはまるものの番号にすべて〇をつけて下さい。

１	ロットを考慮せずに、消費材の注文ができるから
２	集計作業やロットの調整が大変だから
３	配達時間に拘束されないので、自分の生活スタイルに合っているから
４	消費材を分けたり、取りに行ったりすることが大変だから
５	自宅に直接配達してくれるから
６	当番などの役割を引き受けることが大変だから
７	当番や班長や委員を選出することが大変だから
８	班内での連絡が多いのがわずらわしいから
９	班内のさまざまなつきあいが面倒だから
10	班でも良かったのだけれども、班がなくなってしまったから
11	自分が班の役割分担（ロットや班の当番など）を担えないことが心苦しいから
12	家庭内の消費材の消費量が減ったから
13	その他（具体的に：　　）

＝＞回答後、（４）へお進み下さい

（４）あなたは今後も生活クラブ生協の戸配を利用したいと思いますか。以下から一つ選んで、〇をつけて下さい。

１	今後も戸配を継続的に利用したい	→6 ページ（５）へお進み下さい
２	班に移動したい	→6 ページ（６）へお進み下さい
３	脱退するか迷っている	→6 ページ（７）へお進み下さい

（５）（４）で１と答えた方にお聞きします。生活クラブ生協の戸配を継続的に利用したいと思われる理由は何ですか。当てはまるものの番号にすべて〇をつけて下さい。

１　品物を配達してもらえるから	２　安全で品質の良い品物が手にはいるから
３　適正な価格の品物が手にはいるから	４　計画的な購入ができるから

５　生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）に賛同するから
６　生活クラブ生協が行う市民運動に関心があるから
７　その他（具体的に：　　）

（６）（４）で２と答えた方にお聞きします。生活クラブ生協の班に移動したいと思われる理由は何ですか。当てはまるものの番号にすべて〇をつけて下さい。

１　班の方が 4%の値引きがあるから
２　牛乳の配達の頻度が、戸配よりも多いから
３　主婦の社会参加の場所として魅力があるから
４　生活クラブ生協が行う市民運動に関心があるから
５　仲の良い友人を作りたいから
６　生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）に賛同するから
７　その他（具体的に：　　）

（７）（４）で３と答えた方にお聞きします。脱退するか迷っている理由は何ですか。当てはまるものの番号にすべて〇をつけて下さい。

１　生活クラブ生協の消費材に魅力を感じない／感じなくなったから
２　生活クラブ生協の組織運営（組合員主権の考え方など）に不満があるから
３　思っていたよりも便利ではないと思ったから
４　他の業者の方がよいと思ったから
５　複数の生協などに加入して、生活クラブ生協での購入が負担に感じられるようになったから
６　消費材の価格が高く感じられるから
７　生活クラブ生協の考え方（自主運営・自主管理・出資利用運営）についていけないと思ったから
８　その他（具体的に：　　）

問９　あなたは、現在あるいは過去に役職や専門委員、班の代表（班長）などをなさったことがありますか。つかれた役職をすべて選んで番号に〇をつけ、その「のべ年数」を記入してください。

1）理事	年
2）監事	年
3）支部委員長（支部運営委員長）	年
4）消費委員長	年
5）支部委員（支部運営委員）	年
6）消費委員	年
7）その他の委員長（具体的に　　）	年
8）その他の委員　（具体的に　　）	年
9）プロジェクト　（具体的に　　）	年
10）班の代表（班長）	年
10）経験はない	

■生活クラブ生協の消費材、購入活動全般についてお聞きします。

問 10　一ヶ月のおおよその消費材の購入金額は、どのくらいですか。

約　　万円　（例：1 万 5 千円の時は 1.5 万円）

問 11　あなたは、以下にあげた品目を、主にどこで購入されますか。それぞれの品物別に１～６の番号を一つ選んで〇をつけて下さい。

	基本的にいつも生活クラブ生協で購入する	生活クラブ生協で購入することが多い	生活クラブ生協とそれ以外がほぼ同じ	生活クラブ生協以外で購入することが多い	生活クラブ生協以外で購入する	日頃、あまり使わない
1）米	1	2	3	4	5	6
2）味噌	1	2	3	4	5	6
3）しょう油	1	2	3	4	5	6
4）たまご	1	2	3	4	5	6
5）牛乳	1	2	3	4	5	6
6）豚肉	1	2	3	4	5	6
7）魚類	1	2	3	4	5	6
8）半調理品（コロッケなど）	1	2	3	4	5	6
9）トマトケチャップ	1	2	3	4	5	6
10）ソース	1	2	3	4	5	6
11）マヨネーズ	1	2	3	4	5	6
12）ジュース	1	2	3	4	5	6
13）茶	1	2	3	4	5	6
14）お菓子	1	2	3	4	5	6
15）石けん・洗剤	1	2	3	4	5	6

問 12　あなたは、以下に挙げる生活クラブ生協以外の場所で、買い物をしていますか（〇は一つ）。

	よくする	たまにする	あまりしない	ほとんどしない
1）コープさっぽろ	1	2	3	4
2）ポラン広場	1	2	3	4
3）らでぃっしゅぼーや	1	2	3	4
4）自然食品の MOA	1	2	3	4
5）野菜倶楽部	1	2	3	4
6）通販などの産地直送	1	2	3	4

問 13　あなたは、外食・ファーストフード・市販の惣菜、弁当などはどの程度利用していますか。それぞれもっとも近いものに一つ〇をつけて下さい。料理の一部に利用する場合も含めます。

	週に 1 回以上	月に数回	月に 1 回以下	利用しない
1）平日の昼食時	1	2	3	4
2）平日の夕食時	1	2	3	4
3）休日の昼食時	1	2	3	4
4）休日の夕食時	1	2	3	4

問 14　普段の食生活に関して、以下の点は当てはまりますか。それぞれお答え下さい（○はーつ）。

	該当する	やや該当する	あまり該当しない	該当しない
1）おいしい料理や食品にお金をかける	1	2	3	4
2）体によいものは積極的に利用する	1	2	3	4
3）栄養のバランスを配慮して食べる	1	2	3	4
4）多少高くても品質のよいものを選ぶ	1	2	3	4
5）料理にじっくり時間をかける	1	2	3	4
6）食事はコミュニケーションを大事にしたい	1	2	3	4

問 15　あなたは、生活クラブ生協の共同購入や、消費材に満足していますか。それぞれお答え下さい。なお、戸配の方は、3)～7）をお答え下さい（○はーつ）。

	満足している	やや満足している	あまり満足してない	満足してない
1）配達のロット大きさについて	1	2	3	4
2）班内の役割分担について	1	2	3	4
3）配達の頻度について	1	2	3	4
4）月に１回の予約注文について	1	2	3	4
5）消費材の品質について	1	2	3	4
6）消費材の価格について	1	2	3	4
7）消費材の種類について	1	2	3	4

問 16　あなたの日常的な購入態度についてお聞きします。生活クラブ生協に入って、次のようなことを気にかけるようになりましたか。それぞれお答え下さい（○はーつ）。

	加入してから気にかけるようになった	加入する前から気にかけている	加入してもあまり気をつけていない
1）添加物の表示に気をつけている	1	2	3
2）合成洗剤など、環境への負荷が高い商品は買わないようにしている	1	2	3
3）地元で作った商品があれば、なるべくそちらを買うようにしている	1	2	3
4）商品の量に気をつけるようにしている	1	2	3
5）少し値段が高くても質の良い商品を買う	1	2	3
6）修理して使えるものは使う	1	2	3

問 17　普段の生活の中で、あなたは商品やサービスを買う（予約を含む）ためにインターネットを使っていますか。以下から一つ、○をつけて下さい。

1　積極的に利用している	2　時々利用している	3　ほとんど利用しない

問 18　現在、生活クラブ生協では、札幌・釧路以外の方はインターネットから消費材の購入が可能です。仮にすべての人が利用できるようになったら、あなたはどうされますか。一つ○をつけて下さい。

1　利用してみたい	2　利用するつもりはない	3　わからない

■生活クラブ生協に関わる活動についてお聞きします。

問 19　生活クラブ生協の組織運営についてお聞きします。①下表のような生活クラブ生協の組織運営の活動をご存じでしたか。また、②これらの活動に積極的に参加したことがありますか。さらに、③今後こうした活動に参加したいですか。それぞれについて以下の表に〇を記入して下さい。

	①		②	③
	活動を知っていた	活動は知らなかった	積極的な参加経験がある	今後、活動に参加したい
1）地区会				
2）支部大会				
3）拡大活動（戸別訪問）				
4）ちらしまき				

問 20　あなたは、①下表のような生活クラブ生協の活動をご存じでしたか。また、②これらの活動に積極的に参加したことがありますか。さらに、③今後こうした活動に参加したいですか。それぞれについて以下の表に〇を記入して下さい。

	①		②	③
	活動を知っていた	活動は知らなかった	積極的な参加経験がある	今後、活動に参加したい
1）石けん運動				
2）講演会				
3）料理講習会				
4）生産者見学・交流会				
5）まつり				
6）反・脱原発運動（チェルノブイリ・泊原発・幌延問題など）				
7）代理人運動（市民ネットワーク北海道への投票を除く）				
8）グリーン電気料金運動・市民風車				
9）ワーカーズ・コレクティブ				
10）福祉基金				
11）平和を考える活動				

問 21　生活クラブ生協・北海道では、以下の活動を行っていますが、その活動の是非についてどのようにお考えですか。それぞれの項目について１～５の番号を一つ選んで〇をつけて下さい。

	積極的にすべきである	ある程度活動するべき	あまり活動すべきではない	活動するべきではない	活動自体を知らない
1）石けん運動	1	2	3	4	5
2）代理人運動（市民ネットワーク北海道）	1	2	3	4	5
3）福祉事業	1	2	3	4	5
4）共済事業	1	2	3	4	5
5）ワーカーズ・コレクティブの活動	1	2	3	4	5
6）反・脱原発運動（チェルノブイリ原発事故、泊原発、幌延問題など）	1	2	3	4	5
7）グリーン電気料金運動・市民風車	1	2	3	4	5
8）平和を考える活動	1	2	3	4	5

問 22　生活クラブ生協の支部や全体の活動の中で、あなたが今後、期待していたり、希望していたりする活動はありますか。具体的にお書き下さい。ない場合は、「特になし」に〇をつけて下さい。

（　　）

特にない（該当する場合は〇）

問 23　あなたは以下の社会運動、市民運動に関わった経験がありますか。それぞれの社会運動・市民運動ごとに１～４の番号を一つ選んで〇をつけて下さい。

	中心的、継続的な参加経験がある	署名や 1,2 回程度の会合の参加経験がある	参加経験はほとんどない	運動そのものを知らない
1）学生運動	1	2	3	4
2）ベトナム戦争反対運動	1	2	3	4
3）公害反対運動	1	2	3	4
4）合成洗剤追放運動（石けん運動）	1	2	3	4
5）チェルノブイリ原発事故を巡った反原発運動	1	2	3	4
6）泊原発の可否を問う道民投票条例運動	1	2	3	4
7）幌延問題に関する反対運動	1	2	3	4
8）丘珠空港ジェット化反対運動	1	2	3	4
9）千歳川放水路問題に関わる反対運動	1	2	3	4
10）当別ダムに関わる反対運動	1	2	3	4
11）イラク戦争反対運動	1	2	3	4

■生活クラブ生協の活動目的について、あなたのお考えをお聞かせ下さい。

問 24　以下に挙げる、生活クラブ生協の活動に対して、あなたは共感していますか、していませんか。それぞれの項目ごとに１～５の番号を一つ選んで〇をつけて下さい。

	共感する	やや共感する	あまり共感しない	共感しない	わからない
1）素性の確かな安全な消費材を、生産原価方式により、適正な価格で提供する	1	2	3	4	5
2）さまざまな活動を通じて、組合員の交流の場を提供する	1	2	3	4	5
3）さまざまな活動を通じて、現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立てをする	1	2	3	4	5
4）生産者と直接提携して、よりよい消費材を開発する	1	2	3	4	5
5）現代における女性の生き方を考えていく	1	2	3	4	5
6）環境に配慮した地域循環型社会を目指す	1	2	3	4	5

問 25　以下に挙げる、生活クラブ生協の活動は、生活クラブ生協の実際の活動の中で実行されていると思いますか、思いませんか。それぞれの項目ごとに１～５の番号を一つ選んで〇をつけて下さい。

	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	わからない
1）素性の確かな安全な消費材を、生産原価方式により、適正な価格で提供する	1	2	3	4	5
2）さまざまな活動を通じて、組合員の交流の場を提供する	1	2	3	4	5
3）さまざまな活動を通じて、現代の大量消費・廃棄社会に対する異議申し立てをする	1	2	3	4	5
4）生産者と直接提携して、よりよい消費材を開発する	1	2	3	4	5
5）現代における女性の生き方を考えていく	1	2	3	4	5
6）環境に配慮した地域循環型社会を目指す	1	2	3	4	5

■社会に関する一般的な意見や地域生活との関わりについてお聞きします。

問 26　以下のような人々の生き方に関する意見に対して、それぞれどのように思われますか。それぞれの項目ごとに１～５の番号を一つ選んで〇をつけて下さい。

	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	わからない
1）今は、まず個人としての生活の内容を充実していくことが第一で、社会全体や国のことまで考えがまわらない	1	2	3	4	5
2）公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲になってもしかたがない	1	2	3	4	5
3）地域や社会を豊かなものにしていくには、地域の問題や政治にも積極的にかかわっていくべきだ	1	2	3	4	5
4）十分な話し合いをした上で、みんなで決めたことは、基本的にそれを尊重すべきだ	1	2	3	4	5

問 27　どのような人が経済的な豊かさを得るのがよいかという点について、(1）～（4）のような意見があります。この中で、あなたの意見に一番近いと思われるのはどの意見ですか。また、日本社会の現実は、どれに一番近いと思われますか。それぞれ番号でお答え下さい。

経済的な豊かさを得ることに対する４つの意見

1）実績をあげた人ほど多く得るのが望ましい
2）努力した人ほど多く得るのが望ましい
3）必要としている人が必要なだけ得るのが望ましい
4）誰でもが同じくらいに得るのが望ましい

あなたのご意見：

番

日本社会の現実：

番

問 28　あなたは現在住んでいる地域社会に満足していますか。また、積極的に関わろうとされていますか。それぞれの項目ごとに１～５の番号を一つ選んで〇をつけて下さい。

1）お住まいの地域社会に満足しているかどうか	1　満足	2　やや満足	3　やや不満	4　不満	5　わからない
2）お住まいの地域社会に積極的に関わっていきたいかどうか	1　積極的に関わりたい	2　できるだけ関わりたい	3　なるべく関わりたくない	4　全く関わりたくない	5　わからない

問 29　あなたは以下のような、政治・生活・家族・女性・福祉に関する意見に対して、どのようにお考えですか。それぞれの項目ごとに１～５の番号を一つ選んで〇をつけて下さい。

	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	わからない
1）批判ばかりしていても世の中は変わらない	1	2	3	4	5
2）政治や政府は複雑なので、自分は何をやっているのかよく理解できない	1	2	3	4	5
3）自分のような普通の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない	1	2	3	4	5
4）選挙では大勢の人々が投票するので、自分一人くらい投票しなくても影響はない	1	2	3	4	5
5）国会議員は、おおざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	1	2	3	4	5
6）この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである	1	2	3	4	5
7）経済に対する政府の規制はできるだけ少ない方がいい	1	2	3	4	5
8）これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政治を行うべきだ	1	2	3	4	5
9）政府は豊かな人からの税金を増やしてでも、恵まれない人への福祉を充実させるべきだ	1	2	3	4	5
10）今の日本にはリーダーシップを持った政治家が必要だ	1	2	3	4	5
11）今の政党の中には、信頼のおけるものはない	1	2	3	4	5
12）保守か革新かと聞かれれば、私の立場は革新だ	1	2	3	4	5
13）現在と比べて、5 年後の自分の生活は良くなっていると思う	1	2	3	4	5
14）5 年前と比べて、現在の自分の生活は良くなっていると思う	1	2	3	4	5
15）物質的な豊かさよりも、心の豊かさやゆとりのある生活を重視すべきだ	1	2	3	4	5
16）今の生活全般に満足している	1	2	3	4	5
17）一般的にいって、今の世の中は不公平だ	1	2	3	4	5
18）男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5
19）専業主婦は、社会的に大変意義のある存在だ	1	2	3	4	5
20）家族を（経済的に）養うのは男性の役割だ	1	2	3	4	5

	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	わからない
21）女性も、自分自身の職業生活を重視した生き方をするべきだ	1	2	3	4	5
22）子どもが 3 歳くらいまでは、母親は仕事を持たずに育児に専念すべきだ	1	2	3	4	5
23）今の政治を変えるためにはもっと女性が政治にかかわるべきだ	1	2	3	4	5
24）年金に対する負担は、すべての世代が公平に負担すべきだ	1	2	3	4	5
25）高齢者の医療・介護・生活保障は、国や地方自治体の責任ではなく、個人や家族の責任だ	1	2	3	4	5
26）効率性を重視したり、金銭本位的な働き方とは異なった働き方をすべきだ	1	2	3	4	5

■最後に、皆さんご自身についてお聞きします。

以降は、プライバシーに深く関わる質問が多く、ご回答にためらいがあるかもしれませんが、フェースシート項目という、このようなアンケート調査の最も基本的な質問項目です。例えば 40 歳代の女性が 2 割を占めたなど、あくまでも回答者全体の傾向を把握するために必要な項目です。数量的に把握することが目的ですので、個人が特定されることは決してありません。ご理解のほど、お願いいたします。

問 30　現在、あなたと同じ家に暮らしている家族の方は、あなたを含めて全員で何人ですか。

（＿＿＿＿＿＿人）

問 31　現在、同居されているご家族の世帯構成はどのようになっていますか。以下から一つ選んで○をつけて下さい。

1　単身世帯　→　【問 32 にお進み下さい】
2　夫婦のみの世帯　→　【問 32 にお進み下さい】
3　夫婦（あるいは親ひとり）と未婚の子のみの世帯　→【ＳＱ31 にお進み下さい】
4　三世代同居世帯（親と夫婦と子）　→【ＳＱ31 にお進み下さい】
5　その他（具体的に：　　）→【問 32 にお進み下さい】

ＳＱ31　一番、年齢が下のお子さんは、何歳ですか。　＿＿＿＿歳

問 32　あなたが最後にいらっしゃった学校は次の中のどれですか。学生の方は現在の学業を終了した時点での学歴を選んで、番号に○を一つつけて下さい。

1　新制中学（旧制高等小学校、新制中学卒業後の専門学校なども含む）
2　新制高校（旧制中学校なども含む）
3　専門学校（新制高校卒業後に入学したもの）
4　短大・高専（旧制高等学校なども含む）
5　大学（旧制大学も含む）
6　大学院

問 33 あなたは、現在、あなたはどのような形で働いていますか。番号に○を一つつけて下さい。なお、学生の方でアルバイトをしている場合は「学生」を選んでください。

1	自営業主・自由業者・家族従業員	→SQ33 へお進み下さい
2	会社経営者・会社役員	
3	常勤（フルタイム）の雇用者	
4	公務員	
5	団体職員	
6	パートタイマー・臨時雇用者（派遣・契約社員を含む）	
7	ワーカーズ・コレクティブ	
8	学生	→問 34 へお進み下さい。
9	仕事はしていない（専業主婦・退職者など）	

SQ33　問 33 で 1～7 と答えた方に伺います。あなたの仕事はどのような職種ですか。番号に○を一つつけて下さい。

1　農林漁業従事者
2　事務的職業（一般事務、経理事務、企画、営業事務など）
3　販売的職業（小売店主、店員、外交員など）
4　サービス的職業（ウェーター・ウェートレス、理容師、料理人、家政婦、清掃員、運転手など）
5　保安的職業（警官、自衛官、警備員など）
6　生産工程従業者（工場作業、建設作業（大工、とび職）など）
7　専門的職業Ⅰ（研究者、大学教員、医師、弁護士、税理士など）
8　専門的職業Ⅱ（保母、小学校・中学校・高校教員、看護士、栄養士など）
9　専門的職業Ⅲ（著述業、芸術家、デザイナー、カメラマンなど）
10　管理的職業（課長以上の管理職、議員、駅長、局長）
11　NPO・NGO のスタッフ
12　その他（具体的にお願いします：　　）

問 34　あなたは結婚していますか。（婚姻届を出していない事実婚の関係も含みます）（○は一つ）

1	既婚（有配偶）	→ SQ34 へ
2	既婚（離死別）	問 35（15 ページ・下）へ
3	未婚	

SQ34　問 34 で「1」（既婚・有配偶）と答えた方にうかがいます。

（1）あなたの配偶者の年齢はおいくつですか。　＿＿＿＿＿＿歳

（2）あなたの配偶者が最後にいらっしゃった学校は次の中のどれですか。学生の方は現在の学業を終了した時点での学歴を選んで、番号に○を一つつけて下さい。

1　新制中学（旧制高等小学校、新制中学卒業後の専門学校なども含む）
2　新制高校（旧制中学校なども含む）
3　専門学校（新制高校卒業後に入学したもの）
4　短大・高専（旧制高等学校なども含む）
5　大学（旧制大学も含む）
6　大学院

(3) あなたは、現在、あなたはどのような形で働いていますか。番号に○を一つつけて下さい。なお、学生の方でアルバイトをしている場合は「学生」を選んでください。

1	自営業主・自由業者・家族従業員	→（4）へお進み下さい
2	会社経営者・会社役員	
3	常勤（フルタイム）の雇用者	
4	公務員	
5	団体職員	
6	パートタイマー・臨時雇用者（派遣・契約社員を含む）	
7	ワーカーズ・コレクティブ	
8	学生	→問 35 へお進み下さい。
9	仕事はしていない（専業主婦・退職者など）	

(4) (3) で 1～7 と答えた方に伺います。あなたの配偶者の仕事はどのような職種ですか。番号に○を一つつけて下さい。

1 農林漁業従事者
2 事務的職業（一般事務、経理事務、企画、営業事務など）
3 販売的職業（小売店主、店員、外交員など）
4 サービス的職業（ウェーター・ウェートレス、理容師、料理人、家政婦、清掃員、運転手など）
5 保安的職業（警官、自衛官、警備員など）
6 生産工程従業者（工場作業、建設作業（大工、とび職）など）
7 専門的職業Ⅰ（研究者、大学教員、医師、弁護士、税理士など）
8 専門的職業Ⅱ（保母、小学校・中学校・高校教員、看護士、栄養士など）
9 専門的職業Ⅲ（著述業、芸術家、デザイナー、カメラマンなど）
10 管理的職業（課長以上の管理職、議員、駅長、局長）
11 NPO・NGO のスタッフ
12 その他（具体的にお願いします：　　）

問 35　あなたが参加している団体についてお伺いいたします。あなたは次にあげる会や組織に入っていますか？また、加入している場合、積極的（平均して年 4～5 回以上）に活動している会や組織はどれですか。さらに、以前、活動していたことがある会や組織はどれですか。当てはまるものについて○を記入してください。ただし、生活クラブ生協に関連した活動は除きます。

	加入している	積極的に活動している	以前、活動したことがある
1) 自治会・町内会			
2) 労働組合			
3) 業界団体・同業者団体			
4) 政治関係の団体や会（政党・後援会など）			
5) ボランティアのグループ			
6) 生協などの消費者運動、団体			
7) 自然保護・環境保護団体・サークル			
8) その他の市民運動・団体			
9) 宗教や信仰に関する団体・サークル			
10) 学校・PTA・父母会			
11) スポーツ関係のグループやクラブ			
12) 趣味・教養・学習のための団体・サークル			
13) 同窓会・同郷会			
14) その他（具体的に　　）			

問 36　国政選挙について、現在、あなたはどの政党を支持していますか。当てはまるものの番号に一つ〇をつけて下さい。

1	自民党	2	民主党	3	公明党
4	共産党	5	社民党		
6	その他（具体的に：　　）				
7	政治には関心があるが、特に支持する政党はない				
8	政治に関心はなく、特に支持する政党はない				

問 37　あなたがよく読む新聞はどれですか。当てはまるものの番号に、すべてに〇をつけてください。

1　朝日新聞
2　産経新聞
3　日本経済新聞
4　毎日新聞
5　読売新聞
6　北海道新聞
7　その他（具体的にお願いします：　　）
8　特に読む新聞はない

問 38　大変失礼ですが、過去一年間のあなた個人の収入は税込みで次の中のどれに近いでしょうか。当てはまるものの番号に、一つ〇をつけて下さい。なお、臨時収入、副収入も含めてお答えください。

1	なし	2	100 万円未満
3	100 万円～250 万円未満	4	250 万円～500 万円未満
5	500 万円～750 万円未満	6	750 万円～1000 万円未満
7	1000 万円～1250 万円未満	8	1250 万円～1500 万円未満
9	1500 万円以上～1750 万円未満	10	1750 万円～2000 万円未満
11	2000 万円以上		

問 39　大変失礼ですが、過去一年間のお宅（生計をともにしている家族）の収入は税込みで次の中のどれに近いですか（年金、や預貯金の利息・家賃収入や資産所得などを含む）。当てはまるものの番号に、一つ〇をつけて下さい。なお、ほかのご家族の方の収入も含めてお答えください。

1	なし	2	100 万円未満
3	100 万円～250 万円未満	4	250 万円～500 万円未満
5	500 万円～750 万円未満	6	750 万円～1000 万円未満
7	1000 万円～1250 万円未満	8	1250 万円～1500 万円未満
9	1500 万円以上～1750 万円未満	10	1750 万円～2000 万円未満
11	2000 万円～2250 万円未満	12	2250 万円～2500 万円未満
13	2500 万円～2750 万円未満	14	2750 万円～3000 万円未満
15	3000 万円以上		

以上で質問は終わりです。最後に記入漏れがないかご確認の上、封筒にお入れ下さい。
長時間、ご協力いただき、ありがとうございました。

生活クラブ生協に関連する文献リスト　（角一典作成）

・秋山憲治，2004,『誰のための労働か』学文社.
・朝日新聞名古屋社会部，1997,『ドキュメント住民投票　「産廃ノー」御嵩町民の決断』風媒社.
・天野正子，1996,『「生活者」とはだれか　自律的市民像の系譜』中公新書.
・飯尾要，1997,『成熟社会のニードロジー　ニーズ志向社会宣言』日本評論社.
・いいだもも，1986,『赤と緑　社会主義とエコロジズム』緑風出版.
・五十嵐敬喜／天野礼子，2003,『市民事業　ポスト公共事業社会への挑戦』中公新書ラクレ.
・池内信，2004,「生活クラブ北海道と次期中期計画策定における二つの視点」『社会運動』292:34-41.
・池田敦子／中島和子／松谷清，1997,「日本の環境政治Ⅱ　実践の場から」，賀来健輔/丸山仁編『環境政治への視点』信山社，pp.143-175.
・井関正久，2005,『シリーズ・ドイツ現代史Ⅱ　ドイツを変えた68年運動』白水社.
・市川虎彦，1995,「市民派議員～社会的背景とその活動　東京都多摩地方の市議会議員をれいに」『地域社会学会年報』7:207-229.
・伊藤光晴他編，1973,『現代都市政策Ⅱ　市民参加』岩波書店.
・伊藤美登里，2002,「消費者運動から生活者運動へ」，桝潟俊子／松村和則編,『シリーズ環境社会学5　食・農・からだの社会学』新曜社，pp.80-95.
・今井弘道，1996,「二つの公共性とローカルパーティ（上）」『情況』7(7):129-147.
・岩根邦雄，1979,『生活クラブとともに　岩根邦雄半生譜』新時代社.
・岩根邦雄，1993,『新しい社会運動の四半世紀　生活クラブ・代理人運動』協同図書サービス.
・石見尚監修／生活クラブ生協プロジェクトチーム，1988,『いま生活市民派からの提言　アクションプラン・協同組合21』御茶の水書房.
・上野千鶴子，1990,『家父長制と資本制　マルクス主義フェミニズムの地平』岩波書店.
・上野千鶴子／行岡良治，2003,『論争　アンペイドワークをめぐって』太田出版.
・宇沢弘文，2000,『社会的共通資本』岩波新書.
・牛山久仁彦, 2003,「市民運動の変容とNPOの射程」, 矢澤修次郎編『講座社会学15　社会運動』東京大学出版会, pp.157-178.
・牛山久仁彦，2006,「社会運動と公共政策　政策形成における社会運動のインパクトと『協働』政策の課題」『社会学評論』57(2):259-274.
・碓井崧編，1996,『コープこうべ　生活ネットワークの再発見』ミネルヴァ書房.
・碓田のぼる，1998,『無党派＋共産党の時代』かもがわ出版.
・内田正幸／生活クラブ生協連合会『生活と自治』，2003,『こんなモノ食えるか！？　「食」の安全に関する101問101答』講談社文庫.
・内仲英輔／坂東愛彦，1979,『美濃部都政　―その到達点と限界―』朝日新聞社調査研究室社内報告179.
・内橋克人，1995,『共生の大地　新しい経済がはじまる』岩波新書.
・内橋克人，2005,『NHK人間講座　「共生経済」が始まる』日本放送出版協会.
・宇津木朋子，1991,『協同組合基礎理論研究シリーズ第21集　女性の生き方とワーカーズ・コープ　―生協，ワーカーズ・コープ，地域社会づくり―』農林中金総合研究所基礎研究部.
・海野道郎，2000,『日本の階層システム2　公平感と政治意識』東京大学出版会.
・NPOバンクフォーラム実行委員会，2004,『市民が作る「銀行」　第1回NPOバンクフォーラム　～ボランタリー・ファイナンスの可能性～』.
・大窪一志，1994,『日本型生協の組織像　改革のトレンドとキーワード』コープ出版.
・大沢真理編，2007,『生活の協同　排除を超えてともに生きる社会へ』日本評論社.
・大津浩，1990,「代理人運動と主権論　憲法学からみたネットの民主主義論」『社会運動』122:32-53.
・大橋松行，1997,『生活者運動の社会学　市民参加への一里塚』北樹出版.
・大畑裕嗣／成元哲／道場親信／樋口直人編，2004,『社会運動の社会学』有斐閣.
・岡沢憲芙，1988,『現代政治学叢書13　政党』東京大学出版会.

・岡村信秀，2007,『購買生協における新しい協同組合の形成と関連構造　21 世紀型購買生協の考察』広島大学大学院生物圏科学研究科博士学位論文.
・奥田道大，1983,『都市コミュニティの理論』東京大学出版会.
・小野耕二，1996,「『新しい政治』の政治学的分析」『名古屋大学法政論集』166:1-40.
・賀来健輔，1996,「オルタナティヴな政治学への志向　ー『ライブリーポリティクス』論再考」『アルテスリベラレス』58:123-138.
・賀来健輔／丸山仁編，1997,『環境政治への視点』信山社.
・賀来健輔／丸山仁編，2000,『ニュー・ポリティクスの政治学』ミネルヴァ書房.
・賀来健輔／丸山仁編，2005,『政治変容のパースペクティヴ　ニューポリティクスの政治学Ⅱ』ミネルヴァ書房.
・樫田秀樹，2006,『「新しい貯金」で幸せになる方法　あなたの生活を豊かにする「NPO バンク」「匿名組合」のススメ』築地書館.
・角一典，2004,「日常と非日常のはざまで　　社会運動組織の変化」，大畑裕嗣／成元哲／道場親信／樋口直人編,『社会運動の社会学』有斐閣，pp.175-190.
・加藤富子，1985,『都市型自治への転換　政策形成と住民参加の新方向』ぎょうせい.
・神奈川ワーカーズコレクティヴ連合会編，1997,『肩パットをはずした女たち　ウーマンインタビュー集』ゆうエージェンシー.
・金子郁容／松岡正剛／下河辺淳編，1998,『ボランタリー経済の誕生　自発する経済とコミュニティ』実業之日本社.
・蒲島郁夫，1988,『現代政治学叢書 6　政治参加』東京大学出版会.
・鎌田とし子／矢澤澄子／木本喜美子編，1999,『講座社会学 14　ジェンダー』東京大学出版会.
・神谷国弘／中道實編，1997,『都市的共同性の社会学　コミュニティ形成の主体要件』ナカニシヤ出版.
・川口清史／富沢賢治，1999,『福祉社会と非営利・協同セクター　ヨーロッパの挑戦と日本の課題』日本経済評論社.
・川名英之，1989,『ドキュメント日本の公害 3　薬害･食品公害』緑風出版.
・北田暁大，2005,『嗤う日本の「ナショナリズム」』NHK ブックス.
・国広陽子，1995,「地域における『主婦』の政治的主体化　代理人運動参加者のアイデンティティ分析から」『地域社会学会年報』7:121-148.
・国広陽子，2003,『主婦とジェンダー　現代的主婦像の解明と展望』尚学社.
・栗本昭，1987,『先進国生協運動のゆくえ』ミネルヴァ書房.
・グリーンコープ北ブロック，1991,『北ブロック中期計画推進レポートⅠ　生活クラブ生協・北海道　―視察報告―』.
・現代生協論編集委員会編，2005,『現代生協論の探求＜現状分析編＞』コープ出版.
・現代生協論編集委員会編，2006,『現代生協論の探求＜理論編＞』コープ出版.
・河野直践，1998,『産消混合型協同組合　消費者と農業の新しい関係』日本経済評論社.
・河野直践，2005,『食・農・環境の経済学』七つ森書館.
・国民生活センター編，1997,『戦後消費者運動史』大蔵省印刷局.
・国民生活センター編，1999,『戦後消費者運動史　資料編』大蔵省印刷局.
・小塚尚男，1994,『結びつき社会　協同組合　その歴史と理論』第一書林.
・斎藤修，2007,『食料産業クラスターと地域ブランド　食農連携と新しいフードビジネス』農文協.
・斎藤薫，2007,「世代差の視点からみた生協組合員意識についての一考察　2006 年度と 1997 年度の全国調査結果から」『生活協同組合研究』380:47-53.
・斉藤拓男，1999,「『新政党』の変容過程に関する一考察　神奈川ネットワーク運動の分析を通して」『学習院大学大学院政治学研究科政治学論集』12:35-124.
・佐々木毅／金泰昌編，2002,『公共哲学 7　中間集団が開く公共性』東京大学出版会.
・佐々木雅幸，1994,『都市と農村の内発的発展』自治体研究社.
・札幌市教育委員会編，1999,『さっぽろ文庫 91　ごみとリサイクル』北海道新聞社.
・佐藤慶幸，1966＝1991,『新版　官僚制の社会学』文眞堂.
・佐藤慶幸，1991,『生活世界と対話の理論』文眞堂.
・佐藤慶幸，1994,「女性の社会参加　生活クラブ生協からのメッセージを読む」，原ひろ子／大沢真理／丸山真人／山本泰

編,『ライブラリ相関社会学２　ジェンダー』新世社, pp.108-120.
・佐藤慶幸, 1996,『女性と協同組合の社会学　生活クラブからのメッセージ』文眞堂.
・佐藤慶幸, 2007,『アソシエーティブ・デモクラシー　自立と連帯の統合へ』有斐閣.
・佐藤慶幸編, 1985,『生活クラブ生協の組合員の活動と意識に関する調査：日本における自発的結社の実証的研究　文部省科学研究費補助金（一般研究 B）研究成果報告書』.
・佐藤慶幸編, 1986,『生活クラブ生協の活動的組合員の事例的調査』.
・佐藤慶幸編, 1988,『女性たちの生活ネットワーク　生活クラブに集う人びと』文眞堂.
・佐藤慶幸編, 1994,『新しい地域社会づくりのこころみ　コミュニティクラブ生協組合員の意識と実態』.
・佐藤慶幸編, 1996,『福祉社会を担う女性たち　福祉クラブ生協のワーカーズ・コレクティヴ』.
・佐藤慶幸／天野正子／那須壽編, 1995,『女性たちの生活者運動　生活クラブを支える人びと』マルジュ社.
・佐藤慶幸／大屋幸恵／今井千恵／伊藤美登里, 1995,『新しい働き方　女性たちのワーカーズ・コレクティヴ』.
・篠原一, 1977,『市民参加』岩波書店.
・篠原一, 1982,『ポスト産業社会の政治』東京大学出版会.
・篠原一編, 1985,『ライブリー・ポリティクス』総合労働研究所.
・渋谷敦司, 1994,「地域社会研究とジェンダー」『地域社会学会年報』6:89-130.
・社会運動研究会, 1990,「調査研究･中間報告　保谷・生活者ネットワークの運動とその意味　地域における＜生活者＞の政治的主体性の確立過程」『社会運動』127:2-43.
・社会運動研究会, 1992a,「＜新しいまちづくり＞からみた生活者ネットワーク運動」『社会運動』142:2-21.
・社会運動研究会, 1992b,「＜新しいまちづくり＞からみた生活者ネットワーク運動（下）」『社会運動』143:2-23.
・白波瀬佐和子, 2005,『少子高齢社会のみえない格差　ジェンダー・世代・階層のゆくえ』東京大学出版会.
・白鳥令／砂田一郎編, 1996,『現代政党の理論』東海大学出版会.
・末川千穂子, 2001,『虹のメッセージ』かもがわ出版.
・杉原名穂子, 2000,「日本社会におけるジェンダーの再生産」, 宮島喬編,『講座社会学７　文化』東京大学出版会, pp.157-188.
・絓秀実, 2006,『1968 年』ちくま新書.
・鷲見一夫,「『市民新党にいがた』は草の根民主主義の壮大な実験である」『週間金曜日』1995.1.13:24-25.
・住沢博紀, 2002,『自治体議員の新しいアイデンティティ　持続可能な政治と社会的共通資本としての自治体議会』イマジン出版.
・生活協同組合研究編集部編, 2004,『生活協同組合研究　特集：変化する組合員の暮らし　全国生協組合員意識調査を活かすために』2004.2:4-46.
・生活クラブ神奈川“自分史”編集委員会, 1981,『生き方を変える女たち』新泉社.
・生活クラブ生活協同組合・東京, 2005,『第 37 回通常総代会議案書・別冊①　生活クラブ・東京　第 4 次長期計画（案）』.
・生活クラブ生活協同組合・東京, 2005,『第 37 回通常総代会議案書・別冊②　生活クラブ・東京　第 4 次長期計画（案）第 4 章　地域福祉事業の展開について』.
・生活クラブ生活協同組合・東京, 2007,『第 39 回通常総代会議案書Ⅰ』.
・生活クラブ生活協同組合・東京, 2007,『第 39 回通常総代会議案書Ⅱ』.
・生活クラブ生活協同組合・東京, 2007,『第 39 回通常総代会議案書別冊』.
・生活クラブ生活協同組合・東京, 2007,『第 39 回　通常総代会議案書＜別冊データ版＞』.
・生活クラブ生活協同組合北海道, 1985-2004,『通常総代会議案書（各年度）』.
・生活クラブ生活協同組合北海道, 1989,『一万人達成記念誌　いいっしょや生活クラブ』.
・生活クラブ生活協同組合北海道, 1992,『第四次中期 3 年計画　協同組合地域社会を目指して　1992 年～1994 年』.
・生活クラブ生活協同組合北海道, 1995,『第五次中期 3 年計画　協同組合地域社会を目指して　1995 年～1997 年』.
・生活クラブ生活協同組合北海道, 1998,『第六次中期 3 年計画　協同組合地域社会を目指して　1998 年～2000 年』.
・生活クラブ生活協同組合北海道, 2001,『第七次中期 3 年計画　協同組合地域社会を目指して　2001 年～2003 年』.
・生活クラブ生協協同組合北海道, 2002,『生活クラブ生活協同組合創立 20 周年記念誌　20 歳　いつだって輝いていたい』.
・生活クラブ生協協働組合北海道, 2003,『2003 年度委員研修（2003.4.24）　「生活クラブの現在と未来（講師：河野栄次）」』.
・生活クラブ生活協同組合北海道, 2004,『第八次中期 3 年計画　協同組合地域社会を目指して　2004 年～2006 年』.

・生活クラブ生活協同組合北海道，2007,『第九次中期３年計画　共同する地域社会を目指して』.
・生活クラブ事業連合生活協同組合連合会，2007a,『2007 年度　第 18 回生活クラブ連合会通常総会議案書』.
・市民セクター政策機構編，2007b,『国際協同組合研究年次報告書　進化する協同組合が未来をひらく　社会連帯経済と地域再生政策』生活クラブ事業連合生活協同組合連合会.
・生活クラブ生協編，1978,『主婦の生協づくり　十万の主婦・十年の体験』三一書房.
・生活クラブ生協理事会事務局編，1992,『生活クラブってどんなクラブ　協同組合の基本的価値をめぐって』.
・生活クラブ生協連合会編，1995,『シンポジウム「食糧問題と生活協同組合の態度」の記録　食糧自給！生協は何をすべきか』リム出版新社.
・生協労連北海道地方連合会，1985,『生協労働者アンケート集計結果』.
・盛山和夫，2000,『日本の階層システム４　ジェンダー･市場･家族』東京大学出版会.
・第２回全国 NPO バンクフォーラム実行委員会，2005,『2005 年第２回全国 NPO バンクフォーラム報告書　お金に意思を持たせよう』.
・第６回ワーカーズ・コレクティヴ全国会議実行委員会編，2004,『第６回ワーカーズ･コレクティヴ全国会議 in 北海道　働きづくりまちづくり　ワーカーズ･コレクティヴが暖かい地域をつくる』.
・高杉晋吾，1988,『主婦が変われば社会が変わる　ルポ・生活クラブ生協』海鳴社.
・高見優，1996,『市民新党にいがたの挑戦』白順社.
・竹内洋，2003,『教養主義の没落　変わりゆくエリート学生文化』中公新書.
・田中保他，1997,『木曽川を守る　ー岐阜県御嵩町からの発信ー』実践社.
・田中秀樹，1998,『消費者の生協からの転換』日本経済評論社.
・田中夏子，2005,『イタリア社会的経済の地域展開』日本経済評論社.
・田辺繁治／松田素二編，2002,『日常的実践のエスノグラフィ　語り・コミュニティ・アイデンティティ』世界思想社.
・田畑稔／大藪龍介／白川真澄／松田博編，2003,『アソシエーション革命へ　理論・構想・実践』社会評論社.
・たまごの会編，1979,『たまご革命』三一書房.
・近本聡子，2007,「女性の就労と生協組合員の状況」『生活協同組合研究』379:48-53.
・筑紫哲也編，2001,『＜政治参加＞する７つの方法』講談社現代新書.
・地方議員政策研究会，1998,『地方から政治を変える』コモンズ.
・辻山幸宣，2000,「市民事業の担い手に関する一考察　ワーカーズ・コレクティヴ調査から」『法学新報』107:29-43.
・坪内祐三，2003＝2006,『一九七二　「はじまりのおわり」と「おわりのはじまり」』文春文庫.
・坪郷實，1989,『新しい社会運動と緑の党　福祉国家のゆらぎの中で』九州大学出版会.
・坪郷實, 2003,「地域政治の可能性」, 坪郷實編,『新しい公共空間をつくる　市民活動の営みから』日本評論社, pp.207-236.
・坪郷實編，2003,『新しい公共空間をつくる　市民活動の営みから』日本評論社.
・電通マーケティング局／電通総研，1990,『戦略的生活者　これからの市場を作る新集団パワー』プレジデント社.
・東京生活者ネットワーク／東京の水を考える会, 1990,『どうなっているの？東京の水　市民の手による水白書』北斗出版.
・土橋臣吾，2006,「家庭・主婦・ケータイ　―ケータイのジェンダー的利用―」，松田美佐／岡部大介／伊藤瑞子編,『ケータイのある風景　テクノロジーの日常化を考える』北大路書房，pp.181-199.
・鳥越皓之編，2000,『シリーズ環境社会学１　環境ボランティア・NPO の社会学』新曜社.
・仲井斌，1986,『緑の党　―その実験と展望―』岩波書店.
・永井清彦，1983,『緑の党　新しい民主の波』講談社現代新書.
・中川雄一郎編，2000,『生協は 21 世紀に生き残れるのか　コミュニティと福祉社会のために』大月書店.
・中村剛，2000,『生活者が政治を変える可能性　市民ネットワーク北海道の分析を通して』1999 年度北海道大学大学院法学研究科リサーチペーパー.
・中村陽一，1990,「さくら・市民ネットにとっての清田選挙」『社会運動』122:15-31.
・中村陽一／21 世紀コープ研究センター編，2004,『21 世紀型生協論　生協インフラの社会的活用とその未来』日本評論社.
・那須尋編，1991,『生活クラブ生協に関する調査と考察』.
・那須尋編，1993,『生活者ネットワークに関する調査と考察』.
・新潟日報報道部編，1997,『原発を拒んだ町　巻町の民意を追う』岩波書店.

・西尾孝明，1989,「西欧社民の経験踏まえて連合を　求められる『生活者政治』の視点」『エコノミスト』1989.10.23:78-84.
・西城戸誠，2002,『抗議活動の盛衰に関する実証的研究　構造的・文化的アプローチからの展開』北海道大学大学院文学研究科博士学位論文.
・西城戸誠，2004,「ボランティアから反戦運動まで　社会運動の目標と組織形態」，大畑裕嗣／成元哲／道場親信／樋口直人編,『社会運動の社会学』有斐閣，pp.77-93.
・西城戸誠／角一典，2005,「生活クラブ生協再考　―生活クラブ生協の「衰退」をめぐる仮説群の整理―」『京都教育大学紀要』107:73-90.
・西城戸誠／角一典，2006,「転換期における生活クラブ生協運動の現状と課題　生活クラブ生協北海道を事例として」『現代社会学研究』19:21-40.
・西村一郎，2005,『雇われないで働くワーカーズという働き方』コープ出版.
・西山志保，2005=2007,『〔改訂版〕ボランティア活動の論理　ボランタリズムとサブシステンス』東信堂.
・仁平典宏，2005,「ボランティア活動とネオリベラリズムの共振問題を再考する」『社会学評論』56(2):485-499.
・日本生活協同組合連合会編,『生協運営資料　特集：組合員活動と専従者の役割』『生協運営資料』115:63-137.
・日本生活協同組合連合会，2001,『現代日本生協運動史・資料集1～3』日本生活協同組合連合会.
・日本生活協同組合連合会，2002,『現代日本生協運動史（上・下）』日本生活協同組合連合会.
・日本生活協同組合連合会，2003,『2003年度全国生協組合員意識調査報告書』.
・日本生活協同組合連合会会員支援本部，2005,『生協の経営統計〈2004年度〉』コープ出版.
・萩原なつ子，2001,「ジェンダーの視点で捉える環境運動　エコフェミニズムの立場から」，長谷川公一編,『講座環境社会学4　環境運動と政策のダイナミズム』有斐閣，pp.35-64.
・畑山敏夫／山田達也，1995,「対談　地域政党、出発！」『世界』606:100-112.
・畑山敏夫／平井一臣編,『実践の政治学』法律文化社.
・林和孝，2003,「福祉ボランタリズムがつくる新しい関係とは」，坪郷實編,『新しい公共空間をつくる　市民活動の営みから』日本評論社，pp.129-155.
・パル80倶楽部，2007,『100万人の人間力　パルシステム急成長の舞台裏』彩雲出版.
・番場博之／千葉商科大学生協編，2007,『生協の本　国内最大級の流通業についてみんなが知りたいこと』コープ出版.
・樋口兼次，2005,『労働資本とワーカーズ・コレクティヴ』時潮社.
・広井良典，2001,『定常型社会　新しい「豊かさ」の構想』岩波新書.
・広井良典，2006,『持続可能な福祉社会　「もうひとつの日本」の構想』ちくま新書.
・廣島清志，1999,「結婚と出生の社会人口学」，目黒依子／渡辺秀樹編,『講座社会学2　家族』東京大学出版会，pp.21-57.
・福士正博，2001,『市民と新しい経済学　環境・コミュニティ』日本経済評論社.
・福祉クラブ生活協同組合編，2005,『ワーカーズコレクティヴ　地域に広がる福祉クラブの助け合い』中央法規.
・藤井敦史，1996,「ニューポリティクス的な運動政党としての代理人運動」『社会運動』192:2-20.
・北海道NPOバンク編，2007,『NPOバンクを活用して起業家になろう！　組織作りから資金調達まで』昭和堂.
・北海道NPOバンク／NPOバンク事業組合，2004,『おしえて！NPOバンク』.
・北海道NPOバンク／NPOバンク事業組合，2006,『NPOバンク関連掲載記事』.
・北海道グリーンファンド監修，1999,『グリーン電力　市民発の自然エネルギー政策』コモンズ.
・本阿弥早苗，2007,「パルシステム発　地域へ　―アクティブシニアと生協の未来―」『生活協同組合研究』378:31-37.
・本田由紀編，2004,『女性の就業と親子関係　母親たちの階層戦略』勁草書房.
・前田陽子，2000,「鎌倉市における緑地保全と市民活動」『環境社会学研究』6:217-220.
・桝潟俊子／松村和則編，2002,『シリーズ環境社会学5　食・農・からだの社会学』新曜社.
・松浦恵理子，2004,「生活クラブ福祉事業交流会報告　地域の力でつくり出す市民事業と福祉政策」『社会運動』290:67-71.
・松下圭一，1990,『政策型思考と政治』東京大学出版会.
・松原治郎，1978,『コミュニティの社会学』東京大学出版会.
・松宮朝，2001a,「『内発的発展』概念をめぐる諸問題　内発的発展論の展開に向けての試論」『愛知県立大学社会福祉研究』3(1):45-54.
・松宮朝，2001b,「農村地域における『内発的発展』の実証的アプローチ　北海道道央大規模水田地帯を事例として」『愛知

県立大学社会福祉研究』3(2):33-49.
・松谷清，「ローカル・パーティが地方を変える」『週間金曜日』1995.1.13:26-27.
・丸山仁，1988,「西独政党システムと『緑の党』(一)　グリーン・ポリティクスの方へ」『名古屋大学法政論集』122:137-201.
・丸山仁，1989,「西独政党システムと『緑の党』(二)　グリーン・ポリティクスの方へ」『名古屋大学法政論集』124:379-427.
・丸山仁，1991,「新しい社会運動と『緑』の政党　グリーン・ポリティクスの方へ」『名古屋大学法政論集』136:1-44.
・丸山仁，1993,「オルタナティブ政党としての緑の党　グリーン・ポリティクスの方へ」『名古屋大学法政論集』146:103-150.
・丸山仁，1997,「『新しい政党』と政党論の新展開」『アルテスリベラレス』60:167-195.
・丸山仁，2004,「社会運動から政党へ？　ドイツ緑の党の成果とジレンマ」，大畑裕嗣／成元哲／道場親信／樋口直人編,『社会運動の社会学』有斐閣，pp.197-212.
・三浦展，2005,『下流社会　新たな階層集団の出現』光文社新書.
・道場親信，2004,「初期生活クラブ運動における『地域』『社会運動』『政治』」『社会運動』286:6-16.
・道場親信，2006,「1960-70 年代『市民運動』『住民運動』の歴史的位置　中断された『公共性』論議と運動史的文脈をつなぎ直すために」『社会学評論』57(2):240-258.
・宮台真司，1994,『制服少女たちの選択』講談社.
・宮台真司／石原英樹／大塚明子，1993,『サブカルチャー神話解体　少女・音楽・マンガ・性の 30 年とコミュニケーションの現在』パルコ出版.
・牟田和恵，2006,「フェミニズムの歴史からみる社会運動の可能性　『男女共同参画』をめぐる状況を通しての一考察」『社会学評論』57(2):292-310.
・目黒依子，1999,「総論　日本の家族の『近代性』　変化の収斂と多様化の行方」，目黒依子／渡辺秀樹編，1999,『講座社会学２　家族』東京大学出版会 pp.1-19.
・目黒依子／渡辺秀樹編，1999,『講座社会学２　家族』東京大学出版会.
・森元孝，1994,「池子米軍家族住宅建設反対運動に見る今日の＜転換点＞　一九八七年市長選後の面接調査結果から」『地域社会学会年報』6:133-166.
・森元孝，1995,『逗子の市民運動』御茶の水書房.
・森元孝，2000,「“普通の主婦”と環境ボランティア　逗子の市民運動から」，鳥越皓之編,『シリーズ環境社会学１　環境ボランティア・NPO の社会学』新曜社，pp.62-80.
・矢澤修次郎編，2003,『講座社会学 15　社会運動』東京大学出版会.
・矢澤澄子，1996,「現代都市と女性のエンパワーメント　都市・ジェンダー・権力の組織化をめぐって」『経済と社会』24:1-27.
・矢澤澄子，1999,「女たちの市民運動とエンパワーメント　ローカルからグローバルへ」，鎌田とし子／矢澤澄子／木本喜美子編,『講座社会学 14　ジェンダー』東京大学出版会，pp.249-289.
・矢澤澄子編，1993,『都市と女性の社会学　ー性役割の揺らぎを超えてー』サイエンス社.
・矢澤澄子／国広陽子／伊藤真知子，1992,「都市女性と政治参加のニューウェーブ　NET 代理人運動の調査から」『経済と貿易』161:1-33.
・矢澤澄子／国広陽子，1996,「生活圏政治とジェンダー　代理人運動参加者とその夫たちの調査から」『東京女子大学紀要論集』47(1):97-121.
・矢澤澄子／国広陽子／天童睦子，1999,「現代の父親の子育て意識と『父親アイデンティティ』　30 代～40 代の父親のライフスタイル調査から」『経済と社会』27:17-40.
・山北章，1983,「≪生活者政治」の試み　長洲神奈川県政の軌跡」『現代の理論』36(5):32-46.
・山嵜哲哉，1996,「女性の政治参画と＜生活者政治＞の可能性　その 1．女性市区議会議員の現状（前編）」『武蔵大学人文学会雑誌』27(3):105-126.
・山田達也，「『地域政党』の動向」『都市問題』85(7):57-67.
・山田昌弘，2004=2007,『希望格差社会　「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』ちくま文庫.
・山田真茂留，2000,「若者文化の析出と融解　文化志向の終焉と関係嗜好の高揚」，宮島喬編,『講座社会学 7　文化』東京大学出版会，pp.21-56.
・行岡良治，2002,『食べもの運動論』太田出版.
・行岡良治，2004,『しなやかな生協への挑戦　続・食べもの運動論』太田出版.

・横田克巳，1988,『自治総研ブックレット 7　都市生活者のオルターナティヴ　共同購入運動とワーカーズコレクティブ』地方自治総合研究所.
・横田克巳，1989,『オルタナティブ市民社会宣言　もうひとつの「社会」主義』現代の理論社.
・横田克巳，1992,『参加型市民社会論』現代の理論社.
・横田克巳，2002,『愚かな国の、しなやか市民　女性たちが拓いた多様な挑戦』ほんの木.
・横山桂次，1990,『地域政治と自治体革新』公人社.
・吉田寛一／渡辺基／大木れい子／西山泰男編，2006,『食と農を結ぶ協同組合』筑波書房.
・寄本勝美編，2001,『公共を支える民　市民主権の地方自治』コモンズ.
・渡辺登，1990,「さくら・市民ネットワークの形成と現状」『社会運動』122:2-14.
・渡辺治，1991,「地方政治における『生活者政治』の可能性　―『代理人』運動の分析を通して―」『都市問題』82(10):71-87.
・渡辺治，1995,「『生活者政治』の現状とその意味　代理人運動の分析から」『都市問題』86(7):69-82.

・Albert, M., 1991, Capitalisme contre Capitalisme, Seuil, Paris.（＝久水宏之監修／小池はるひ訳，1992,『資本主義対資本主義』竹内書店新社）
・Barry,J., 1999, *Rethinking Green Politics*, SAGE, London.
・Beck,U., 1986, Risikogesellschaft Auf dem Weg in eine andere Moderne, Shurkamp.（＝東廉／伊藤美登里訳，1998,『危険社会　新しい近代への道』法政大学出版局）
・Beck,U., 1997, Weltrisikogesellschaft: Weltoffentlchkeit und Globale Subpolitik, Picus Verlag, Wien.（＝島村賢一訳, 2003,「世界リスク社会、世界公共性、グローバルなサブ政治」『世界リスク社会論　テロ、戦争、自然破壊』平凡社，pp.19-63.）
・Beck,U., 2002, Das Schweigen der Worter: Uber Terror und Krieg, Suhrkamp, Frankfurt a. M.　（＝島村賢一訳，2003,『世界リスク社会論　テロ、戦争、自然破壊』平凡社，pp.65-141.）
・Berger,S., 1979, Politics and Antipolitics in Western Europa in the Seventies, *DAEDARUS* 108:27-50.
・Bourdieu, P., et Passeron, J. C., 1970, *La Reproduction: Elements pour une Theorie du Systeme D'enseignement*, Minuit, Paris.（＝宮島喬訳，1990,『再生産』藤原書店）
・Chandler, W.M., & Siaroff, A., 1985, Postindustrial Politics in Germany and the Origins of the Greens, *Scandinavian Journal of development Alternatives* 4(1):303-325.
・Chaves, M., Stephens L. and Galaskiewicz, J., 2004, Does Government Funding Suppress Nonprofits' Politicl Activity?, *American Sociological Review* 69(2):292-316.
・ Dahrendorf,R., 1992, *Der Moderne Soziale Konfrikt: Essay zur Politik der Freiheit*, Deutsche Verlags-Anstalt; Stuttgart.（＝加藤秀治郎／檜山雅人訳，2001,『現代の社会紛争』世界思想社）
・ Dobson, A., 1990=1995, Green Political Thought (2nd edition), Unwin Hyman, Lomdon.（松野弘監訳／来栖聡／池田寛二／丸山正次訳，2001,『緑の政治思想　エコロジズムと社会変革の理論』ミネルヴァ書房）
・ Ebermann, T. and Trampert, R., 1984, Die Zukunft der Grunen, Konkret Literature, Hamburg.（田村光彰他訳，1994,『ラディカル・エコロジー　ドイツ緑の党原理派の主張』社会評論社）
・Gorz,A., 1967, *Le Socialisme Difficile*, Seuil, Paris.（上杉聰彦訳，1969,『困難な革命』合同出版）
・Hay, P.R., and Haward M.G., 1988, Comparative Green Politics; Beyond the European Context?, *Political Studies* 36:433-448.
・Hirschman, A.O.,1982, *Shifting Involvements; Private Interest and Public Action*, Princeton University Press, New Jersey.（＝佐々木毅／杉田敦訳，1988,『失望と参画の現象学　私的利益と公的行為』法政大学出版局）
・Illich, I., 1981, Shadow Work, Marion Boyers, London.（＝玉野井芳郎／栗原彬訳，1982,『シャドウ・ワーク　生活のあり方を問う』岩波現代選書）
・ Kriesi,H.,R.Koopmans,J.W.Duyvendak,M.G.Giugni, 1992, New Social Movements and Political Oppotunities in Western Europa, *Europian Journal of Political Research*　22:219-44.
・Kriesi,H., 1996, The Organizational Structure of New Social Movements in a Political Contexts, McAdam,D. and McCarthy,M.N.Zald(eds.),*Comparative Perspective on Social Mpvements: Political Oppotunities,Mobiliising Structures and Cultural Framings,*Cambridge pp.152-184.

・Kunovich, S., & Paxton, P., Pathways to Power :The Role of Political Parties in Women's National Political Representation, *American Journal of Sociology* 111(2):505-552.
・Les Verts, 1999, *Le Nouveau Livre du Verts*, Felin, Paris.（＝真下俊樹訳，2001,『緑の政策事典』緑風出版）
・Les Verts, 2002, *Reconstuire l'espoir ! En Vert et a gauche: L'ecologie, l'egalite, la citoyennete*, Aube, Paris.（＝若森章孝／若森文子訳，2004,『緑の政策辞典』緑風出版）
・Lipietz, A., 1993, *Vert Esperance; L'avenir de L'ecologie Politique*, La Decouverte, Paris.（＝若森章孝／若森文子訳，1994,『緑の希望　政治的エコロジーの構想』社会評論社）
・Marwell, N.P., 2004, Privatizing the Welfare State: Nonprofit Community Organizations as Political Actors, *American Sociological Review* 69(2):265-291.
・McAdam,D. and McCarthy, M.N.Zald (eds.), 1996, *Comparative Perspective on Social Movements: Political Oppotunities, Mobiliising Structures and Cultural Framings,* Cambridge.
・Mellor,M.,Hannah,J.,Stirling,J., 1988, *Worker Cooperatives in Theory and Practice*, Open University Press, Milton Keynes.（＝佐藤紘毅／白井和宏訳，1992,『ワーカーズ・コレクティヴ　その理論と実践』緑風出版）
・Muller-Rommel,F., 1989, *New Politics in Western Europa: The Rise and Success of Green Parties and Alternative Lists*, Westview Press: Boulder.
・Pranjer,R.J., 1968, *The Ecripse of Citizenship: Power and Participation in Contemporary Politics*"（＝佐藤/橋/肥田/山口訳，1972,『現代政治における権力と参加』勁草書房）
・Putnam,R.D.,1993,*Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton University Press, New Jersey.（＝河田潤一訳，2001,『哲学する民主主義　伝統と改革の市民的構造』NTT 出版）
・Spretnak,C. and Capra, F., 1984, *Green Politics*, Paladin, London.（＝吉福伸逸／田中三彦／鷲田栄作訳，1992,『新装版　グリーン・ポリティクス　緑の政治学』青土社）
・Touraine,A,. 1978, *La voix et le regard: Sociologie permanente 1*, Seuil, Paris.（＝梶田孝道訳，1983,『声とまなざし　社会運動の社会学』新泉社）
・Touraine,A,. 1980, *L'Après-Socialisme*, Grasset et Fasquelle, Paris.（＝平田清明／清水耕一訳，1982,『ポスト社会主義』新泉社）
・Wagschal,H., 1997, Direct Democracy and Public Policymaking, *Journal of Public Policy* 17(3):223-245.